

茨木市所在

総持寺遺跡

——住宅都市整備公団仮称茨木・三島丘地区住宅建設事業に伴う発掘調査——

奈良・平安時代、鎌倉時代の集落跡の調査

1998. 3.

財団法人 大阪府文化財調査研究センター

茨木市所在

総持寺遺跡

—— 住宅都市整備公団仮称茨木・三島丘地区住宅建設事業に伴う発掘調査 ——

奈良・平安時代、鎌倉時代の集落跡の調査

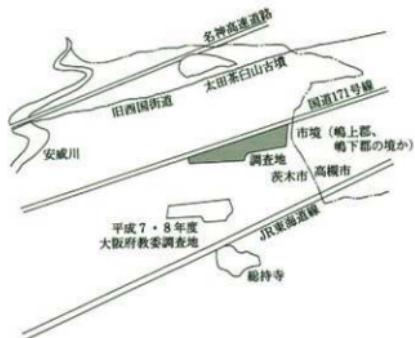
1998. 3.

財団法人 大阪府文化財調査研究センター

巻頭図版 1



調査地遠景



卷頭図版 2

土壙墓 23660 烏帽子と刀出土状況



巻頭図版 3



土壙墓 22510 と出土青磁碗



355

卷頭図版 4



土壙墓24760と出土青磁碗



509

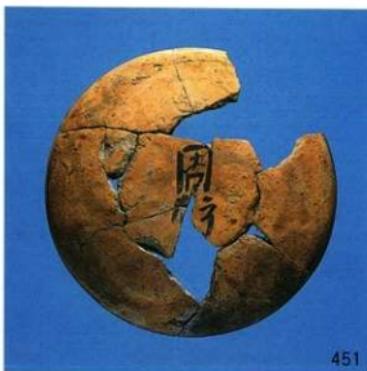
卷頭図版 5



◀ 柱穴 21091 出土



井戸 22280 出土 ▶



◀ 井戸 23658 出土

序 文

総持寺および三島丘の地は、その地名の由来ともなる総持寺が、西国三十三箇所観音霊場の第二十二番目の札所として関西一円はもとより、全国から厚き信仰の対象として参拝を受けつづけてきたところから、古よりあまねく世に知られてきた。

当地の北側には、北摂では高槻市の今城塚古墳と並ぶ大型前方後円墳であり、5世紀の大王級の墓と目される太田茶臼山古墳が近接する。また、周辺には古代官衙である嶋上郡衙跡、飛鳥時代創建の太田庵寺、中臣鎌足の廟があったのではないかと伝承される大職冠山などが位置し、古代の摂関家藤原氏関係の莊園も点在する。先の総持寺においても藤原山陰創建の縁起を持ち、これらの氏族とゆかりの深い地域と考えられている。このように当地は、いわば隠れた歴史の宝庫といえよう。

よって、当財团法人大阪府文化財調査研究センターにて、このように由緒ある地に埋蔵文化財の観点から発掘調査を行なえたことは大きな喜びを感じるところである。

はたして、今回の調査において古代および中世の集落跡を検出することができた。

古代の集落跡については、特に奈良時代後半から平安時代前半を中心とした100棟ほどの掘立柱建物が検出された。大阪府下において、これほど多くの古代の掘立柱建物跡を検出したことは希有であり、今後の古代集落の研究に活用されるべきまとった資料が提示できたと思われる。

また、中世の集落跡は鎌倉時代にその盛衰を認めることができる。集落を構成する掘立柱建物群は土壇墓を近接させていた。中国製龍泉窯系青磁碗や小刀を伴った土壇墓も存在したが、特筆すべきは烏帽子を埋納した墓坑が3基並列して見つかったことである。

大阪府下の遺跡においては、泉佐野市の漆遺跡の土壇墓について2件目であり、同時に3基が検出されたことは全国でも初めてであろう。中世の集落、墓制の研究のみならず、服飾史研究にも一石を投じんことを願っている。

上述のごとき多様な調査成果が今後、各種の研究および、地域の活性化に生かされることを切に望むものである。

最後に、このような大きな調査成果をあげられたことについては、ひとえに、大阪府教育委員会、住宅・都市整備公団、茨木市教育委員会、高槻市教育委員会および地元自治会はじめ関係各位のご教示、ご協力のおかげであることはいうまでもなく、厚くお礼申し上げるとともに、今後とも当財團法人大阪府文化財調査研究センターに対しさらなるご支援をお願いする。

平成10年3月

財團法人 大阪府文化財調査研究センター

理事長 坪井清足

例　　言

1. 本書は住宅・都市整備公団による住宅建設事業に伴い実施した総持寺（そうじじ）遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査地は、大阪府茨木市三島丘（いばらきしみしまおか）二丁目地内に所在する。
3. 調査は住宅・都市整備公団による住宅建設事業に伴い、同公団の委託を受け大阪府教育委員会の指導のもとに、財団法人大阪府埋蔵文化財協会、財団法人大阪府文化財調査研究センターが実施した。
4. 調査は平成6年11月1日から平成7年10月31日までと平成7年11月1日から平成9年3月31日の2回に分けて行なわれた（本書では以後、1回目の調査を1次調査、2回目の調査を2次調査と呼称して記述する。）。当初は財団法人大阪府埋蔵文化財協会が調査を行なった。平成7年4月1日に同協会と、財団法人大阪文化財センターが統合し、新たに財団法人大阪府文化財調査研究センターが設立されたことにより、同調査研究センターが調査を引き継ぎ終了した。遺物整理作業および本書作成作業は平成9年4月1日から平成10年3月31日に行なわれた。

各調査担当者の調査期間は以下のとおりである。

西川寿勝	1次調査（平成6年11月1日～平成7年3月31日）
秋山浩三	1次調査（平成7年4月1日～平成7年10月31日）
久家隆芳	1次調査（平成7年4月1日～平成7年10月31日） 2次調査（平成7年12月5日～平成8年6月30日）
岡本圭司	2次調査（平成7年12月5日～平成9年3月31日）
長原亘	2次調査（平成8年7月1日～平成8年8月31日）

6. 遺物整理は主に岡本が行ない、秋山、久家がこれを補佐した。遺物の写真撮影は平井貞子が行なった。調査により出土した木製品、鉄製品および鳥帽子の保存修復作業は山口誠治、野田繁が行なった。
7. 本文の執筆については主に岡本が行なった。第3章第3節1. 1地区の概要～2. 4地区的概要については秋山が、第3章第4節2. 2地区～3. 3地区の一部および、第5章第2節は久家が執筆した。本書の編集は岡本が行なった。そのほか、考察等については付章をもうけ記載した。
8. 本調査では委託による各種の自然科学分析を行なった。その成果については第4章で掲載した。
9. 調査の実施にあたっては住宅・都市整備公団関西支社、茨木市教育委員会および地元関係各位の協力を得た。

10. 柱穴21091出土墨書土器解説については奈良大学学長水野正好先生に依頼し、ご教示を賜わった。
11. 2次調査における石材鑑定を京都教育大学教授井本伸廣先生に依頼し、ご教示を賜わった。
12. 井戸23876出土の犬骨の鑑定については大阪府立弥生文化博物館学芸員宮崎泰史氏に依頼し、ご教示を賜わった。
14. 瓦器椀の一部については高槻市立埋蔵文化財センター橋本久和氏に型式および絶対年代の御教示を賜わった。
15. 烏帽子出土一覧表は中町教育委員会宮原文降氏が収集された資料をもとに作成した。
16. 調査および整理の助言を当調査研究センター職員と上記の方々から得たほか、以下の方々の援助、ご教示も賜わった。記して感謝します。

有井宏子（大阪府教育委員会）、阿部幸一（大阪府教育委員会）、井西貴子（大阪府教育委員会）、岩崎仁志（山口県教育庁）、上田秀夫（山口県立萩美術館・浦上記念館）、上田睦（藤井寺市教育委員会）、梅本康広（財団法人向日市埋蔵文化財センター）、大塚隆（名神高速道路内遺跡調査会）、奥和之（大阪府教育委員会）、奥井哲秀（茨木市教育委員会）、仮屋喜一郎（泉南市教育委員会）、河内一浩（羽曳野市教育委員会）、北野信彦（財団法人元興寺文化財研究所）、金田章裕（京都大学）、高正龍（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）、古賀信幸（山口市教育委員会）、斎藤秀一（武生市教育委員会）、酒井泰子（大阪府教育委員会）杉山信一（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）、鈴木泰治（財団法人柄木県文化財振興事業団埋蔵文化財センター）、鈴木陽一（泉佐野市教育委員会）、辻裕司（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）、橋本高明（大阪府教育委員会）、濱野俊一（茨木市教育委員会）、藤沢真依（大阪府教育委員会）、松岡良憲（大阪府教育委員会）、松村隆文（大阪府教育委員会）、三木弘（大阪府教育委員会）、三宅正浩（大阪府近つ飛鳥博物館）、宮崎康雄（高槻市立埋蔵文化財センター）、宮脇薰（茨木市教育委員会）、免山篤（茨木市研究調査会）、森村健一（堺市教育委員会）、森屋直樹（大阪府教育委員会）、山上弘（大阪府教育委員会）、山口耕一（財団法人柄木県文化財振興事業団埋蔵文化財センター）、山本彰（大阪府教育委員会）（敬称略、50音順）
17. 出土した遺物、作成した図面、撮影した写真等については当センターにて保管している。広く利用されたい。

凡 例

1. 調査では遺構番号は1次調査、2次調査ともに1番からの番号を振っている。よって本書中に同一の遺構番号が存在することを避けるため、遺構番号は1次調査、2次調査ともに本来の遺構番号が千番台で終わることから、1万番台からを1次調査、2万番台からを2次調査の遺構番号として記載している。なお、若干の遺構については同じ番号が重複したものもあるため、これらについては枝番号を付けて対応した。
2. 本書の遺物に付記された遺物番号は通し番号であり、本文、挿図、表、写真図版における番号と一致している。
3. 本書において使用した方位は国土座標第VI系を使用している。国土座標北は真北方向へ $0^{\circ}14'14''$ 、3978東へ、磁北方向は $6^{\circ}40'$ 西へ振る位置関係にある。また調査区のほぼ中央にあたる6 A 21 I A の杭 ($X = -129.432000\text{km}$, $Y = -38.000000\text{km}$) の地点は北緯 $34^{\circ}49'56''$.8273, 東経 $135^{\circ}35'04''$.1674である。なお、本書の座標のX軸、Y軸の単位は省略しているが、すべてkm表示である。
4. 標高はT.P.（東京湾標準潮位）で表示しているが、本書ではT.P.+を省略している。
5. 本書で使用している地区割り方法およびその標示については、第1章第2節「調査の方法」の中で記述している。
6. 挿図中の溝断面位置については平面図である付図2、3に記載している。これら付図との対応関係は溝断面図にアルファベットで記載している。
7. 土色、土器色の記述は小川正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帳16版』（1995年）によるが、染付の具須等、同書では扱いきれないものについては日本色研『標準色カード230』（1988年）（株）トンボ鉛筆『IROJITE N色名一覧表』で補完した。
8. 遺構の位置についてはその所在する地区を記した。ただし遺構が3つ以上の地域にまたがる場合は中央の地区を記述し、「6A16WV近辺に位置する。」などと記した。そのほか、溝等多くの地域にまたがるものについては「5D24YW～5D25YGに位置する。」などと記した。なお、前後の文章の関係で位置の確認できる遺構の中には4m区画による標示を省略したものもある。
9. 掘立柱建物については一覧表と付図を作成しているが、代表的な建物については縮尺1/100で本文中に記載している。

10. 遺物の出土地点、法量、色調、製作手法などは遺物観察表に記載している。
11. 遺物実測図の縮尺は1/4を基調として記載したが、青磁碗、古錢等遺物の一部については細部を表現すべく縮尺を変更している。詳しくは挿図中のスケールによられたい。
12. 土器実測図の断面は黒く塗りつぶしたが、石器、鉄製品は白く抜き、瓦は斜線、鉛玉は縦綱をいれている。黒色土器外面の黒色部分は網目で表現した。木製品は観察できるか、もしくは想定が可能なかぎり木目を表現した。
13. 遺構平・断面図中におけるゴシック体の数字は本文、遺物実測図および遺物観察表中の遺物番号と合致する。
14. 土器の器種分類、名称については以下の文献を参照した。

大阪府教育委員会「陶邑」Ⅲ『大阪府文化財調査報告書』第30号 1978
奈良国立文化財研究所「平城宮発掘調査報告」VI 奈良国立文化財研究所学報』第23冊 1975
奈良国立文化財研究所「平城宮発掘調査報告」XII『奈良国立文化財研究所学報』第40冊 1983
古代の土器研究会(編)『古代の土器 1 『都城の土器集成』 1992
古代の土器研究会(編)『古代の土器 2 『都城の土器集成 II』 1993
中世土器研究会編『概説中世の土器・陶磁器』 1995

目 次

序文

凡例

例言

目次

本文目次

第1章 調査の経過と方法	1			
第1節 調査に至る経緯	1			
第2節 調査の方法	2			
第2章 地理的・歴史的環境	5			
地理的環境	歴史的環境			
第3章 調査成果	10			
第1節 基本層序	10			
第2節 包含層出土の遺物	13			
第3節 各調査区の概要	16			
1. 1地区の概要	2. 2地区の概要	3. 3地区の概要	4. 4地区の概要	
5. 5地区の概要	6. 6地区の概要	7. 7地区の概要	8. 8地区の概要	
第4節 遺構と遺物	21			
1. 1地区				21
掘立柱建物	ピットおよび土坑	溝	井戸	
2. 2地区				23
掘立柱建物	ピットおよび土坑	溝	井戸	溜池
3. 3地区				42
掘立柱建物	ピットおよび土坑	溝	落ち込み	
4. 5地区				59
掘立柱建物	ピットおよび土坑	溝	井戸	
5. 6地区				74
掘立柱建物	ピットおよび土坑	溝	落ち込み	井戸
6. 7地区				122
掘立柱建物	ピットおよび土坑	溝	井戸	
7. 8地区				146
ピットおよび土坑	溝			
第4章 自然科学分析	147			
第1節 総持寺遺跡における低位段丘（富田累層）下土壤中の花粉分析				
(株)川崎地質	147			

第2節 総持寺遺跡出土の樹種鑑定	(財)元興寺文化財研究所	157
第3節 総持寺遺跡における岩石の鑑定および骨、貝類、植物遺体の同定	(株)パリノサーヴェイ	174
第4節 総持寺遺跡における花粉分析および種子同定	(株)古環境研究所	183
第5節 土壌基23660出土鳥帽子の赤外分析調査について	山口誠治	198
第6節 溝14558出土巡方付着の漆状品の同定	(財)元興寺文化財研究所	200
第5章 まとめ		203
第1節 遺構の変遷		203
第2節 古代の井戸廃絶における祭祀行為について		208
第3節 遺構内出土遺物		211
第4節 総持寺遺跡の位置付け		213
付 章 総持寺遺跡周辺の微地形と遺跡展開		217
 実測遺物出土遺構一覧表		221
掘立柱建物一覧表		225
遺物観察表		235

挿図目次

第1図 調査地位置図	1
第2図 調査区位置図	3
第3図 調査地区割り図	4
第4図 調査地周辺地質図	5
第5図 総持寺遺跡と周辺の遺跡	9
第6図 調査地基本層序柱状図（1）	11
第7図 調査地基本層序柱状図（2）	12
第8図 包含層出土の遺物（須恵器）	13
第9図 包含層出土の遺物（土師器）	14
第10図 包含層出土の遺物（綠釉陶器、灰釉陶器）	14
第11図 包含層出土の遺物（中世の土器）	15
第12図 包含層出土の遺物（石製品、土製品、金属製品、近世陶磁器）	16
第13図 4地区（試掘坑）位置図	17
第14図 4地区（試掘坑）遺構配置図	18
第15図 1地区遺構出土遺物（土器）	21
第16図 井戸10080平面・断面図	22
第17図 井戸10080出土遺物	22
第18図 掘立柱建物12130平面・断面図	23
第19図 掘立柱建物12168平面・断面図	24

第20図	掘立柱建物12181平面・断面図	24
第21図	掘立柱建物12285平面・断面図	25
第22図	掘立柱建物12381平面・断面図	25
第23図	掘立柱建物12491平面・断面図	26
第24図	掘立柱建物12532平面・断面図	26
第25図	掘立柱建物12551平面・断面図	27
第26図	掘立柱建物12582平面・断面図	27
第27図	掘立柱建物12579平面・断面図	28
第28図	掘立柱建物12654平面・断面図	29
第29図	掘立柱建物12685平面・断面図	31
第30図	掘立柱建物12683平面・断面図	29
第31図	掘立柱建物12701平面・断面図	29
第32図	掘立柱建物12707平面・断面図	30
第33図	掘立柱建物12730平面・断面図	30
第34図	掘立柱建物12746平面・断面図	30
第35図	掘立柱建物12784平面・断面図	31
第36図	掘立柱建物12789平面・断面図	31
第37図	掘立柱建物12792平面・断面図	31
第38図	掘立柱建物12860平面・断面図	31
第39図	掘立柱建物14585平面・断面図	32
第40図	土壤塙12682平面・断面図	33
第41図	2地区遺構出土遺物	34
第42図	井戸12623平面・断面図	35
第43図	井戸12623出土遺物（土器）	36
第44図	井戸12623出土遺物（木製品1）	37
第45図	井戸12623出土遺物（木製品2）	38
第46図	井戸12246平面・断面図	39
第47図	井戸12651平面・断面図	39
第48図	井戸12651出土遺物（土器）	40
第49図	井戸12651出土遺物（石臼）	40
第50図	溜池平面・断面図	41
第51図	溜池堤部出土遺物	42
第52図	溜池出土遺物（土器）	43
第53図	溜池出土遺物（木製品）	44
第54図	掘立柱建物13193平面・断面図	45
第55図	掘立柱建物13382平面・断面図	45
第56図	掘立柱建物13513平面・断面図	45
第57図	掘立柱建物13557平面・断面図	46

第58図	掘立柱建物13684平面・断面図	46
第59図	掘立柱建物13566平面・断面図	46
第60図	掘立柱建物13699平面・断面図	47
第61図	掘立柱建物13710平面・断面図	47
第62図	掘立柱建物13715平面・断面図	47
第63図	掘立柱建物13726平面・断面図	47
第64図	掘立柱建物13738平面・断面図	48
第65図	掘立柱建物13836平面・断面図	48
第66図	掘立柱建物13780平面・断面図	48
第67図	掘立柱建物13893平面・断面図	49
第68図	掘立柱建物13909平面・断面図	49
第69図	掘立柱建物13942平面・断面図	49
第70図	掘立柱建物14015平面・断面図	50
第71図	掘立柱建物13998平面・断面図	50
第72図	掘立柱建物14238平面・断面図	51
第73図	掘立柱建物14154平面・断面図	52
第74図	掘立柱建物14250平面・断面図	52
第75図	掘立柱建物14254平面・断面図	53
第76図	掘立柱建物14264平面・断面図	53
第77図	掘立柱建物14606平面・断面図	54
第78図	掘立柱建物14623平面・断面図	54
第79図	3地区ピット、土坑出土遺物	55
第80図	土坑14415出土遺物	56
第81図	土壤墓13336(14443)平面・断面図	57
第82図	土壤墓13336(14443)出土遺物	57
第83図	溝14559出土遺物	58
第84図	3地区溝出土遺物	59
第85図	落ち込み13101断面図	60
第86図	落ち込み13101出土遺物	60
第87図	掘立柱建物20531平面・断面図	61
第88図	掘立柱建物20592平面・断面図	61
第89図	掘立柱建物20625平面・断面図	61
第90図	掘立柱建物20675平面・断面図	62
第91図	掘立柱建物20693平面・断面図	62
第92図	掘立柱建物20746平面・断面図	63
第93図	掘立柱建物20760平面・断面図	64
第94図	掘立柱建物20797平面・断面図	64
第95図	掘立柱建物20790平面・断面図	64

第96図	掘立柱建物20826平面・断面図	65
第97図	掘立柱建物20920平面・断面図	66
第98図	掘立柱建物20995平面・断面図	66
第99図	掘立柱建物21046平面・断面図	66
第100図	掘立柱建物21069平面・断面図	67
第101図	柱穴21091平面・断面図	67
第102図	掘立柱建物21082平面・断面図	67
第103図	土坑20528平面・断面図	68
第104図	土坑20616平面・断面図	69
第105図	土坑20873平面・断面図	70
第106図	5地区溝断面図	71
第107図	5地区遺構出土遺物	72
第108図	井戸20559平面・断面図	73
第109図	井戸21025平面・断面図	73
第110図	井戸21025出土遺物	73
第111図	掘立柱建物20185平面・断面図	74
第112図	掘立柱建物20197平面・断面図	75
第113図	掘立柱建物20226平面・断面図	76
第114図	掘立柱建物20261平面・断面図	76
第115図	掘立柱建物20294平面・断面図	77
第116図	掘立柱建物20306平面・断面図	77
第117図	掘立柱建物22165平面・断面図	78
第118図	掘立柱建物22176平面・断面図	78
第119図	掘立柱建物22191平面・断面図	79
第120図	掘立柱建物22242平面・断面図	79
第121図	掘立柱建物22246平面・断面図	79
第122図	掘立柱建物22301平面・断面図	80
第123図	掘立柱建物22505平面・断面図	80
第124図	掘立柱建物22439-1平面・断面図	80
第125図	掘立柱建物22439-2平面・断面図	81
第126図	掘立柱建物22352平面・断面図	81
第127図	掘立柱建物22407平面・断面図	82
第128図	掘立柱建物22518平面・断面図	83
第129図	掘立柱建物22532平面・断面図	83
第130図	掘立柱建物22545平面・断面図	83
第131図	掘立柱建物22559平面・断面図	84
第132図	掘立柱建物22632平面・断面図	85
第133図	掘立柱建物22651平面・断面図	85

第134図	掘立柱建物22653平面・断面図	86
第135図	掘立柱建物22691平面・断面図	86
第136図	掘立柱建物22692平面・断面図	87
第137図	掘立柱建物22881平面・断面図	87
第138図	掘立柱建物22908平面・断面図	88
第139図	掘立柱建物22975平面・断面図	88
第140図	掘立柱建物23075平面・断面図	88
第141図	掘立柱建物23077平面・断面図	89
第142図	掘立柱建物23243平面・断面図	89
第143図	掘立柱建物23100平面・断面図	90
第144図	掘立柱建物23454平面・断面図	90
第145図	掘立柱建物23460平面・断面図	90
第146図	掘立柱建物23467平面・断面図	91
第147図	掘立柱建物23549平面・断面図	91
第148図	掘立柱建物23488平面・断面図	91
第149図	掘立柱建物23623平面・断面図	92
第150図	掘立柱建物23626平面・断面図	92
第151図	掘立柱建物23644平面・断面図	93
第152図	6地区 ピット遺物出土状況平面・断面図	94
第153図	6地区 ピット出土遺物	95
第154図	土坑22346・22347平面・断面図	96
第155図	土坑22504平面・断面図	97
第156図	土坑22890平面・断面図	98
第157図	土坑23315平面・断面図	99
第158図	土坑23415平面・断面図	100
第159図	6地区土坑出土遺物	100
第160図	土壤墓群（22509・22510・22722）位置図	101
第161図	土壤墓22510平面・断面図	101
第162図	土壤墓22509平面・断面図	102
第163図	土壤墓22722平面・断面図	102
第164図	土壤墓群（23451、23519、23520、23521）平面・断面図	103
第165図	土壤墓群（23660、23664、23783）位置図	104
第166図	土壤墓23660平面・断面図	104
第167図	土壤墓23660出土烏帽子、刀出土状況平面図	105
第168図	土壤墓23660出土烏帽子復原模式（案）図	105
第169図	土壤墓23664平面・断面図	106
第170図	土壤墓23664出土烏帽子、刀出土状況平面図	106
第171図	土壤墓23783平面・断面図	107

第172図	土壤墓23783出土鳥帽子、刀出土状況平面図	107
第173図	6地区中世土壤墓出土遺物	108
第174図	6地区溝断面図	109
第175図	落ち込み23394・23423、土坑群(23420、23421、23422)平面・断面図	110
第176図	6地区溝、落ち込み出土遺物	111
第177図	井戸22280平面・断面図	112
第178図	井戸22280出土遺物(土師器、須恵器)	113
第179図	井戸22280出土遺物(木製品)	114
第180図	井戸23180平面・断面図	115
第181図	井戸23180出土遺物(須恵器、灰釉陶器)	116
第182図	井戸23180出土遺物(土師器甕類)	117
第183図	井戸23180出土遺物(土師器)	118
第184図	井戸23332平面・断面図	118
第185図	井戸23658平面・断面図	119
第186図	井戸23658出土遺物	120
第187図	井戸23452平面・断面図	121
第188図	井戸23452出土遺物(土器)	122
第189図	井戸23452出土遺物(木製品)	122
第190図	井戸23494平面・断面図	123
第191図	井戸23494出土遺物(瓦器、土師器、須恵器)	124
第192図	井戸23494出土遺物(瓦質甕)	125
第193図	井戸23494出土遺物(木製品)	125
第194図	掘立柱建物23967平面・断面図	126
第195図	掘立柱建物23977平面・断面図	126
第196図	掘立柱建物24004平面・断面図	127
第197図	掘立柱建物24055平面・断面図	128
第198図	掘立柱建物24061平面・断面図	129
第199図	掘立柱建物24163平面・断面図	129
第200図	掘立柱建物24299平面・断面図	130
第201図	掘立柱建物24317平面・断面図	131
第202図	掘立柱建物24459平面・断面図	131
第203図	掘立柱建物24965平面・断面図	132
第204図	掘立柱建物24605平面・断面図	132
第205図	掘立柱建物24984平面・断面図	133
第206図	掘立柱建物25251平面・断面図	133
第207図	掘立柱建物25258平面・断面図	134
第208図	掘立柱建物25268平面・断面図	134
第209図	掘立柱建物25277平面・断面図	135

第210図	掘立柱建物25295平面・断面図	135
第211図	7地区ピット、土坑遺物出土状況平面・断面図	135
第212図	土坑25780平面・断面図	136
第213図	土壤墓24760平面・断面図	137
第214図	7地区遺構出土遺物	137
第215図	7地区溝断面図	138
第216図	井戸23876平面・断面図	139
第217図	井戸23876出土遺物（須恵器）	140
第218図	井戸23876出土遺物（土師器、黒色土器）	141
第219図	井戸23876出土遺物（木製品）	142
第220図	井戸25335平面・断面図	143
第221図	井戸25335出土遺物（土器）	144
第222図	井戸25335出土遺物（木製品、鉄製品）	144
第223図	8地区ピット、土坑遺物出土状況平面・断面図	145
第224図	土坑20107平面・断面図	145
第225図	8地区遺構出土遺物	146
第226図	井戸12246試料採取層準	147
第227図	花粉分析フロー	149
第228図	イネ科花粉の粒径比較図（中村、1974）	151
第229図	花粉ダイアグラム	152
第230図	泉州沖S n 5地点の花粉ダイアグラム（FURUTANI, 1989）	153
第231図	礫の個数および容積による構成比	178
第232図	総持寺遺跡における花粉ダイアグラム	186
第233図	総持寺遺跡における出土種実検出図	193
第234図	鳥帽子樹脂模の赤外スペクトル	199
第235図	FT-I Rチャート（巡方付着漆状品）	201
第236図	巡方付着漆状品のFT-I Rチャート	202
第237図	出土漆のFT-I Rチャート	202
第238図	日本産漆の塗膜作成より11年2ヶ月後のFT-I Rチャート	202
第239図	遺構配置模式図1（飛鳥時代の主要遺構）	206
第240図	遺構配置模式図2（奈良時代の主要遺構）	206
第241図	遺構配置模式図3（平安時代の主要遺構）	207
第242図	遺構配置模式図4（中世の主要遺構）	207
第243図	遺構配置模式図5（近世以降の主要遺構）	208
第244図	遺物組成グラフ（2地区、3地区遺構内出土）	210
第245図	遺物組成グラフ（井戸12623内出土）	211
第246図	総持寺遺跡と古代の周辺関連遺跡	213
第247図	淀川低地の地形分類	217

第248図 總持寺遺跡の現況散地形図	218
第249図 調査地周辺の現況水流図	219

表目次

表1 検出された花粉化石の種類一覧表	150
表2 花粉化石組成表	152
表3 検出花粉化石数量表（1）	155
表4 検出花粉化石数量表（2）	155
表5 花粉化石顕微鏡写真（写真1）説明	155
表6 樹種鑑定（1）	157
表7 樹種鑑定（2）	158
表8 岩石肉眼鑑定試料の一覧	174
表9 總持寺遺跡出土礫の岩種構成比（A 地山中の礫）	176
表10 總持寺遺跡出土礫の岩種構成比（B 古代井戸12623の埋土中の礫）	176
表11 總持寺遺跡出土礫の岩種構成比（C 古代井戸12623上部底面の礫敷使用の礫）	176
表12 總持寺遺跡出土礫の岩種構成比（D 古代掘立柱建物12381の根がため使用の礫）	176
表13 B 古代井戸12623の埋土中礫の構成比の内訳（B-1 埋土洗浄中検出試料）	177
表14 B 古代井戸12623の埋土中礫の構成比の内訳（B-2 上部下層試料）	177
表15 C 古代井戸12623の埋土中礫の構成比の内訳（C-1 上部底石の試料）	177
表16 C 古代井戸12623の埋土中礫の構成比の内訳（C-2 上部礫敷の試料）	177
表17 磫の構成比および大きさの比較	178
表18 骨・貝類同定結果（括弧内は個数）	179
表19 植物遺体同定結果	180
表20 總持寺遺跡における花粉分析結果	185
表21 總持寺遺跡洗浄済み種実同定結果（埋土中より検出）	190
表22 總持寺遺跡洗浄済み種実試料	191
表23 總持寺遺跡洗浄済み種実同定結果	192
表24 總持寺遺跡出土モモ核計測値	192
表25 烏帽子出土一覧表	216

挿入写真

写真1 花粉化石顕微鏡写真	156
写真2 樹種鑑定顕微鏡写真（1）	159
写真2 樹種鑑定顕微鏡写真（2）	160
写真4 樹種鑑定顕微鏡写真（3）	161
写真5 樹種鑑定顕微鏡写真（4）	162
写真6 樹種鑑定顕微鏡写真（5）	163
写真7 樹種鑑定顕微鏡写真（6）	164

写真8	樹種鑑定顕微鏡写真（7）	165
写真9	樹種鑑定顕微鏡写真（8）	166
写真10	樹種鑑定顕微鏡写真（9）	167
写真11	樹種鑑定顕微鏡写真（10）	168
写真12	樹種鑑定顕微鏡写真（11）	169
写真13	樹種鑑定顕微鏡写真（12）	170
写真14	樹種鑑定顕微鏡写真（13）	171
写真15	樹種鑑定顕微鏡写真（14）	172
写真16	樹種鑑定顕微鏡写真（15）	173
写真17	植物遺体顕微鏡写真〔炭化材〕（1）	181
写真18	植物遺体顕微鏡写真〔炭化材〕（2）	182
写真19	緹持寺遺跡出土の花粉遺体・寄生虫卵	194
写真20	緹持寺遺跡出土種実（埋土中より検出）	195
写真21	緹持寺遺跡出土種実（洗浄済み）	196

付図1 調査区全体図

付図2 調査区全体図（西側）

付図3 調査区全体図（東側）

図版目次

巻頭図版1 調査地遠景

巻頭図版2 土墳墓23660鳥帽子と刀出土状況

巻頭図版3 土墳墓22510と出土青磁碗

巻頭図版4 土墳墓24760と出土青磁碗

巻頭図版5 墓書き土器

図版1 遠景 南側から 南側から（アップ）

図版12 遺構 2地区 掘立柱建物12683

図版2 航空写真 昭和17年撮影

2地区 掘立柱建物12701・12707

図版3 航空写真 昭和27年3月撮影

2地区 掘立柱建物12860

図版4 遺構 調査区全体写真（合成）

2地区 古代ピット遺物出土状況

図版5 遺構 2・3地区 上空

図版13 遺構 2地区 掘立柱建物12381柱穴根石

図版6 遺構 5a地区 上空 7a・C地区 上空

図版14 遺構 2地区 井戸12623上部 井戸12623下部

図版7 遺構 7a地区 上空 7b地区 上空

（板材出土状況）

図版8 遺構 1地区 北半部全景 1地区 南半部全景

井戸12623下部（木器他出土状況）

図版9 遺構 2地区 全景（右上は3地区）

図版15 遺構 2地区 土坑12682（集石） 2地区 井戸1

2地区 全景（上部は3地区）

2651上部 2地区 土坑12682火葬骨出土状

図版10 遺構 2地区 全景（右上は3地区）

況 2地区 井戸12651下部

2地区 南西部全景（右上は3地区）

図版16 遺構 2地区 潟池（北堤） 2地区 潟池（出水

図版11 遺構 2地区 掘立柱建物12168 2地区 掘立

溝） 2地区 潟池（北堤） 2地区 潟池

柱建物12168 2地区 掘立柱建物12181

（西堤）

2地区 掘立柱建物12685

図版17 遺構 3a・3b地区 全景（右は2地区）

3a・3b地区 全景（右下は2地区）

図版18 遺構	3a・3b地区 全景（左上は2地区） 3c地区 全景（右端）	図版33 遺構	6a地区 土壙墓22510遺物出土状況 6a地区 土壙墓22509遺物出土状況 6a地区 土壙墓22722遺物出土状況
図版19 遺構	3a地区 挖立柱建物13684 3b地区 挖立柱建物14264 2・3b地区 挖立柱建物12 746 3b地区 古代須恵器數14455	図版34 遺構	6b地区 全景（南から） 6b地区 挖立柱建物20197
図版20 遺構	3a地区 土壙墓13376（集石） 土壙墓13376（14443） 完掘状況 土壙墓13376（14443）副葬品出 敷断面 土壙墓13376（14443）副葬品出 土状況	図版35 遺構	6b地区 挖立柱建物13566・20197・20226 6b地区 挖立柱建物20185
図版21 遺構	4a地区 全景 4b地区 全景	図版36 遺構	6a・c地区 全景（東から） 6c地区 全景（北東から）
図版22 遺構	4c地区 全景 4d地区 全景	図版37 遺構	6c地区 全景（南西から） 6c地区 全景 (北東から) 6c地区 挖立柱建物23077
図版23 遺構	5a地区 全景（南から） 5b地区 全景（東から）	図版38 遺構	6c地区 挖立柱建物22975
図版24 遺構	5a地区 挖立柱建物20746 5a地区 挖立柱建物20920	図版39 遺構	6c地区 挖立柱建物22881 6c地区 挖立 柱建物22854・22865 6c地区 挖立柱建 物22692 6c地区 挖立柱建物22651（身 舟）
図版25 遺構	5a地区 挖立柱建物21082 5a地区 柱穴21091墨書き土器出土状況 同上 柱穴掘り方 5a地区溝20723	図版40 遺構	6c地区 挖立柱建物23460 6c地区 土坑 23415（集石） 同上 完掘状況
図版26 遺構	5a地区 土坑20873 5a地区 土坑20873 焼土部 5a地区 土坑20616 5a地区 土 坑20528 5a地区 土坑22095（集石）	図版41 遺構	6c地区 土坑23315 6c地区 土坑23296遺 物出土状況 6c地区 ピット23340 遺物 出土状況 6c地区 ピット23776遺物出土 状況 6c地区 井戸23180（断面）
図版27 遺構	5a地区 井戸20559上部 同上（断ち割 り） 5a地区 井戸21025上部 同上 (断ち割り)	図版42 遺構	6c地区 井戸23658上部 同上(断ち割り) 6c地区 土壙墓23519・23520・23521
図版28 遺構	6a地区 全景（西から） 6a地区 全景（東から）	図版43 遺構	6c地区 上壙墓23660・23664
図版29 遺構	6a地区 挖立柱建物22191 6a地区 挖立 柱建物22246 6a地区 挖立柱建物22242 6a地区 挖立柱建物22439-2	図版44 遺構	6c地区 土壙墓23660遺物出土状況 同上 出土鳥帽子と刀 6c地区 土壙墓23 783遺物出土状況 同上 出土鳥帽子（残 片）と刀
図版30 遺構	6a地区 挖立柱建物22559 6a地区 挖立柱建物22301	図版45 遺構	6c地区 井戸23494（断面） 6c地区 井 戸23452（断面） 6c地区 井戸23452上 部 同上（断ち割り）
図版31 遺構	6a地区 挖立柱建物22653 6a地区 挖立 柱建物22407 6a地区 挖立柱建物22352 6a地区 挖立柱建物22518	図版46 遺構	7a地区 全景（西から） 7a地区 全景（東から）
図版32 遺構	6a地区 土坑22504（集石） 同上 石圓 い検出状況 6a地区 井戸22280（断面） 6a地区 ピット22476遺物出土状況	図版47 遺構	7a地区 全景東半部（北から） 7a地区 北半部溝群

図版48 遺構	7a地区 捩立柱建物24299 7a地区 捩立柱建物24459	図版69 遺物 図版70 遺物 図版71 遺物 図版72 遺物 図版73 遺物 図版74 遺物 図版75 遺物 図版76 遺物 図版77 遺物 図版78 遺物 図版79 遺物	3地区遺構出土（2） 3地区遺構出土（3） 5地区遺構出土（1） 5地区遺構出土（2） 6地区遺構出土（1） 6地区遺構出土（2） 6地区遺構出土（3）（土壤墓出土刀） 6地区遺構出土（4）（井戸22280） 6地区遺構出土（5）（井戸22280） 6地区遺構出土（6）（井戸23180） 6地区遺構出土（7）（井戸23180, 井戸23658） 6地区遺構出土（8）（井戸23658, 井戸23494）
図版49 遺構	7a地区 捩立柱建物24061 7a地区 捩立 柱建物24163 7a地区 捩立柱建物24984 7a地区 捩立柱建物24605		
図版50 遺構	7a地区 捩立柱建物24004 7a地区 ピット26086遺物出土状況 7a地区 柱穴24015遺物出土状況	図版70 遺物 図版71 遺物 図版72 遺物 図版73 遺物 図版74 遺物 図版75 遺物 図版76 遺物 図版77 遺物 図版78 遺物 図版79 遺物	6地区遺構出土（1） 6地区遺構出土（2） 6地区遺構出土（1） 6地区遺構出土（2） 6地区遺構出土（3）（土壤墓出土刀） 6地区遺構出土（4）（井戸22280） 6地区遺構出土（5）（井戸22280） 6地区遺構出土（6）（井戸23180） 6地区遺構出土（7）（井戸23180, 井戸23658） 6地区遺構出土（8）（井戸23658, 井戸23494）
図版51 遺構	7a地区 井戸23876井戸枠・土師器杯出 土状況 同上（断ち割り） 同上 曲物 出土状況 同上 黒色土器柄出土状況		
図版52 遺構	7a地区 土壙墓24760遺物出土状況 同 上 青磁碗（上位） 同上 土師器皿（下 位） 7a地区 捩立柱建物24355	図版79 遺物 図版80 遺物	6地区遺構出土（7）（井戸23180, 井戸23658） 6地区遺構出土（8）（井戸23658, 井戸23494）
図版53 遺構	7b地区 全景（西から） 7b地区 全景（北から）	図版81 遺物	6地区遺構出土（9）（井戸23452, 井戸23494）
図版54 遺構	7b地区 捩立柱建物25268+25279 7b地 区 捩立柱建物25268 7b地区 捩立柱建 物25259 7b地区 捩立柱建物25258	図版82 遺物	6地区遺構出土（10）（井戸23494） 7地区遺構出土（1）
図版55 遺構	7b地区 井戸25353（断面） 同上 曲物 出土状況 7b地区 土坑25805遺物出土 状況 7b地区 土坑25780（断面）	図版83 遺物	7地区遺構出土（2）（土壤墓24760, 井戸23876）
図版56 遺構	8地区 全景（南から） 8地区 土坑20107遺物出土状況 8地区 ピット20064遺物出土状況	図版84 遺物 図版85 遺物 図版86 遺物 図版87 遺物	7地区遺構出土（3）（井戸23876） 7地区遺構出土（4）（井戸23876） 7地区遺構出土（5）（井戸23976, 井戸25335） 7地区遺構出土（6）（井戸25335） 8地区遺構出土
図版57 遺物	包含層出土（1）	図版88 遺物	2地区遺構出土木製品（1）（井戸12623）
図版58 遺物	包含層出土（2）	図版89 遺物	2地区遺構出土木製品（2）（井戸12623）
図版59 遺物	包含層出土（3）	図版90 遺物	2地区遺構出土木製品（3）（溜池）
図版60 遺物	包含層出土（4）	図版91 遺物	2地区遺構出土木製品（4）（溜池） 6地区遺構出土木製品（井戸23452）
図版61 遺物	包含層出土（5）	図版92 遺物	7地区遺構出土木製品（1）（井戸23876）
図版62 遺物	1地区遺構出土	図版93 遺物	7地区遺構出土木製品（2）（井戸25351） 6地区遺構出土木製品（井戸22280）
図版63 遺物	2地区遺構出土（1）		
図版64 遺物	2地区遺構出土（2）（井戸12623）		
図版65 遺物	2地区遺構出土（3）（井戸12623）		
図版66 遺物	2地区遺構出土（4）（溜池堤部）		
図版67 遺物	2地区遺構出土（5）（溜池）		
図版68 遺物	2地区遺構出土（6）（溜池） 3地区遺構出土（1）		

第1章 調査の経過と方法

第1節 調査に至る経緯

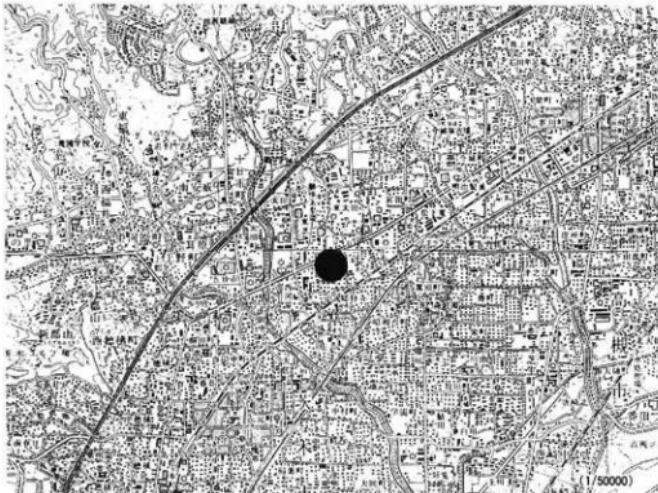
総持寺遺跡は、古くから弥生時代の集落跡として周知されていた遺跡である。大阪府教育委員会では昭和48年に当地域の府営茨木総持寺住宅地住宅敷地内にて行なった遺跡の確認調査のさい、埴輪、須恵器、土師器、瓦器等が出土している。

最近では平成6年度から府営総持寺住宅の立て替えに先立つ発掘調査を実施しており、古代・中世の集落跡、5世紀後半の小型の方墳群、古代・中世の掘立柱建物群で形成される集落跡を検出している。

これら周知の遺跡の北辺部にあたる三島丘2丁目の御第一勅銀グランド跡地において住宅建設の運びとなった。この経緯を受け、茨木市教育委員会は平成5年度に当住宅建設予定地において立合い調査を実施した。この結果、当地区には古代・中世の遺物包含層と柱穴、溝等が検出され、集落遺構があることが予想された。

茨木市と大阪府教育委員会は宅地建設の事業主体者である住宅回都市整備公団と協議を重ね、財団法人大阪府埋蔵文化財協会にて2ヵ年度にわけて発掘調査を行なうことで同意した。

1次調査は平成6年の11月1日から開始され平成7年10月31日に終了した。この調査と平行して2回目の調査の試掘調査も行なった。この後、調査は、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が財団法人大阪文化財センターと統合した財団法人大阪文化財調査研究センターに引き継がれた。2次調査は平成7年11月1日に開始され平成9年3月31日に終了した。



第1図 調査地位置図

尚、本事業発注段階においては当地域は總持寺遺跡と認識されていた。しかし、現在大阪府の遺跡分布図（平成8年度発行）によると總持寺遺跡の北側に位置する總持寺北遺跡として表記されており、この遺跡名が近年流布している。本書では当調査地を總持寺遺跡として記述するが、今後名称の変更も予想されることを断わっておきたい。

第2節 調査の方法

調査の地区割りは調査前に8地区に設定した。作業行程の都合上さらにこれらの地区をa、bおよびcと2地区ないしは3地区に細分した地区もあり、最終的に13の地区に分かれることとなった。遺構の全景写真撮影は基本的にこれらの地区ごとに行なっている。

国土調査法に基づく新平面直角座標の第VI座標系のX軸、Y軸を基に設定した4mの正方形区画に各々名称をつけこれをもとに遺物を取り上げている。

本文中の平面図は上述の新平面直角座標で表しているが、4mの正方形区画の名称も遺構の位置を示す単位としている。（区画設定の方法および地区名称については第3図参照）

遺構番号は1次、2次調査ともに検出した順に1番からの連番号をふっている。尚、本報告では2回の調査による番号の重複を避けるために、調査時の番号が2回の調査とも千番台で終わっていることから、1次調査は1万番台から、2次調査は2万番台からの遺構番号として表記している。（例：2次調査の165番は20165番として表記。同次の調査における番号の重複は枝番号を付けて区別した。）

掘立柱建物についてはこれを構成する柱穴のうち最も若い番号の柱穴を代表させて遺構番号とした。ゆえに、掘立柱建物の番号は柱穴の番号と必ず重複している。

これらは財大阪府埋蔵文化財協会（以下「協会」という）の調査規程に準拠している。新たに財大阪府文化財調査研究センターとして調査を行なうことになった2次調査でも遺跡と調査の連続性を考慮して調査方法を1次調査にならしている。ただし、今回は1次、2次両調査とも協会独自の遺構記号は使用していない。

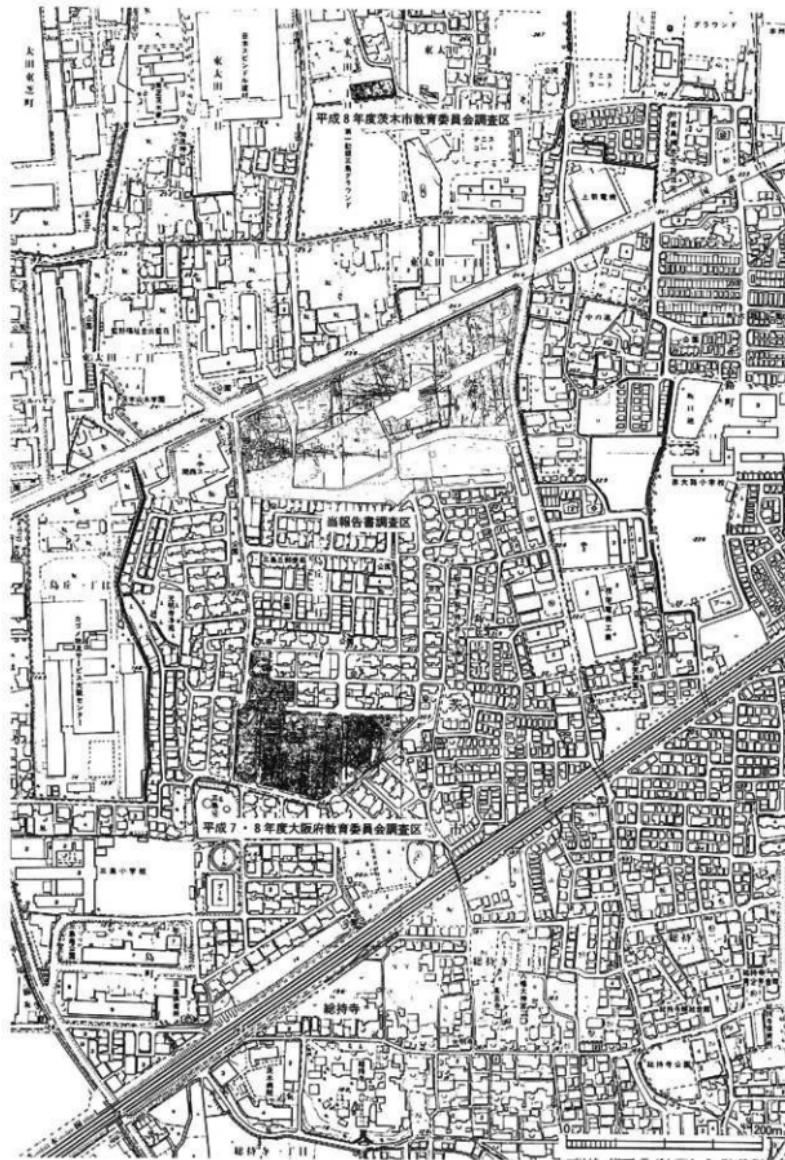
調査は現地表面および盛土をバックホーにより除去した。これより下層は人力にて掘削を行ない遺構、遺物の検出につとめた。一部の地域については最終遺構面より下を掘削し、地山の確認と自然堆積の把握を行なった。

ヘリコプターまたはクレーン車による空中写真撮影を各地区で行なった。これを基に1/20・1/100の平面図を作成した。付図に掲載している全体図は1/100の平面図を合成し縮小したものである。この航空写真撮影でえられた各調査区のモノクロ密着写真をもとに調査地全域の合成写真を作成した。そのほか、一部の遺構に関しては、細部を表現すべく手書き実測で1/50・1/10・1/5・1/2・1/1の図面も作成した。

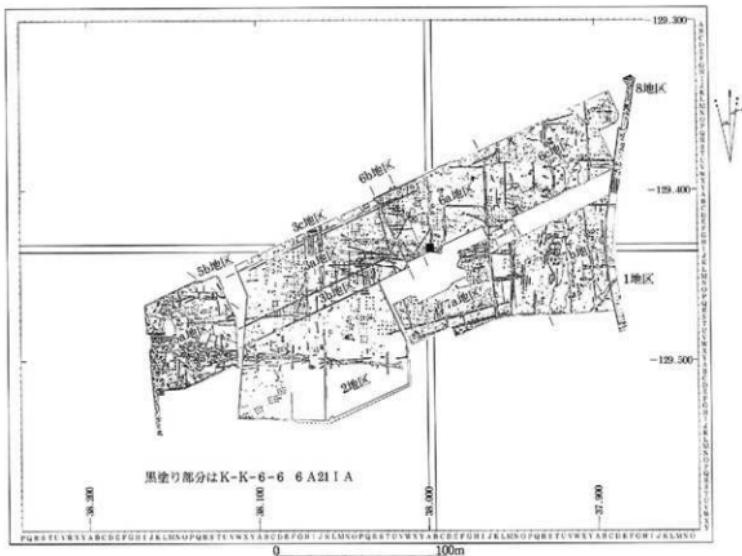
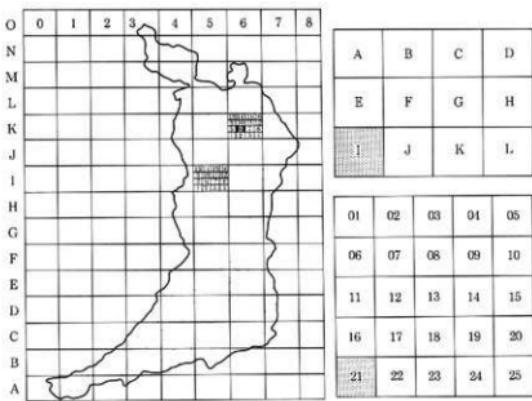
土層断面図は平面図と対応させるべく1/20で作成したが、細部を表現したものについてはその平面図の縮尺にあわせている。

写真撮影については35mm一眼レフカメラ、6×7in一眼レフカメラで撮影している。

フィルムはISO100またはISO400のモノクロフィルム、リバーサルカラーフィルム、ネガカラーフィルムを随時使い分けて使用した。



第2図 調査区位置図



第3図 調査地区割り図

第2章 地理的・歴史的環境

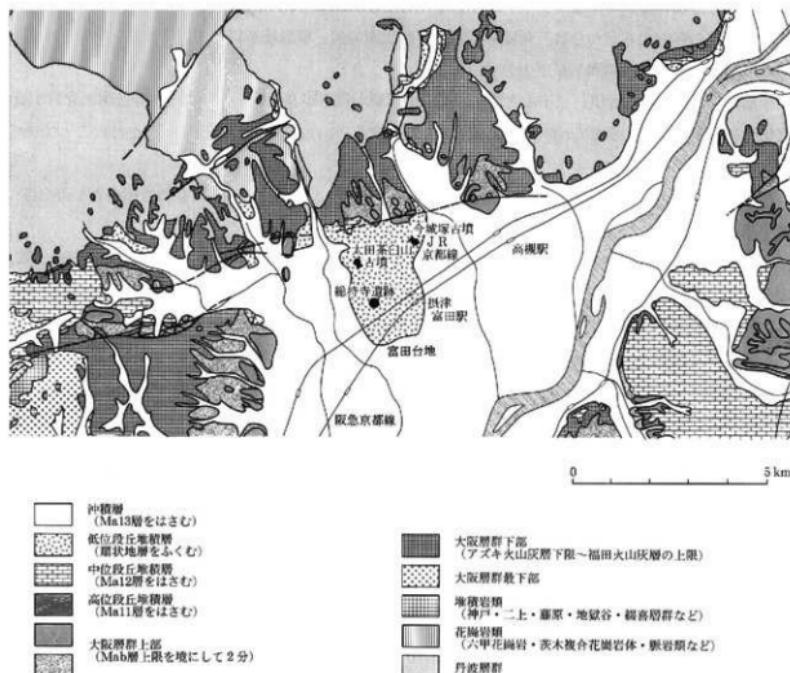
地理的環境

総持寺遺跡は大阪府の北東部、茨木市と高槻市の市境にあたる。行政区画では茨木市三島丘1丁目、2丁目、三島町、総持寺1丁目にわたり所在することとなる。

地理的に見れば、大阪平野の北端、北摂山地から派生し、舌状に延びた独立丘陵である「富田台地」の上に展開する遺跡である。標高は約20m前後を測り、緩やかに北から南側へ傾斜している。丘陵の西側の裾部分を南北方向に安威川が流れ、東側を女瀬川が流れる。丘陵の前方には沖積地の大坂平野が展開し、これらの川が大阪平野を形成している。

この丘陵は地質学上は低位段丘にあたり、「富田疊層」と呼称される疊層によって形成されている。砂疊は8~9mの厚みで堆積し、疊層中の泥炭層からはウラジロモミ、エゾイタヤ、ミズメ、サワシバ等の寒冷型の植物遺体が産出されていること、材化石年代が約2万6000年前を示すこと、始良火山灰層（2万1000年~2万2000年前）を含んでいることがわかっている。

この段丘のちょうど舌の付け根に当たる部分には阪神淡路大震災で有名になった有馬・高槻構造線の



第4図 調査地周辺地質図

一部である真上断層が走り、急斜面を形成している。

歴史的環境

当地域は原始・古代より早くから開けた地域といふことができる。総持寺遺跡北側に近接する太田遺跡や安威川対岸の安威遺跡・耳原遺跡・郡遺跡では旧石器時代のナイフ形石器や有舌尖頭器が検出されている。高槻市の郡家今城遺跡からは旧石器時代の石器製作跡が見つかっている。

縄文時代の遺物は太田遺跡から出土している。ほかにも茨木市耳原遺跡では縄文晩期の甕棺墓が16基検出されている。今後周辺の遺跡および遺構は増え、広がるものと思われる。

弥生時代になると最初に低湿地である東奈良遺跡や目垣遺跡に集落が形成され、中期になると丘陵部分や山間部に展開していくこととなる。

総持寺遺跡は当初、弥生時代後期の遺跡として認識されていた。当調査地南側約300m南側で行なわれた最近の大坂府の調査でも、後期後半の方形や円形の周溝墓、土器棺墓が検出されており、当調査においても、柱状片刃石斧、大型蛤刃石斧が出土している。

総持寺遺跡周辺には中期では太田遺跡、中河原遺跡、春日遺跡、後期では安威遺跡が出現する。

古墳時代に入ると当地域は古墳群が形成されていく。前期古墳として山間部に紫金山古墳や将軍山古墳、安威1号墳、安威1号墳が築かれる。紫金山古墳は当地域の代表的な前期の前方後円墳として名高く、後円部の竪穴式石室からは三角縁神獸鏡を含む12面の鏡、堅矧板革綴短甲、鍬形石・車輪石・筒形銅器・鉄劍・鉄刀等の副葬品が出土している。

中期に入ると土保山古墳、二子山古墳、番山古墳が築かれるが、特筆すべきは総持寺遺跡の北約1km、富田台地の最高部に全長226mを測る前方後円墳の太田茶臼山古墳（伝雞体陵）が築かれたことであろう。

総持寺遺跡においても先の大坂府の調査で、小さいもので4~5m、大きいもので15mの1辺を持つ地中に埋没した方墳が38基みつかっている。

後期古墳として全長190mを測る高槻市の前方後円墳、今城塚古墳が有名である。近年の研究ではこの今城塚古墳をもって日本書記や延喜式に記載される「雞体天皇藍野陵」とする説が有力である。このほか群集墳として福井新屋古墳群、安威古墳群がある。

太田茶臼山古墳や今城塚古墳に埴輪を供給した新池埴輪窯跡が見つかっている。当埴輪窯は5世紀と6世紀の2時期に断続した操業が認められている。これは両古墳の築造に呼応するものと見られるが、周辺の古墳にも埴輪を供給したことが明らかになってきている。総持寺遺跡においても埋没方墳群の一部に埴輪の供給が認められている。

大阪府の調査では「調査（つきもたい）」の文字が刻まれている6世紀前半に製作されたと思われる須恵器壺が出土した。「租庸調」につながるものと考えられ、古代国家の税制度の成立過程を示す重要な資料として位置づけられるものである。

古代において、北摂地域は嶋上郡、嶋下郡、豊嶋郡の3郡に分かれていた。総持寺遺跡はちょうど嶋上郡と嶋下郡との境に位置する。現在の高槻市と茨木市の境を基軸にすると、茨城市は嶋下郡ということになる。ただし、総持寺北西に隣接する太田の地が『播磨国風土記』によると「摂津国三島の賀美の郡大田村」とあり、境界の変更も考えられるところである。総持寺周辺は嶋下郡の新野郷、安威郷か嶋上郡の児屋郷、高上郷が考えられるが、確証を得るには至らない。

嶋上郡の郡衙跡として高槻市に郡家川西遺跡が確認されている。掘立柱建物群、井戸等が検出されたが、「上都」の墨書き土師器窯の出土により、郡衙跡であることが確定した。この遺跡と隣接して、奈良～平安時代の集落跡、郡家今城遺跡があり、当郡衙と消長をともにするようである。

嶋下郡の郡衙跡は茨木市郡や郡山近辺に求められている。しかしながら現在のところ、奈良～平安時代の掘立柱建物の存在は確認されているが、郡衙跡としての確証は得られていない。

飛鳥時代に入ると有力氏族による古代寺院が立てられた。総持寺遺跡から北側に約700mの地点に、太田茶臼山古墳の南側に西国街道を挟むようにして太田庵寺が位置する。明治40年の開墾中に舍利容器を納めた塔婆心礎が出土している。舍利容器は現在東京国立博物館に所蔵されているが、心礎は残念ながら失われている。この寺は当時の有力な氏族である中臣太田連との関係がいわれている。

周辺の古代寺院として、ほかに鶴積庵寺、三宅庵寺、大念寺、春米寺があるが大念寺、三宅庵寺以外は平安時代には廃絶していくようである。

当地域は中臣太田連、中臣藍連等中臣氏の本拠地になるところで、藤原鎌足が葬られたと伝承される土地でもある。重要文化財として東京国立博物館に保管されている、安威の大鐵冠山から出土したとされる奈良時代の三彩有蓋壺容器をもって、中臣氏との関係を示唆する説もある。先の大念寺も安威に位置し、藤原氏の始祖である中臣鎌足の長男にあたる僧定慧の創建と伝えられている。その真偽のほどはさだかではないが、彼らゆかりの地であったことは想像に難くない。

総持寺遺跡では飛鳥時代の堅穴住居跡が見つかっており、墓域としての性格から新たに居住空間として開発されていくことがわかる。

奈良時代には掘立柱建物が出現していくが、一部は飛鳥時代からの建物の可能性も考えられている。更に奈良・平安時代にかけての掘立柱建物による集落が展開していく。

平安時代になると西国三十三箇所巡礼霊場の第22番目の札所で有名な当地域の名称ともなった総持寺が藤原山蔭によって創建される。近年の調査においても創建時と考えられる伽藍や瓦が見つかっている。

平安時代、特に10世紀後半から11世紀中頃にかけて藤原氏による摂関政治の最盛期を迎え、彼らの許に荘園が集中した。藤原氏と縁の深い当地方では、摂関家領やその氏寺、氏神である興福寺、春日大社の領地が多かったことが史料に見られる。現代にあっても春日神社の数が多いことは、それを示唆するものである。

摂関家領はその後衰えるが、興福寺や春日大社の荘園支配は15世紀中頃まで続く。

総持寺遺跡近辺の荘園として、太田保、新屋莊、総持寺守邊領が考えられるが、当遺跡との関係は不明で今後の検討課題といえる。

近辺における中世集落として高槻市の12世紀を中心とした宮田遺跡が有名である。

総持寺遺跡においても中世集落が検出されている。総持寺の北に接することになる大阪府の調査では12世紀、13世紀代の掘立柱建物を構成する多数の柱穴が検出されている。

当調査区内においても13世紀とその前後にわたる集落が検出された。郡遺跡でも掘立柱建物が検出されており、今後当地域の集落の動向がさらによく分かってくるものと思われる。

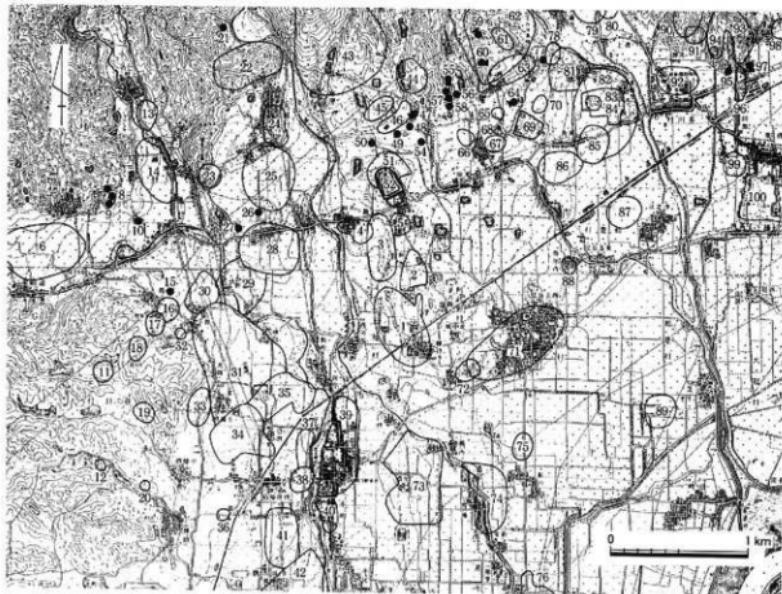
総持寺の北側には前述の西国街道が京都と西国を結んでいる。当地は交通の要衝にあたり、かつ総持寺が中世以降、西国三十三箇所巡礼の普遍化にともない、多くの人々の参拝を受け、隆盛を極めるに伴い、門前として栄えた。

近年は、大阪の中で茨木市は衛星都市としての性格を有し、総持寺周辺も住宅地として開発が進んで

きている。

《参考文献》

- 『大阪層群』 創志社 1993
市原 実 2万5千分の1「千里丘陵とその周辺の地質図」 アーバンクボタ30
茨木市史編纂委員会 『茨木市史』 1969
大阪府史編集専門委員会 『大阪府史』 第1巻考古編I、第2巻古代編II 1978、1990
高槻市史編さん委員会 『高槻市史』 第1巻本編I 1977
高槻市史編さん委員会 『高槻市史』 第6巻考古編 1973
茨木市教育委員会 『倍賀遺跡発掘調査概要報告書』－平成4年度発掘調査概報－ 1993
茨木市教育委員会 『平成7年度発掘調査概要報告書』 1996
茨木市教育委員会 『平成8年度発掘調査概要報告書』 1997
大阪府教育委員会 『總持寺遺跡発掘調査概要』 1995
大阪府教育委員会 『總持寺遺跡発掘調査概要』 II 1997
大阪府教育委員会 『東奈良III・郡遺跡発掘調査概要』 1996
高槻市教育委員会 『新池』 高槻市文化財調査報告書 第17冊 1993
高槻市教育委員会 『嶋上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要』 X～IV 1986～1991
高槻市教育委員会 『嶋上郡衙遺跡群発掘調査概要』 VI・VII 1993
古代を考える会 『嶋上郡衙跡の検討』『古代を考える』22 1980
大阪府教育委員会 『西国・丹波街道』歴史の道調査報告書第6集 1990
大阪府教育委員会 『大阪府文化財分布図』 1996
大阪府教育委員会 『大阪府文化財知名表』 1997
『大阪府地名大辞典』 角川書店 1983
『大阪府の地名』 日本歴史地名体系28 平凡社 1986



- | | | | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 1. 総持寺遺跡 | 19. 弁天山遺跡 | 36. 松ヶ本北遺跡 | 53. 太田北遺跡 | 69. 今城塚古墳 | 87. 津之江南遺跡 |
| 2. 総持寺北道路 | 20. 上寺山古墳 | 37. 上中条遺跡 | 54. 高橋古墳 | 70. 豊塚古墳群 | 88. 東五百住遺跡 |
| 3. 太田遺跡 | 21. 初田2号墳 | 38. 駅前遺跡 | 55. 舞馬山古墳 | 71. 富田寺内町 | 89. 芝生遺跡 |
| 4. 太田城跡 | 22. 安威古墳群 | 39. 灰木遺跡 | 56. 舞鶴野古墳 | 72. 中城道路 | 90. 惠願寺山遺跡 |
| 5. 太田鹿寺跡 | 23. 将軍山古墳群 | 40. 新庄遺跡 | 57. 水室瓦器散布地 | 73. 半礼遺跡 | 91. 惠願寺山古墳群 |
| 6. 宿久庄遺跡 | 24. 安威城跡 | 41. 中条小学校遺跡 | 58. 観音寺 | 74. 溝昨遺跡 | 92. 芥川遺跡 |
| 7. 紫金山古墳 | 25. 安威遺跡 | 42. 東京貞遺跡 | 59. 弁天山B1号墳 | 75. 鮎川遺跡 | 93. 天神山遺跡 |
| 8. 青松塚古墳 | 26. 耳原古墳 | 43. 墓原古墳群 | (弁天山古墳) | 76. 日垣遺跡 | 94. 室松寺 |
| 9. 南塚古墳 | 27. 鼻掛古墳 | 44. 新池遺跡 | 60. 弁天山A1号墳 | 77. 御坊山古墳 | 95. 広智寺 |
| 10. 海北塚古墳 | (耳原方形墳) | 45. 上土室遺跡 | (岡本山古墳) | 78. 上野遺跡 | 96. 伝秀吉本陣跡 |
| 11. 地藏池南道路 | 28. 耳原遺跡 | 46. 上室遺跡 | 61. 大藏司古墳群 | 79. 大藏司遺跡 | 97. 猛神車塚古墳 |
| 12. 松沢池池底道路 | 29. 五日市遺跡 | 47. 番山古墳 | 62. 弁天山古墳群 | 80. 真上遺跡 | 98. 古曾部南遺跡 |
| 13. 磯井城跡 | 30. 中河原遺跡 | 48. 土保山古墳 | 63. 郡家山古墳群 | 81. 郡家木町遺跡 | 99. 上田部遺跡 |
| 14. 西福井遺跡 | 31. 郡遺跡 | 49. 二子山古墳 | 64. 前塚古墳 | 82. 郡家川西遺跡 | 100. 高柳城跡 |
| 15. 茶臼塚(馬塚)古墳 | 32. 郡見堂公園遺跡 | 50. 石山古墳 | 65. 上水室遺跡 | 83. 岬上郡衙跡附寺跡 | |
| 16. 郡山遺跡 | 33. 補精神寺跡 | 51. 雜体天皇陵陪塚 | 66. ツゲノ遺跡 | 84. 芥川南寺 | |
| 17. 郡山城跡 | 34. 春日道路 | 52. 大田茶臼山古墳 | 67. 水室遺跡 | 85. 川西古墳群 | |
| 18. 郡山古墳群 | 35. 倍賀遺跡 | (「伝難体天皇陵」) | 68. 水室塚古墳 | 86. 郡家今城遺跡 | |

第5図 総持寺遺跡と周辺の遺跡

第3章 調査成果

第1節 基本層序

当遺跡の調査前の地目は、第一勧業銀行が所有するグラントであった。グラントの西側にはクラブハウスが立ち、周辺は樹で囲われ、ヒマラヤ杉等が植えられていた。

現地形の地表面は標高23~24m前後を測り、南側へなだらかに傾斜する。北摂山系から南側の沖積平野にかけ下る周辺の地形と照合する。層序は大きく4層に分けられる。

まず、グラント直下には、これを構築するための盛土が厚み0.1~0.8mで堆積する。その下にグラント造成以前の現代旧耕作土が厚み0.1~0.3m、近世以降の旧耕作土が0.05~0.35mで堆積する。更にその下には中世以前の遺物を包含する層が0.05~0.3mあり、地山へと至る。

現代耕作土は土壤化が進んでおり、N 5 / 0 ~ 4 / 0 灰色細砂混シルト等を呈している。大半が灰白色の細砂混シルト等で形成された床上を有している。土層断面を観察すると、畦の高まりが観察された部位もあり、耕作地の上に直接盛土を行ないグラントを造成した地域があることが窺える。

近世以降の耕作土は7.5Y R 6 / 6 橙色粗砂混シルト等を呈している。一つの層の厚みは0.02~0.05mと薄く、平行に堆積し、それらが数層重なっていることが観察された。耕作が繰り返され、幾度か床面の修復が行なわれたことを示唆している。

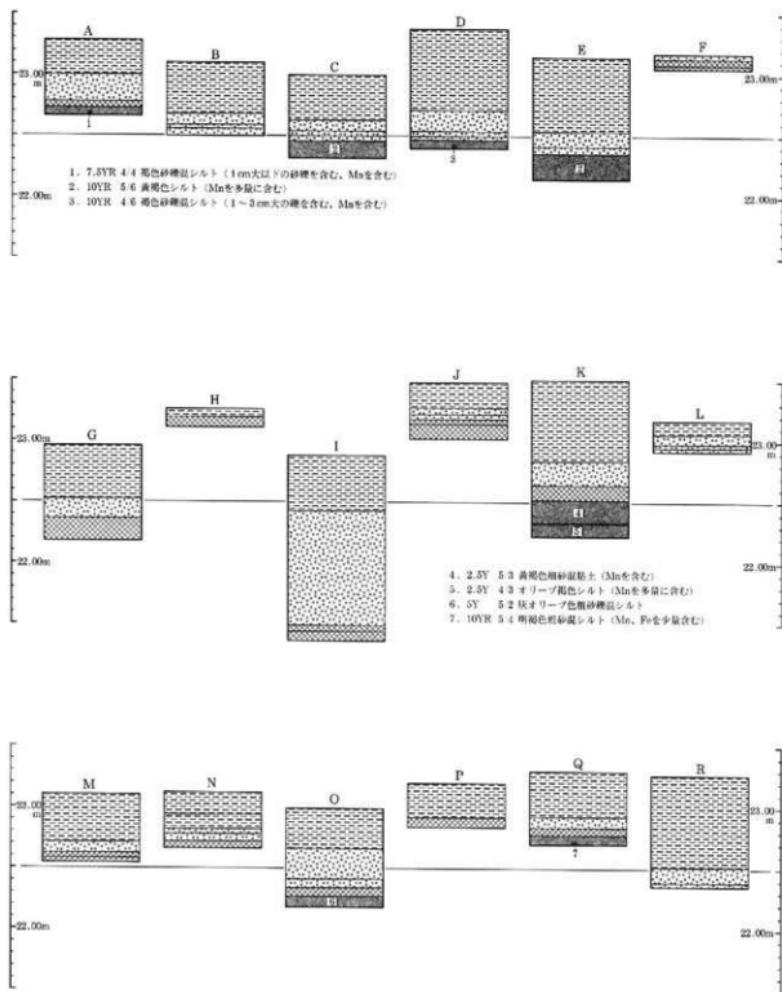
中世以前の遺物包含層は土壤化が進んで、マンガンを多く含み、10Y R 5 / 1 褐灰色粗砂混シルト等、褐色系の色調のシルトを呈している。古代の純粋な包含層とみなされるものは確認できなかった。中世と古代の遺構埋土とは良く似ており、相対的に古代の埋土がマンガン分が多く、かつ粘り気があることが感触として捕らえることができる程度である。古代の遺構埋土の土壤化がいくぶん進んでいるためと思われるが、この相対化は総ての遺構に当てはまるものではない。

これらの4層は、一部で削平されている箇所があったり、各々の層の厚みに差はあるが、調査地全域に普遍的に見られ当地の基本的層序を構成している。

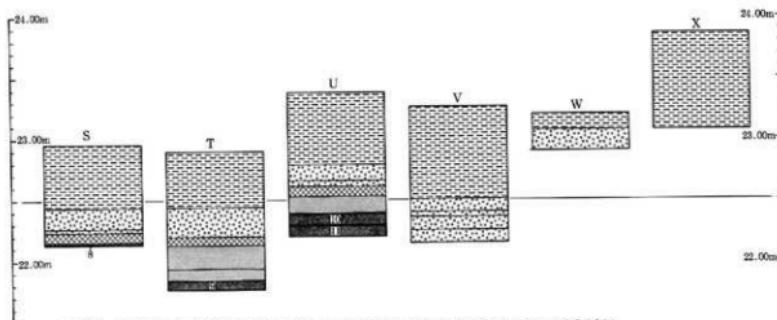
6c 地区の中央部南側、7b 地区中央部南側は近世耕作土と中世以前の遺物包含層の間にさらに、厚み0.2~0.3mの10Y R 5 / 8 黄褐色シルト、7.5Y R 6 / 3 にぶい褐色、2.5Y R 6 / 2 灰黄褐色シルト等を挟む。この層はあまり土壤化が進んでおらず、下層の褐色の中世以前の遺物包含層に比べマンガン分が、上層の橙色の近世耕作土に比べ鉄分が少ない。遺物は中世以前の遺物を包含するため、中世から近世の間のいくつかに形成された遺物包含層と考えられる。両地域は南北方向に谷筋が形成されており、中世、もしくはそれ以降に当地域を耕作地と化すために平坦に整地された時の堆積と思われる。

歴史的、地理的環境でも述べたとおり、当遺跡は富田疊層からなる低位段丘の富田台地上に立地している。よって当地の地山も大阪平野周縁の段丘に通有に見られるシルト・粗砂混疊層である。風化によって表層が一部シルト化し、酸化作用によって10R 5 / 4 赤褐色等を呈している。

遺構は近世以降の若干数を除いて、地山を掘りこんで構築されおり、地山直上の同一面で検出されている。いざれの地区においても、地山面は近世以降の耕作地作成による削平によって、階段状の平坦面を形成し、段の下を用水のための溝が巡っている。



第6図 調査地基本層序柱状図（1）



8. 10YR 5/1 灰褐色シルトと10YR 6/8 明黃褐色粗砂礫混シルトの互層 (5cm以下の砂礫を多く含む、Mn, Feを多く含む)
 9. 7.5YR 4/3 棕褐色粗砂礫混シルト (1cm以下の砂礫を含む、Mnを多く含む、Feを含む)
 10. 7.5YR 5/2 灰オリーブ色粗砂礫混シルト (3cm以上の砂礫を含む、弱グライ化)
 11. 10YR 4/6 棕褐色シルト混砂礫 (Feを多く含む、弱グライ化)



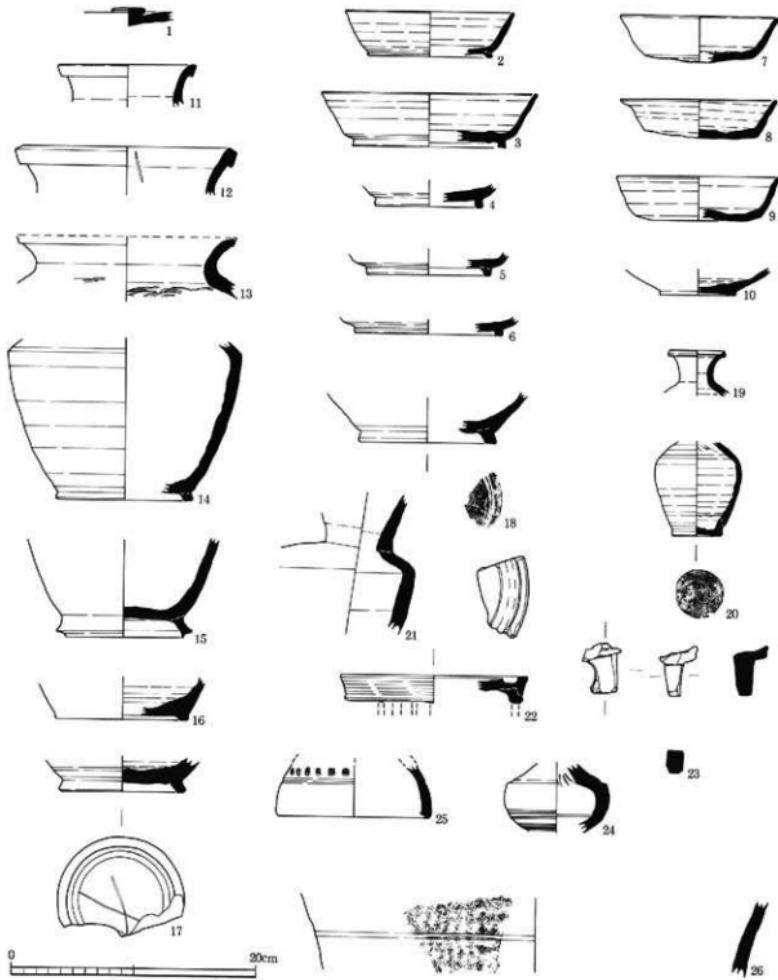
12. 黒褐褐色土
 13. 7.5YR 6/3 にぶい褐色粗砂混シルト (3cm以下の砂礫を少量含む、Mnを多量に含む、Feを含む)



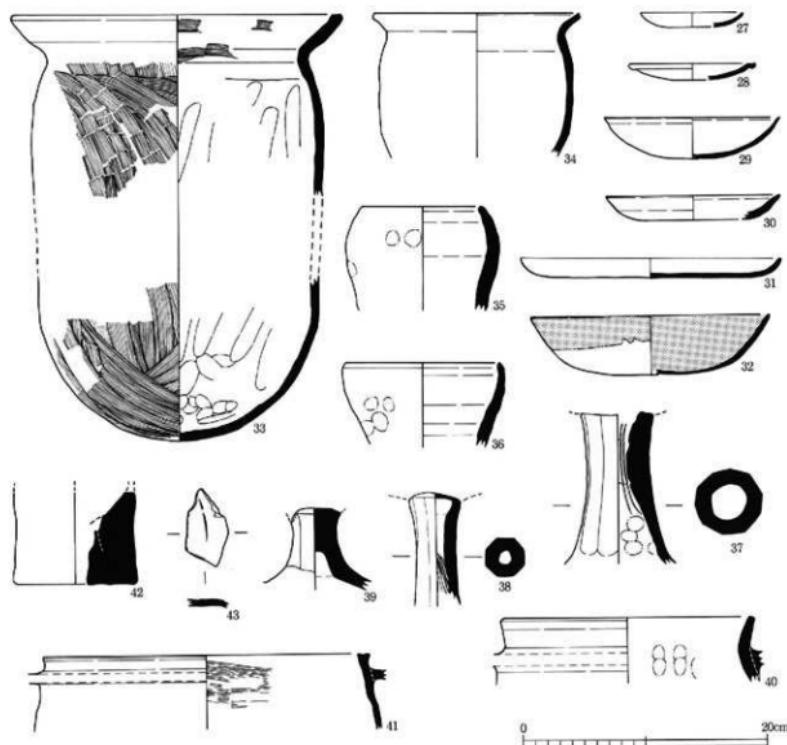
第7図 調査地基本層序柱状図 (2)

第2節 包含層出土の遺物

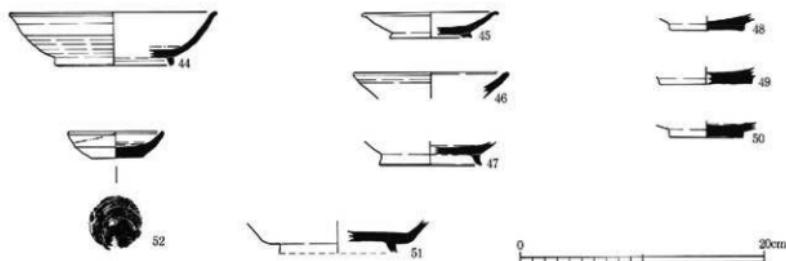
包含層から出土した遺物の多くは、基本的層序で述べた中世以前の遺物包含層から出土している。具体的に集計を行なっておらず、調査および整理段階での担当者の感覚によって判断せざるえない。このような主観的な部分が多分にあるという限界を前提として、まことに勝手ではあるが、以下の記述を勘案していただきたい。



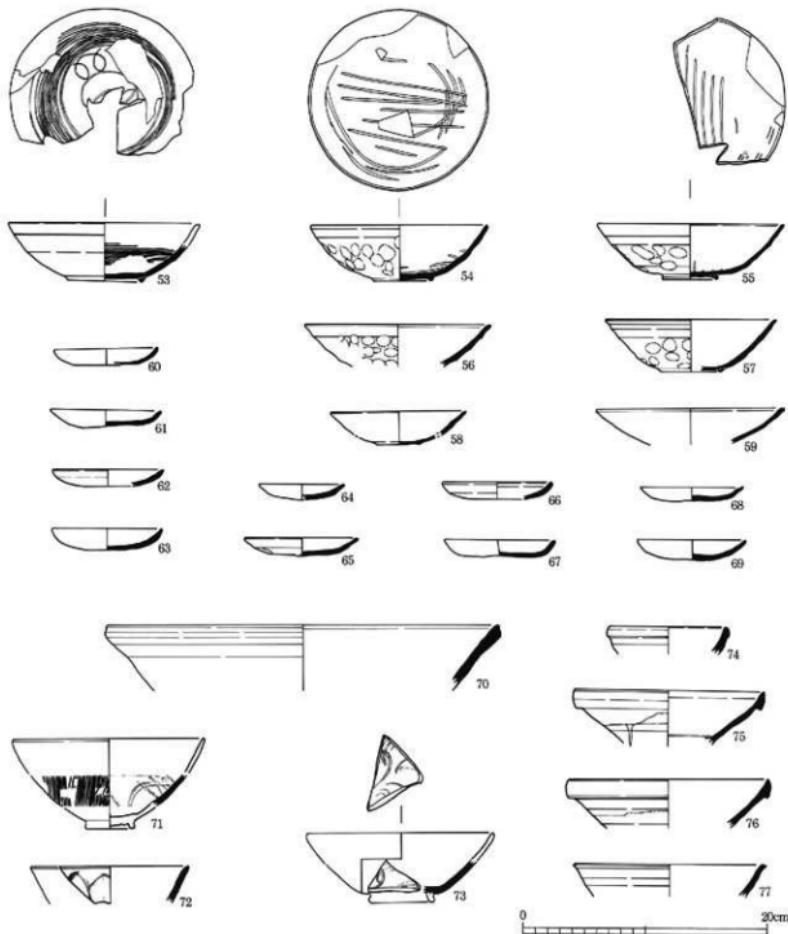
第8図 包含層出土の遺物（須恵器）



第9図 包含層出土の遺物（土師器）



第10図 包含層出土の遺物（緑釉陶器、灰釉陶器）

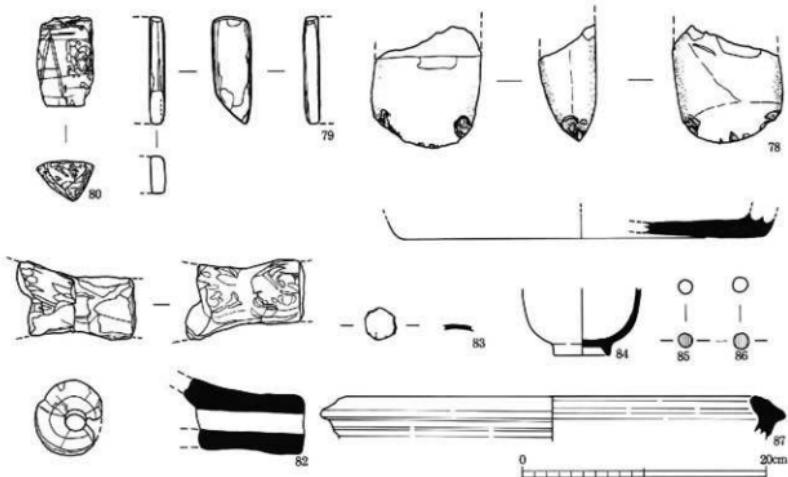


第11図 包含層出土の遺物（中世の土器）

大半の遺物が古代、中世に属するものといえる。当遺跡が古代および中世の集落跡であるということと、呼応する状況といえる。

特に、古代の遺物は奈良・平安時代、8世紀から10世紀前半の遺物が多く、須恵器壺・壺・杯類、土師器壺・杯皿類が目立って出土した。この時代ではほかに、土師器羽釜・高杯、黒色土器A類椀が目に付いた。緑釉陶器は碗・皿が若干出土している。灰釉陶器も出土しているが、緑釉陶器よりも数は少ない。製塩土器は数が少なく、図化に耐えられるものは包含層出土の2点のみである。

ほかに、須恵器円面鏡片、須恵器風字鏡脚部が出土し、識字層の存在を窺わせる。



第12図 包含層出土の遺物（石製品、土製品、金属製品、近世陶磁器）

中世の遺物は12～14世紀の平安時代末から鎌倉時代に属するものが多いと思われる。特に、瓦器椀、土師器皿類が目についた。青磁や白磁の細片も散見される。ただし、15世紀、16世紀代の遺物はほとんど出土していない。

古代、中世以外の遺物では古墳時代の遺物、須恵器甕・甕、弥生時代の太型蛤刃石斧、柱状片刃石斧が出土している。

当調査地周辺には同じ總持寺遺跡内や、太田遺跡等で古墳群、弥生時代の集落跡が周知されていることから、これらとの関連を想起させるものである。

第3節 各調査区の概要（第3図）

各調査区の代表的な遺構については後述するが、ここでは位置、面積および遺構面の形状、遺構の検出状況、注目すべき遺構について簡単に述べておくこととする。

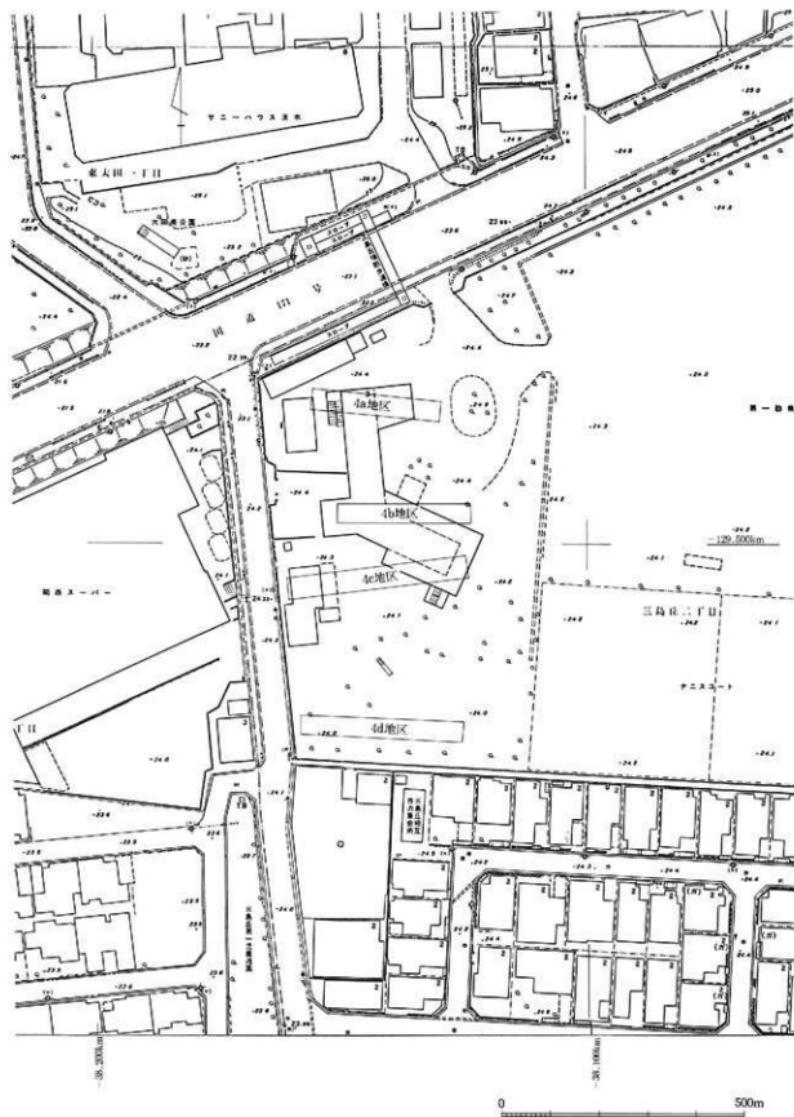
1. 1 地区の概要

1地区は調査地全体の中で東端にある。調査面積は579m²を測る。調査対象地に東接する道路の拡幅工事に関連して、幅約5mで道路に沿うように細長い調査区を設定し、最初に調査を実施した。

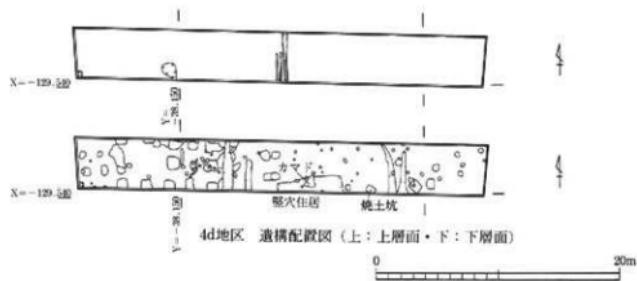
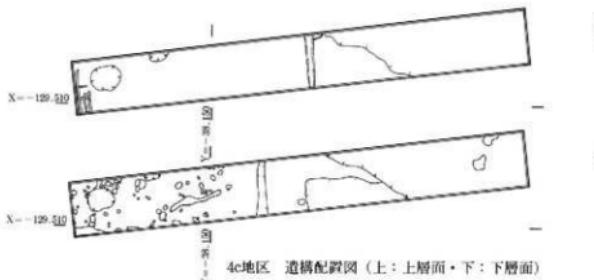
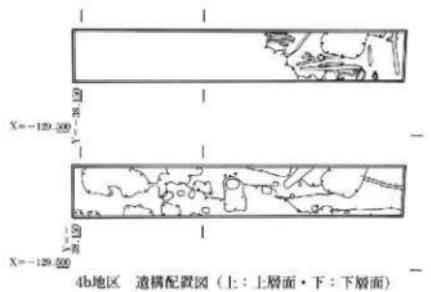
遺構面はゆるやかに南に向って下降傾斜を示し、古代と中世の遺構を同一の面でほぼ全域にわたり検出した。

古代の遺構は、主に柱穴で、なかには軸をそろえるものがあり、掘立柱建物の一部あるいは柵になると考えられる。

中世の遺構は、主に古代と同様に柱穴を確認したほか、中央部で井戸（10080）を1基検出した。



第13図 4地区(試掘坑)位置図



第14図 4地区（試掘坑）遺構配置図

2. 2 地区の概要

2地区は調査地全体の中で中央よりやや南西部にあたる。調査面積は5,694m²を測る。本区の内南西部は近世以降の溜池に相当する。池底の調査も実施したが、中世以前の遺構は確認できなかった。

遺構面はほぼ平坦面をなし、古代と中世の遺構を同一面で溜池部分を除くほぼ全面で検出した。

古代の遺構は、東半部では真東西に主軸をおく掘立柱建物を数棟、ほぼ中央部で井戸、西半部で真方位に斜行する総柱の掘立柱建物数棟、ほかを検出した。井戸（12623）は、時期の異なる2基が同一地点で重複して設けられている。

中世の遺構はおもに西半部で掘立柱建物数棟、素掘りの井戸1基（12651）、土墳墓1基（12682）を検出した。

3. 3 地区の概要

3地区は調査地全体のなかで中央よりやや北西部にあたる。調査面積は4,197m²を測る。本区は重機の進入路の確保等の関係で3つの小区に分けて調査を実施した。うち中央の最も広い調査区を3a地区、2地区に接する南西側を3b地区、国道171号線側部を3c地区とし、その順に調査を実施した。なお、3c地区では樹木保存の関係で全面の調査は行なっていない。

遺構面は、ほぼ南に向って緩やかな下降傾斜を示し、古代と中世の遺構を同一の面でほぼ全域にわたり検出した。

古代の遺構は、ほぼ中央部で南北方向の数条の溝や櫛を、その東西両側で、ほぼ真方向に主軸をおく掘立柱建物や、やや斜行する総柱の掘立柱建物10数棟、さらに東側部では掘立柱建物群を区画すると推定できる東西方向の溝等ほかを検出した。なお、3a地区のほぼ中央付近の溝14558上層中から石製の巡方が1点出土した。

中世の遺構は、散在的ではあるがほぼ全面で柱穴や掘立柱建物を検出し、3a地区南西部では土墳墓1基（13376（14443））を検出した。

4. 4 地区の概要（第13・14図）

4地区は、本調査の直前までクラブハウスが存在した範囲にあたり、その部分における遺構、遺物の遺存有無の確認を目的として1995年度に実施した試掘調査区である。4a地区～4d地区の4箇所の東西方向の調査区を設定して実施した。面積は都合約508m²になる。

この内、4a地区～4c地区の範囲は、1996年度に本調査を実施した5地区に含まれるので、4d地区的試掘結果の概要のみを記す。

4d地区では全面で2遺構面を確認した。上層面では近世以降の耕作関係の遺構と考えられる南北方向の小溝等を調査した。下層面では、平面方形の北辺にカマドをもつ、一辺約5mの竪穴住居跡1棟のほか、南北方向の溝数条、柱穴、土坑、ピット多数を検出した。柱穴では、平面方形のものに一辺が0.7～1.0mの大形がある。うち調査区西半部では、柱穴の軸を揃えるものが見られ、掘立柱建物の一部あるいは櫛になると考えられる。柱穴軸には、ほぼ真方位にのるものと斜行する二者があり、複数時期の建物等の存在が予想できる。また、竪穴住居の東約2mには、炭や焼土を含む土坑状遺構がみられ注意された。これらのうち、竪穴住居は古墳時代・大形方形柱穴は奈良時代～平安時代、そのほかは古墳時代～中世の所産と推定できる。遺物包含層からは、古墳時代～近世の土器類がコンテナに一箱と埴輪片が若干出土した。埴輪片の存在は、付近に古墳が存在している可能性を示唆して刮目できる。

なお、上層面の遺構は掘削し調査を行なったが、下層面の遺構は検出のみに留めているので、出土遺

物による所属時期の詳細な検討は実施できていない。

5. 5 地区の概要

5地区は調査地全体の中で西端に当たる。試掘調査である4地区的調査結果を受けて、実施した。調査面積は2,846m²を測る。調査区の大半はa地区である。当初、作業車等の進入路を確保するため、北東隅を約100m程掘り残した。この部分を進入路を移設した後、b地区として調査した。

遺構面つまり地山面は、後世に耕作に適するように、3段の平坦な面を持つ階段状に削られ、南側に下っている。段の直下には近世以降の耕作に伴う溝が走る。北端と南端では約0.55mの落差がある。調査区の中央部は以前にクラブハウスが立っていたため、地中は建物の基礎で乱され遺構はほとんど残っていないかった。

ピットは南側と西側に集中しており、特に古代の掘立柱建物は南部に多い。南西部は総柱の建物が多く、倉庫域であったようである。総柱掘立柱建物21069の柱穴の1つ（柱穴21091）からは墨書き土器が出土している。調査区を十文字に切るような感じで古代、中世の溝が走る。

6. 6 地区の概要

6地区は調査地全体の中で中央よりやや北東に位置する。調査面積は6,229m²を測る。調査区の西半分がa地区、東半分がc地区である。また、作業車の仮設進入路を確保するためにa地区的西端462m²をb地区として先に調査した。

遺構面は基本的に緩やかに南側に向かい傾斜する。東側のc地区中央部は小さな谷状の地形を呈し、北側から南側に流れる自然流路となっている。遺構面の標高も、北端と南端で約0.4mの落差がある。

当地区からは古代の掘立柱建物がほぼ全域で多数検出されている。中世の柱穴はおおよそ西部、中央部、東部に分かれ分布する。西南端には3地区から続く土地を区画すると思われる古代の溝が走り、7地区に延びている。

中世の墓はすべて土壙墓であり、中央部に南北方向に3基並び、東部は東西方向に3基並ぶ。土壙墓には、小刀や青磁碗を伴うもの（土壙墓22509・22510・22722）がある。東部の3基は小刀、鳥帽子を伴うもの（土壙墓23660・23664・23783）であった。古代、中世の素掘りの井戸が検出されている。古代の井戸には墨書き土器を出土したもの（井戸22280・23658）もある。

7. 7 地区の概要

7地区は調査地全体の中で中央よりやや北東に位置する。調査面積は5,330m²を測る。調査区の西半分がa地区、東半分がb地区である。地山面の標高は、北端と南端で約0.55mの落差がある。

当地区からは古代、中世の掘立柱建物がほぼ全域で多数検出されているが、a地区的中央部はピットが少ない。a地区的遺構面は耕作地化による削平の為平坦である。中央部より南側および東端に段を有し、段の直下には5a地区と同様の近世遺構の溝が走る。b地区的特に西側は耕作地化に伴う後世の削平が激しく、古代の遺構の残りも悪いと思われる。b地区的中央部は6c地区から続く小さな谷を形成し、北から南に流れる自然流路となっている。井戸は西端と東端に1基ずつ検出した。いずれも古代の素掘りの井戸である。中央部北端では、土師器皿に青磁碗を被せた状態で出土した土壙墓を検出した。

8. 8 地区の概要

8地区は調査地全体の中で北東端に当たる。調査面積は148m²を測り、幅は4m程で細長い。遺構面は表土直下に存在した。中世のピットが200基ほど密集していたが、調査区の幅が狭いこともあり、明確な掘立柱建物は検出していない。

第4節 遺構と遺物

1. 1地区

掘立柱建物

当地区には掘立柱建物と断定できる遺構は認められない。ただし、掘立柱建物10084や掘立柱建物10109については柱間は西側の調査区外へ伸びると想定して考えている。

ピットおよび土坑

当地区には目立った特徴を持つ土坑はない。直径0.2~0.4mの平面プランが円形の小さなピットが大半を占め、その多くは中世の遺構と考えられる。これらのピットの出土遺物のうち図化したものは少ない。（第15図）

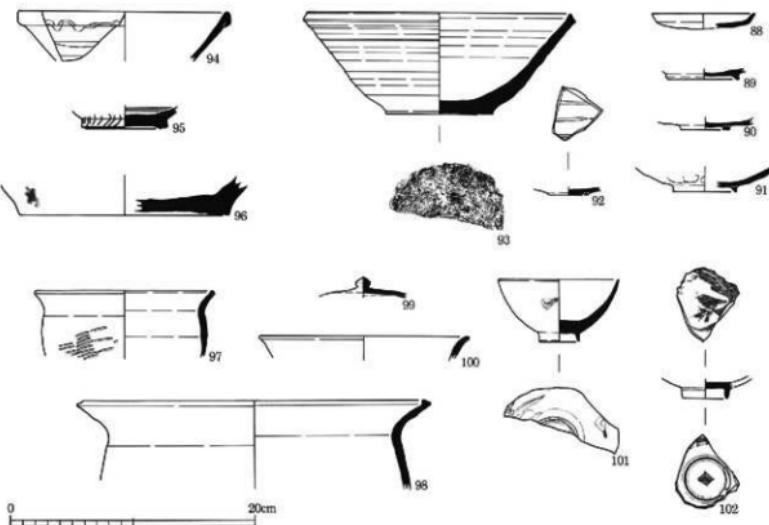
溝

溝10001

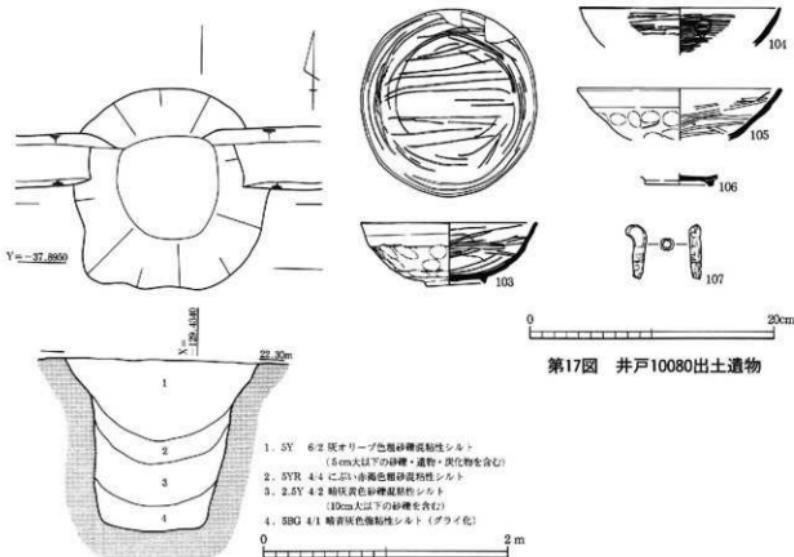
1地区の北側、6A17V Dに位置する。東西方向に走る深さ0.04~0.1mの溝である。土師器皿と陶器片が出土した。中世もしくは近世の溝と思われる。

溝10003

1地区の南側、6A17V Dに位置する。溝10001の南側をこれと平行に走る深さ0.5~0.7mの溝である。



第15図 1地区遺構出土遺物（土器）



第17図 井戸10080出土遺物

第16図 井戸10080平面・断面図

6 c 地区の溝23602につながる。染付碗等、近世の遺物が出土した。

溝10009

6 A 22 L C に位置する。東西方向に走る深さ0.1mの溝である。土師器壺細片が出土している。7 b 地区で溝25249につながる。

溝10011

1 地区の南端、6 A 22 U D + U E に位置する。深さ0.5mの溝である。当初は古代もしくは中世の区画溝かとも思えたが、近世陶器の細片が出土した。

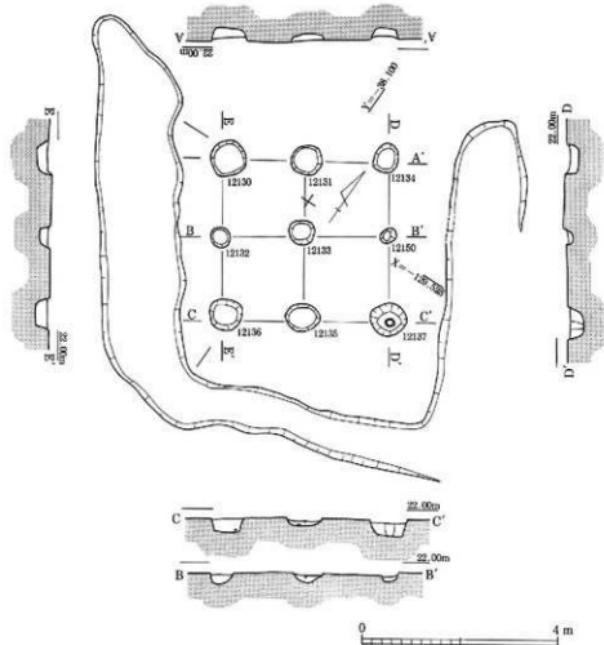
溝10014、溝25248

1 地区の中央部、6 A 22 C A ~ C C に位置する。東西方向に走る深さ0.02~0.05mの溝である。7 b 地区の溝25248につながる。須恵器壺片が検出されているが、古代の溝かは不明である。

井戸

井戸10080 (第16、17図)

1 地区の中でやや南側にあたる 6 A 22 I B に位置する。直径1.5mの平面プランが隅丸方形を呈する素掘りの井戸である。深さは1.4mを測る。検出面より約0.3m直下で直径約1.25mにすばり土層断面はロート状を呈する。遺物は瓦器椀、中国製白磁碗、須恵器壺、鉄製釘が出土している。平面プランの形状から井戸枠が存在した可能性も考えられる。瓦器椀は和泉型III-2、楠葉型III-1期の範疇にはいると思われ、12世紀後半~13世紀前半頃の井戸と考えられる。



第18図 挖立柱建物12130平面・断面図

2. 2 地区

掘立柱建物

掘立柱建物12130（第18図）

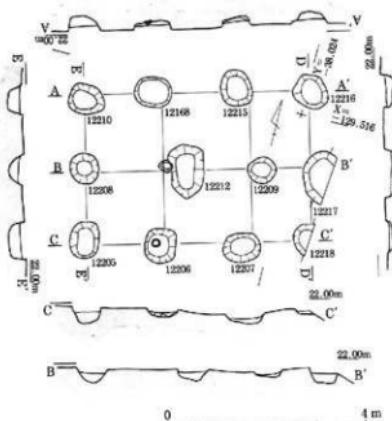
2地区南部5H5E近辺で検出した。2間×2間の東西棟の総柱建物であり、規模は3.4m×3.3m、面積は11.2m²を測る。主軸はN-31°-Eで東に大きく振れる。ほかの掘立柱建物の方向と大きく異なる。北側を除く3面に溝が巡る。遺物は須恵器甕、土師器甕の細片が出土した。古代の掘立柱建物である。

掘立柱建物12168（第19図）

2地区南西部5H5E近辺で検出した。3間×2間の総柱建物である。建物の南東部は近世の溜池によって切られている。規模は4.6×3.1mを測る。主軸はN-16°-Wをとる。土師器甕片、甕片が出土した。

掘立柱建物12181（第20図）

2地区南西部5H5F C近辺で検出した。3×2間の東西棟の総柱建物であり、4.7×3.3mを測る。主軸はN-12°30'-Wをとる。柱穴の掘り方は、平面形が隅丸方形を呈するものもあるが、多くは不定形である。断面形は逆台形を呈するものが多い。遺物は出土していない。建物の形状から考え古代に属するものと思われる。



第19図 掘立柱建物12168平面・断面図

掘立柱建物12285（第21図）

2地区北西部5D25Y Aで検出した掘立柱建物である。サブトレーナー掘削のため、建物南西部が切られている。溝12266を切っている。3間×2間の東西棟の総柱建物であり、規模は3.9×3.7mを測る。主軸はN-15°-Wをとる。遺物は須恵器壺・杯B・杯蓋Bつまみ・平瓶、土師器羽釜等の細片が出土している。

掘立柱建物12381（第22図）

2地区北西部5D25X Dで検出した掘立柱建物である。3間×2間の総柱建物であり、規模は4.9×4.2mを測る。主軸はN-16°-Wをとる。遺物は土師器壺・把手・須恵器壺・甕・杯身が出土している。

掘立柱建物12491（第23図）

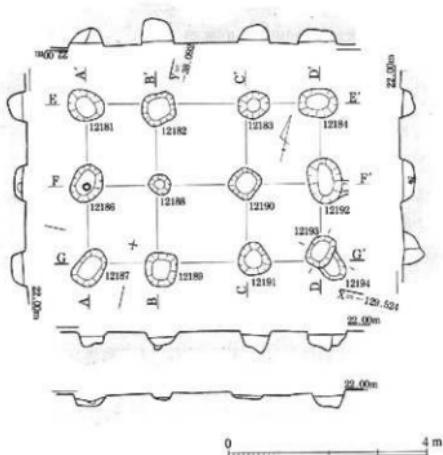
2地区と3b地区にまたがり5D25U E近辺で検出した掘立柱建物である。南側の棟持ち柱跡が削平されている。5間×2間の南北棟の建物であり、規模は4.3×15.5mを測る。主軸はN-4°-Eである。遺物は土師器壺・須恵器壺の細片が出土している。

掘立柱建物12532（第24図）

2地区北西部5H5AG近辺で検出した掘立柱建物である。建物の大部分を近世の溜池によって切られており、規模・構造は明らかでない。主軸はN-10°-Wをとる。柱穴の掘り方は逆台形を呈するものが多い。

掘立柱建物12551（第25図）

2地区北部5D25W I近辺で検出した掘立柱建物である。北側の



第20図 掘立柱建物12181平面・断面図

棟持ち柱跡が削平されている。柱穴は小ぶりである。3間×2間の南北棟建物であり、規模は6.5×4.7mを測る。主軸はN-0°30'-Eである。土師器甕細片が出土している。

掘立柱建物12582（第26図）

2地区北端5 D 25 S I付近で検出した掘立柱建物である。北西端の柱は削平されている。2間×2間の建物で、規模は4.4×3.5mを測る。主軸はN-3°-Eをとる。土師器細片が出土している。

掘立柱建物12579（第27図）

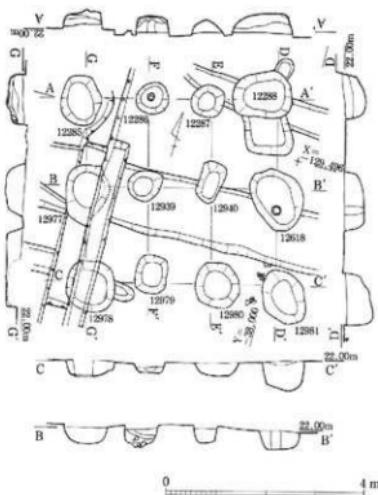
2地区と3 b地区5 D 25 S G付近で検出した掘立柱建物である。3間×2間の東西棟の建物であり、規模は6.8×4.1mを測る。主軸はN-2°-Eをとる。遺物は土師器甕・杯、灰釉陶器碗（K-90型式）の細片が出土している。平安時代の建物と思われる。

掘立柱建物12654（第28図）

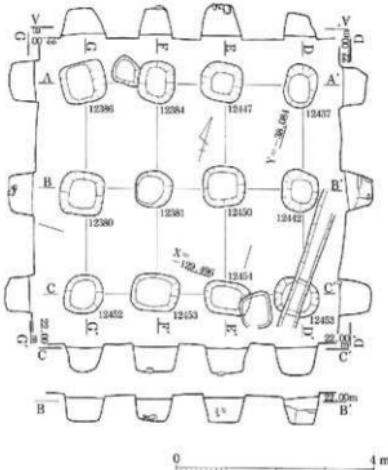
2地区北東部5 D 25 V N付近で検出した。3間×2間の掘立柱建物であり、規模は5.6m四方の建物である。柱は変則にならぶ。土坑12682を切っている。主軸はN-3°-Eをとる。遺物は楠葉型III-1、2期の瓦器挽と土師器、須恵器の細片が出土した。中世の建物である。

掘立柱建物12685（第29図）

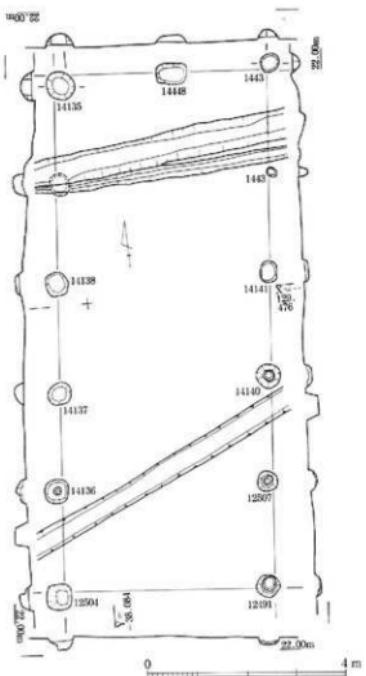
2地区北西部5 D 25 U P付近で検出した。2間×2間の掘立柱建物である。規模は4.3×4.3mを測る。主軸はN-0°をとる。遺物は土師器羽釜細片が出土している。



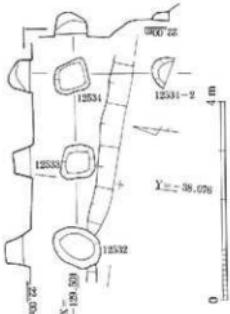
第21図 掘立柱建物12285平面・断面図



第22図 掘立柱建物12381平面・断面図



第23図 挖立柱建物12491平面・断面図



第24図 挖立柱建物12532平面・断面図

掘立柱建物12701（第30図）

2地区北東部5D25US付近で検出した。掘立柱建物12707・12730に切られている。3間×2間の掘立柱建物である。柱穴の平面形は方形でしっかりしている。規模は7.1×4.5mを測る。主軸はN-90°-Wである。遺物は須恵器甕、土師器甕の細片が出土している。

掘立柱建物12683（第31図）

2地区北西部5D25VP付近で検出した。2×2間の掘立柱建物である。規模は3.2×3.2mを測る。主軸はN-0°をとる。柱穴の平面形は方形でしっかりしている。遺物は土師器細片が出土している。

掘立柱建物12707（第32図）

2地区北東部5D25TTで検出した掘立柱建物である。3間×2間の東西棟の建物であり、規模は7.9×4.5mを測る。主軸はN-4°-Eである。掘立柱建物12701が立替られたものと思われる。遺物は須恵器甕・杯H、土師器甕・碗類が出土している。

掘立柱建物12730（第33図）

2地区と7a地区にまたがり検出した掘立柱建物である。未検出の部分が多く確定はできないが、4間×2間の南北棟と思われる。遺物は土師器甕細片が出土している。

掘立柱建物12746（第34図）

2地区と3b地区にまたがり5D25QL付近で検出した掘立柱建物である。柱穴の残りは悪い。2間×2間の縦柱建物であり、規

模は $4.1 \times 3.6\text{m}$ を測る。主軸はN-0°である。遺物は須恵器壺が出土している。

掘立柱建物12784（第35図）

2地区北東部5D25QOで検出した掘立柱建物である。4間×2間の南北棟建物であり、規模は $7.6 \times 4.6\text{m}$ を測る。主軸はN-6°-Eである。遺物は土師器、須恵器壺細片が出土している。

掘立柱建物12789（第36図）

2地区北東部5D25TPで検出した掘立柱建物である。北側の柱穴を欠いている。2間×2間の東西棟の建物であり、規模は $5.1 \times 3.1\text{m}$ を測る。主軸はN-1°30'Wをとる。遺物は土師器壺細片が出土している。

掘立柱建物12792（第37図）

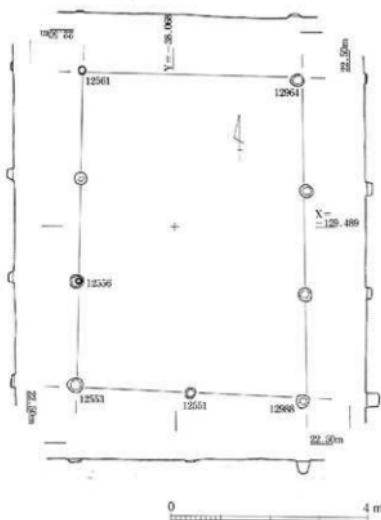
2地区北東部5D25SPで検出された掘立柱建物である。柱穴の掘り方は方形でしっかりしている。2間×2間の総柱建物である。 $3.8 \times 3.4\text{m}$ を測る。主軸はN-2°-Eをとる。遺物は土師器壺や須恵器杯B・杯蓋Gが出土している。飛鳥時代の建物であろう。

掘立柱建物12860（第38図）

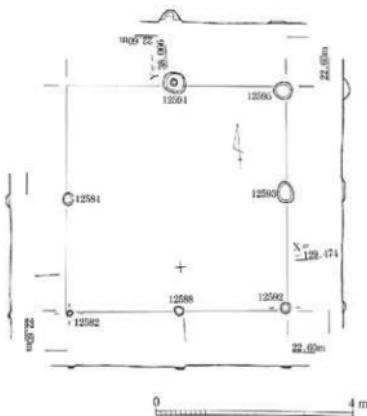
2地区北西部5D25QQで検出した掘立柱建物である。柱穴の掘り方は方形でしっかりしている。3間×2間の建物である。規模は $6.6 \times 3.9\text{m}$ を測る。主軸はN-2°-Eをとる。遺物は土師器細片が出土している。

掘立柱建物14585（第39図）

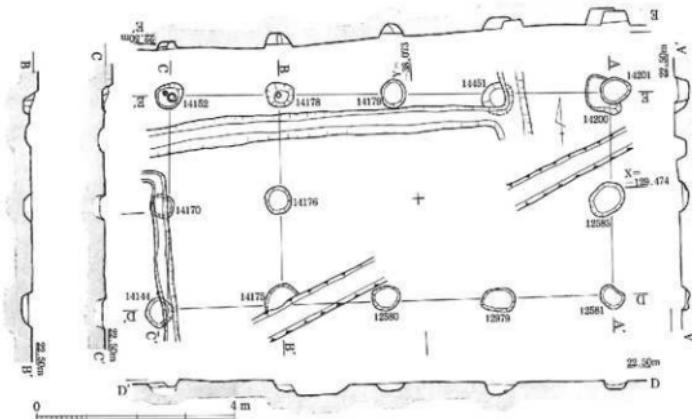
2地区南部5D25YAで検出した掘立柱建物である。3間×3間



第25図 掘立柱建物12551平面・断面図



第26図 掘立柱建物12582平面・断面図



第27図 掘立柱建物12579平面・断面図

の縦柱建物である。規模は3.8×3.5mを測る。主軸はN $1^{\circ}30'-E$ をとる。掘立柱建物12285と重複し、これに切られている。遺物は出土していない。

ピットおよび土坑

土壙墓12682（第40図）

当土壙墓は掘立柱建物12654と重複し、これを切っている。長径約2.5m、短径約2.0mの範囲に拳大の礫が密集する。周辺にも同様の礫がみられ、これらも土壙墓12682と同一の遺構を形成していたものと考えられる。礫を除去しても明確な掘り方は確認することはできなかったが、南西部にむけて緩やかに窪んで行く。遺物は古代の須恵器、土師器のほか、中世の土師器皿、瓦器椀、瓦質三足、中国製白磁等の細片が出土している。また、礫の間から人骨であろうと思われる骨片が出土しており、中世の墓であったと思われる。瓦器椀は楠葉型III-1期にあたると考えられる。12世紀後半～13世紀初頭の遺構であろう。

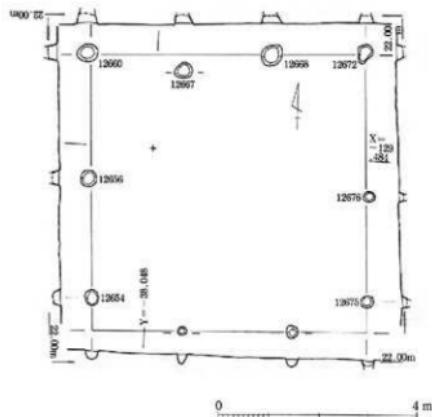
溝

溝12233

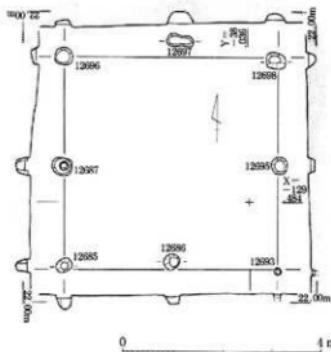
2地区の南西に位置する。溝12899に接合し、南東方向に走る。深さ0.05m前後を測る。溝12261、溝12262、溝12266に切られ、溝12265を切っている。遺物は出土していないが、古代の溝12899に接続することから当該する時期であろう。

溝12261

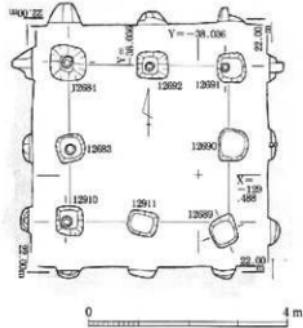
2地区の西端、中心部は5H5BCに位置する。溝12263と重複しこれに切られて東西方向に走る。西側は途切れているが、溝12262につながり、さらに5a地区の溝20483に續くと思われる。古代の須恵器のほか、瓦器椀、土師器皿が出土しているが溜池につながることから近世以降の溝と思われる。深さ0.1mを測る。



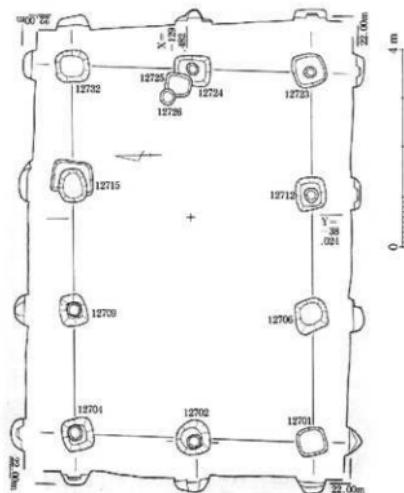
第28図 挖立柱建物12654平面・断面図



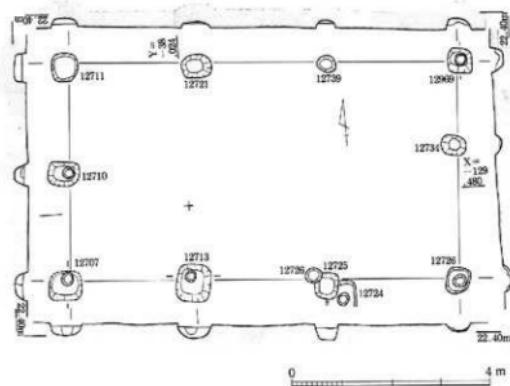
第29図 挖立柱建物12685平面・断面図



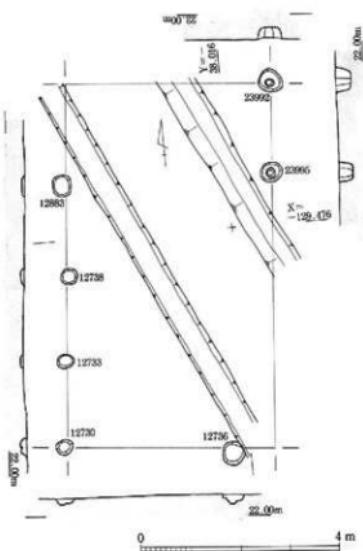
第30図 挖立柱建物12683平面・断面図



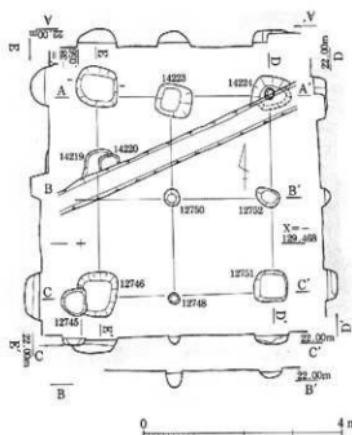
第31図 挖立柱建物12701平面・断面図



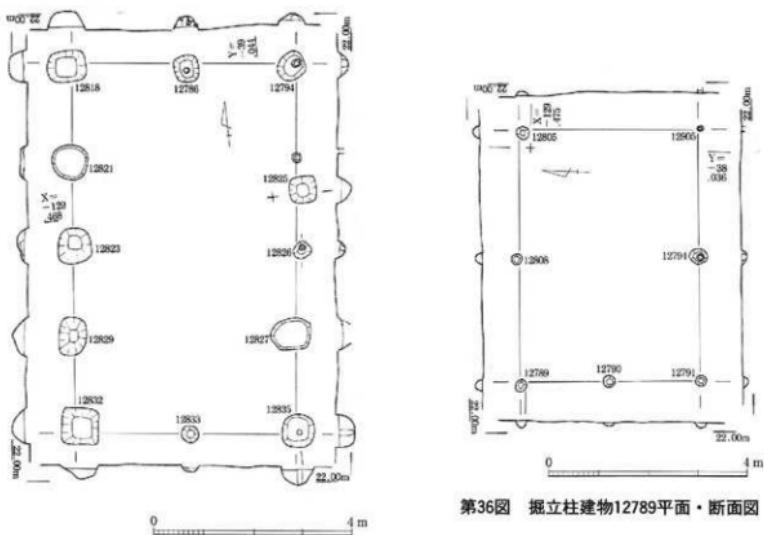
第32図 挖立柱建物12707平面・断面図



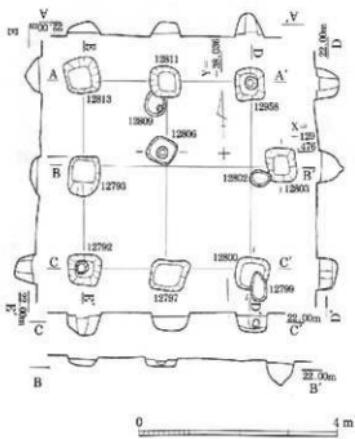
第33図 挖立柱建物12730平面・断面図



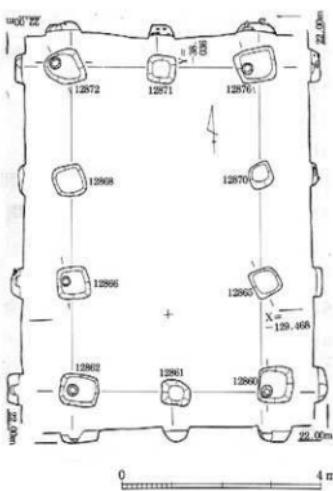
第34図 挖立柱建物12746平面・断面図



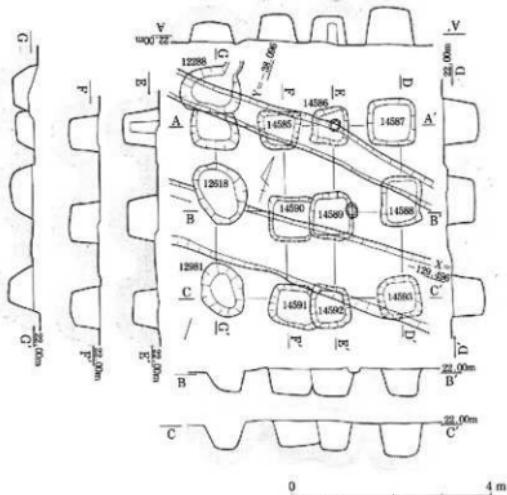
第35図 掘立柱建物12784平面・断面図



第37図 掘立柱建物12792平面・断面図



第38図 掘立柱建物12860平面・断面図



第39図 挖立柱建物14585平面・断面図

溝12266

2地区の西端、5D24YW～5D25YGに位置する。溝12263の北をこれと平行する形で東西に走る。溝の中央部で二股に分かれる。溝12899、掘立柱建物12451を切り、掘立柱建物12285に切られる。遺物は須恵器杯H・壺、土師器壺が出土している。深さは0.03m前後を測る。古代の溝の中ではやや古くまで遡る可能性のある遺構である。

溝12602

2地区の中央から東にかけ、溝12266を東側に延長した部分に位置し、東西方向に真直に走る。遺物は須恵器杯H・壺・壺・旗子、土師器壺が出土した。深さは0.15～0.20mを測る。溝12629、溝12624に切られている。

溝12617

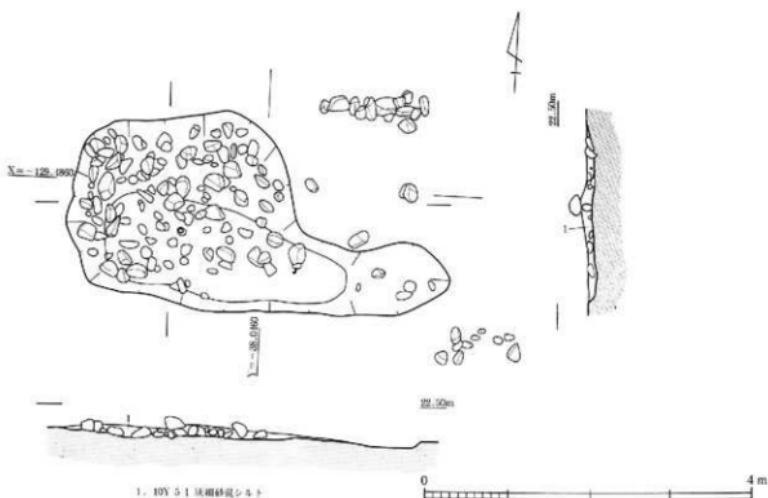
溝12266の北側、5D25XA付近から東へ延びる溝である。深さは0.05m前後を測る。遺物は瓦器壺と須恵器壺・壺、土師器片が出土している。中世の耕作に伴う溝であろうか。この溝の北側を平行して走る溝12600も遺物は出土していないが埋土、形状、規模から考えて同様の性格を有していたものと思われる。

溝12629

溝12629の北側をこれと平行して東西に走る溝である。西端で北側に折れ、溝12643に接続する。深さは0.05mを測る。遺物は瓦器壺片、須恵器片、土師器片が出土した。中世の溝と思われる。

溝12643

2地区的中央、5D25YK付近から北に走る。溝12629に接続し、井戸12623を切る。深さは0.05～



第40図 土塙墓12682平面・断面図

0.18mを測る。遺物は出土していないが、溝12629につながることから中世の溝と思われる。

溝12899

2地区の西端、5D24XW付近から南東方向に伸び溝12233に接続する。西側はその端で大きく幅2.0mに膨らみ調査区を越えて5a地区の溝20537に続くと思われる。深さ0.05~0.16mを測る。遺物は比較的多く、須恵器杯・壺・甕・瓶子、土師器甕・壺が出土地している。9世紀代の遺構と考えられる。

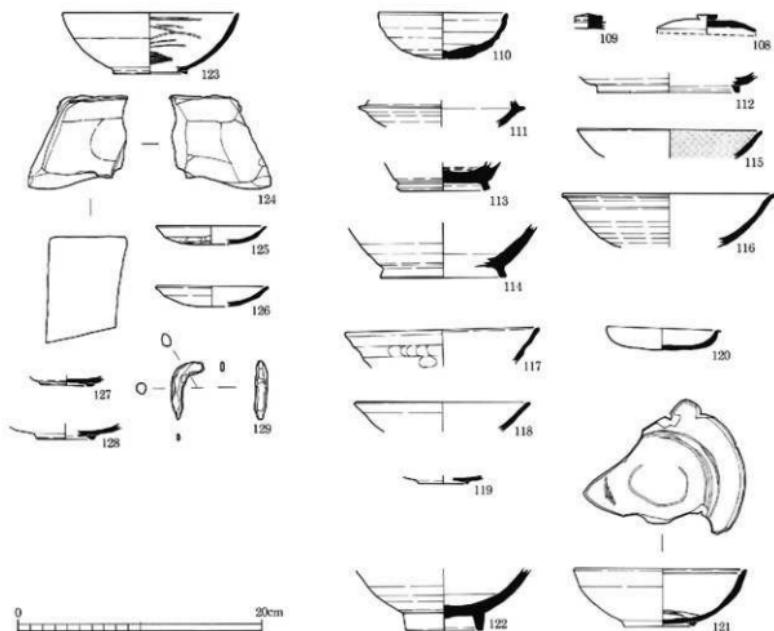
井戸

井戸12623（第42~45図）

2地区のはば中央、5D25W J・X Jに位置する。この井戸は一度作り替えが行なわれていたことが観察できた。掘り方の平面プランは検出面で径が直径3.4mの隅丸方形に近い不定円形である。上部の井戸は検出面から0.8mの深さで井戸枠を検出した。

ほぞ穴が穿たれた転用材を含む丸太で「井」形に組み井戸枠としている。井戸枠の四隅に各柱をたてる。角中にはほぞ穴を穿つ。このことから上部の井戸は立板組横桟どめ型式の井戸であったと考えられる。内法は1.2m×0.9mの方形で、検出面から深さ1.6mで底となる。底には拳大の石が上面が平らになるように敷き詰められていた。埋土中には拳大の石が投げ込まれていた。上部の井戸は湧水層には達しておらず、水溜めの井戸として利用されていたと考えられる。遺物は、須恵器、土師器のほか灰釉陶器碗が出土している。

下部の井戸の井戸枠は廃絶時に抜き取られていたが、掘り方が方形を呈することから上部の井戸と同様縦組横桟型式の井戸であった可能性が高い。埋土から井戸の側材として使用されていたと考えられる



第41図 2地区遺構出土遺物

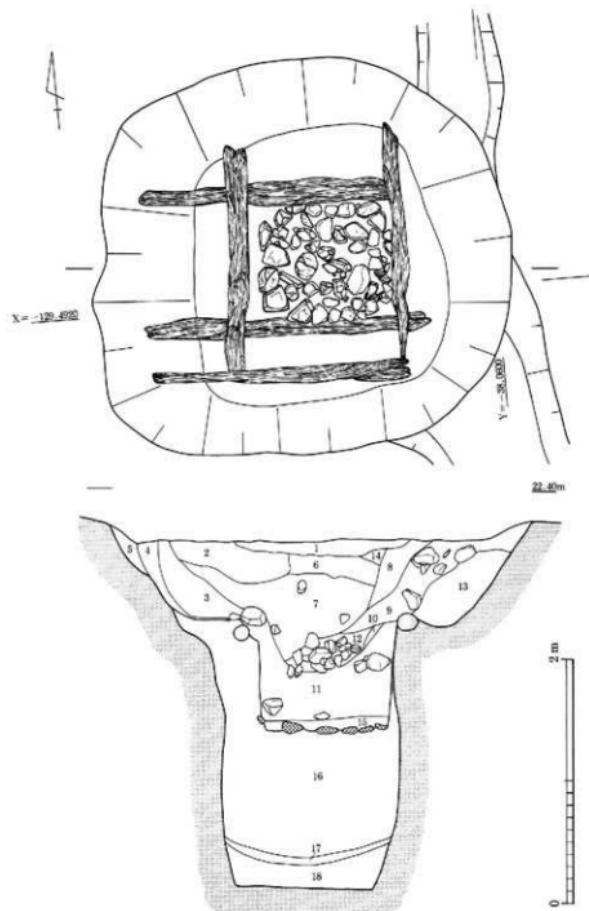
板材が2枚出土した。ともに横たわった状態で検出している。遺物は多数の須恵器、土師器や曲物、碁石が出土している。また、井戸の底からは底部が穿たれた土師器甕に土師器杯が入れられた状態で出土した。ほかにも完形の土師器碗が出土した。何らかの祭祀が執り行われたことを示唆している。(第5章第2節参照)下部の井戸出土の土師器杯にはc手法、e手法が見られ、上部の井戸にはc手法が見られないこと、釉を刷毛で塗る灰釉陶器碗(K-90型式)や瓶子が見られることが時期差を表しているものと思われる。下部は9世紀前半代、上部は9世紀後半~10世紀前半頃と考えておきたい。

井戸12246(第46図)

2地区の南西部、5H5A C・Dに位置する素掘りの井戸である。掘り方は直径約1.15mを測り、平面プランは不定円形である。壁はほぼ垂直に下がる。検出面から底までは約5mある。草花文を持つ波佐見系磁器碗が1片出土した。18世紀代の遺構と考えられる。

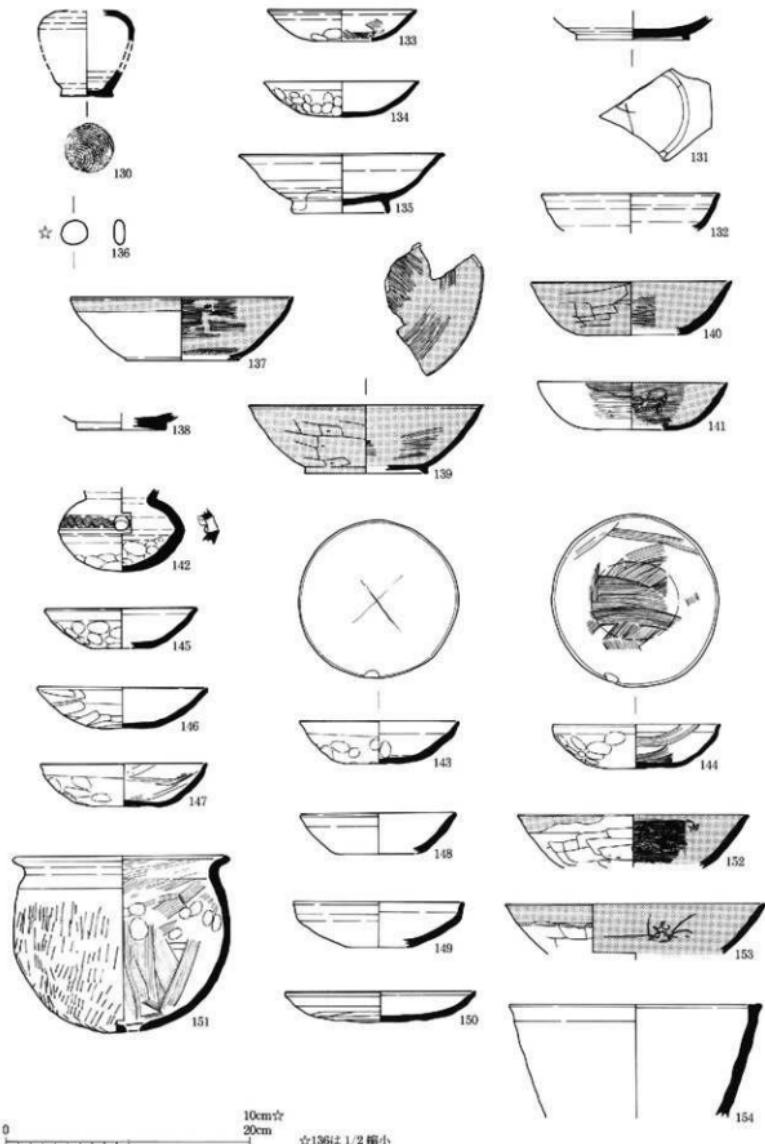
井戸12651(第47~49図)

2地区の中央部北、5D25U Kで検出した素掘りの井戸である。掘り方は長径約2.2m、短径約1.9mを測り、平面プランは梢円形を呈する。検出面から約0.8m下がったところまで直徑約1mにすぼまり、垂直に落ちる。深さは検出面から約4mを測る。遺物は、瓦器碗、中世土師器皿、中国製青磁碗・白磁碗、東播系練鉢、石臼等が出土している。瓦器は和泉型III-2、楠葉型III-1、2期にあたるものと思われる。12世紀後半~13世紀初め頃に位置づけられる。

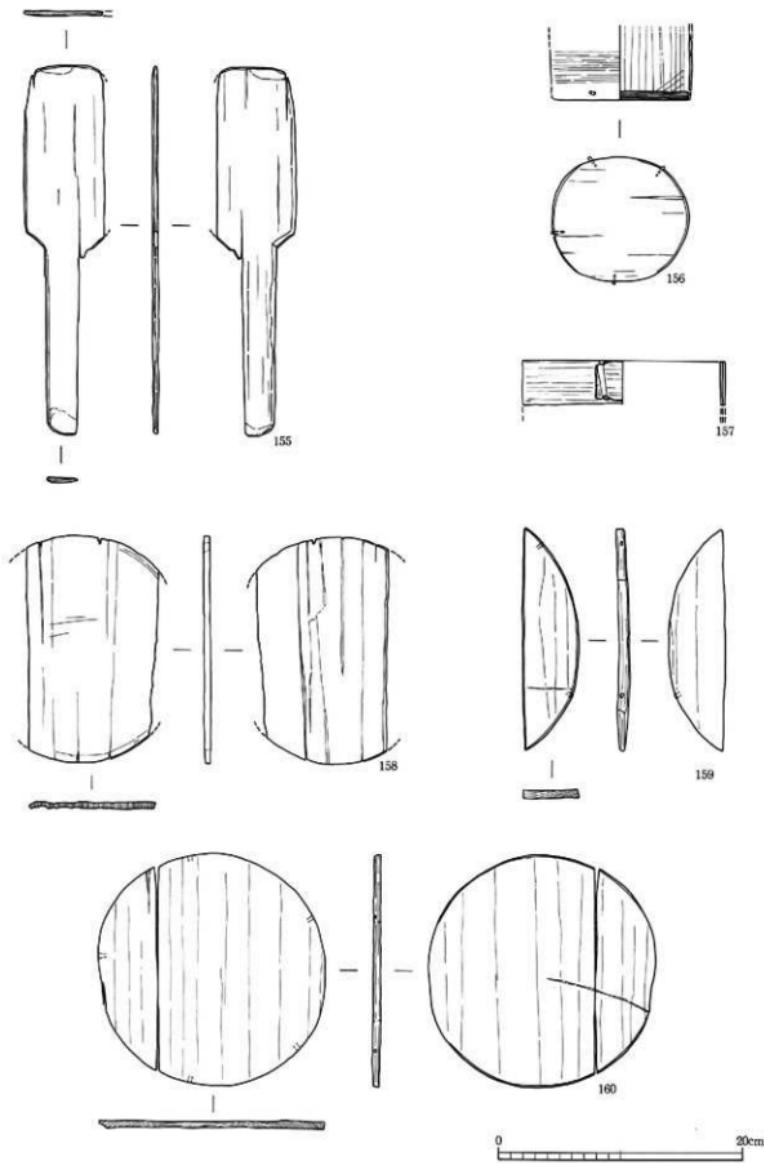


1. 10Y 4.2 オリーブ色粘土 (1cm以上の大礫を含む) [井戸底上]
2. 5Y 5.2 底オリーブ色粘土 (2cm以上の大礫を含む) [井戸底上]
3. 10Y 5.1 底灰色砂質粘土 (3cm以上の大礫を含む) [井戸底方底上]
4. 7.5Y 5.2 底オリーブ色粗砂凝灰土 [井戸底方底上]
5. 5Y 5.2 底オリーブ色粘土 [井戸底方底上]
6. 10Y 4.1 底色粘土 (5cm以上の大礫を含む) [井戸底上]
7. 7.5Y 4.1 底色細砂凝灰土 [井戸底上]
8. 3Y 4.1 底色粘土 (5cm以上の大礫を含む) [井戸底上]
9. 7.5Y 5.1 底色細砂凝灰土 [井戸底上]
10. 2.5GY 3.1 底色細砂凝灰土 (5cm以上の大礫を含む) [井戸底上]
11. 2.5Y 3.1 底色細砂凝灰土 [井戸底上]
12. 5Y 5.1 底色粘土 (5mm以下の大礫を含む) [井戸底上]
13. 2.5Y 6.6 噴出物のシルト粘土 (無層) [井戸底上]
14. 2.5Y 4.2 噴出物の細砂凝灰土 (無層) [井戸底上]
15. 2.5Y 5.1 黒褐色細砂
16. N 3.0 黒褐色粘土
17. N 2.0 黑褐色粘土 (有機質を含む)
18. N 3.0 黑褐色細砂混粘土

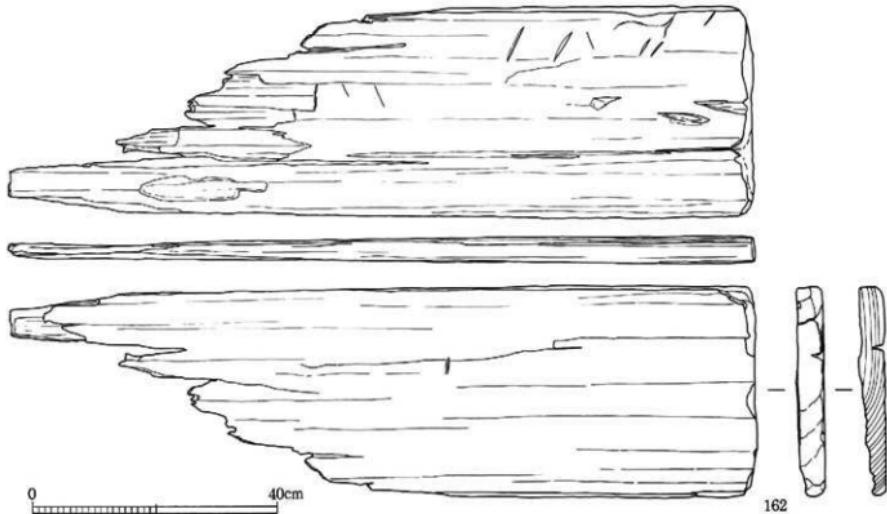
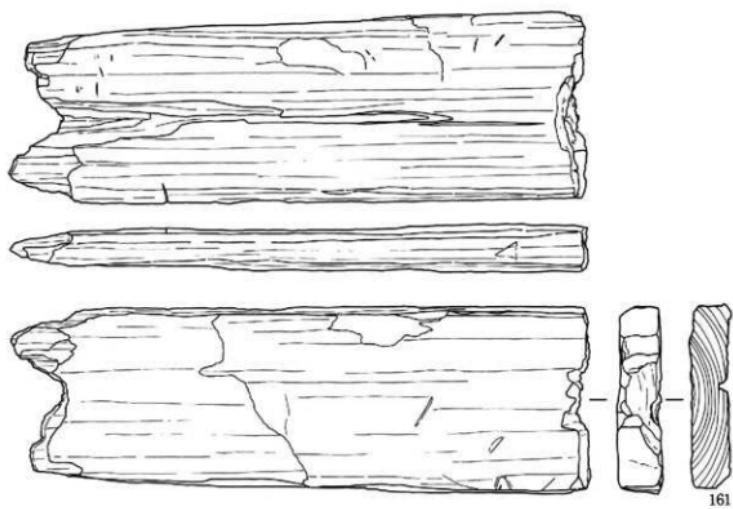
第42図 井戸12623平面・断面図



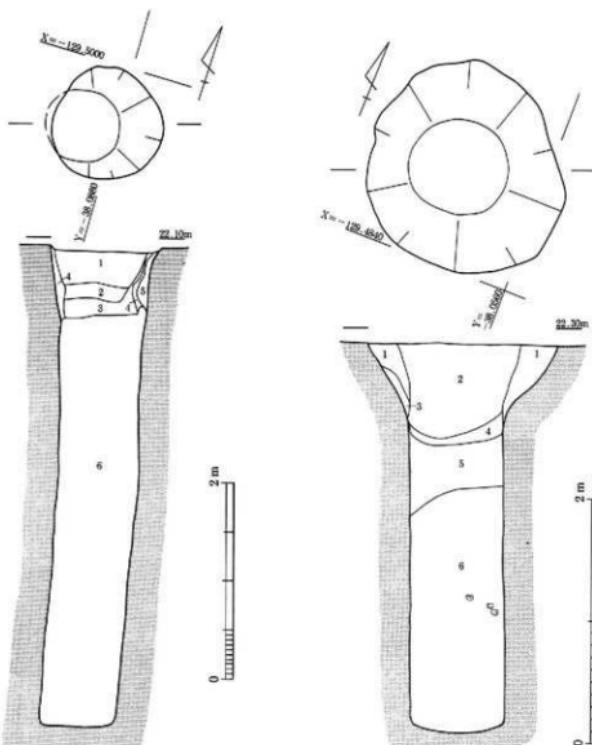
第43図 井戸12623出土遺物（土器）



第44図 井戸12623出土遺物（木製品1）



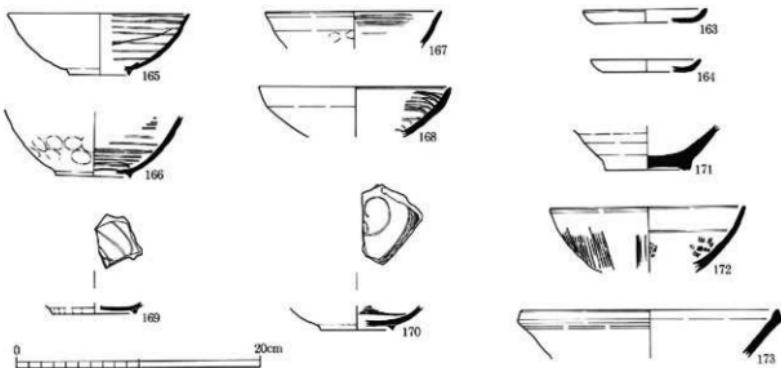
第45図 井戸12623出土遺物（木製品2）



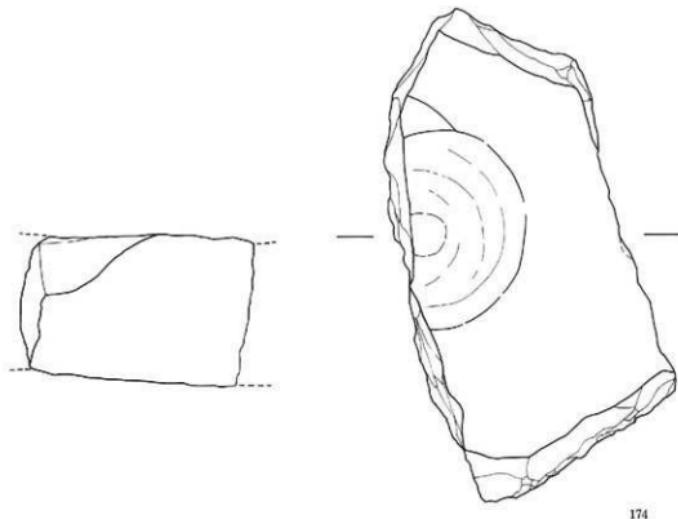
第46図 井戸12246平面・断面図

1. 2,5Y 4/6 オリーブ褐色細砂混シルト (2cm大以下の礫を含む) [井戸壁土]
 2. 7,5YR 4/4 黄褐色細砂混粘土 (2cm大以下の礫を含む、土質部の粗片を含む)
 3. 2,5Y 5/4 黄褐色粘土 [井戸壁土]
 4. 2,5Y 5/3 黄褐色細砂混粘土 [井戸壁土]
 5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土 (5mm大以下の礫を含む) [井戸壁土]
 6. N 3/0 順灰色細砂混粘土 [井戸壁土]

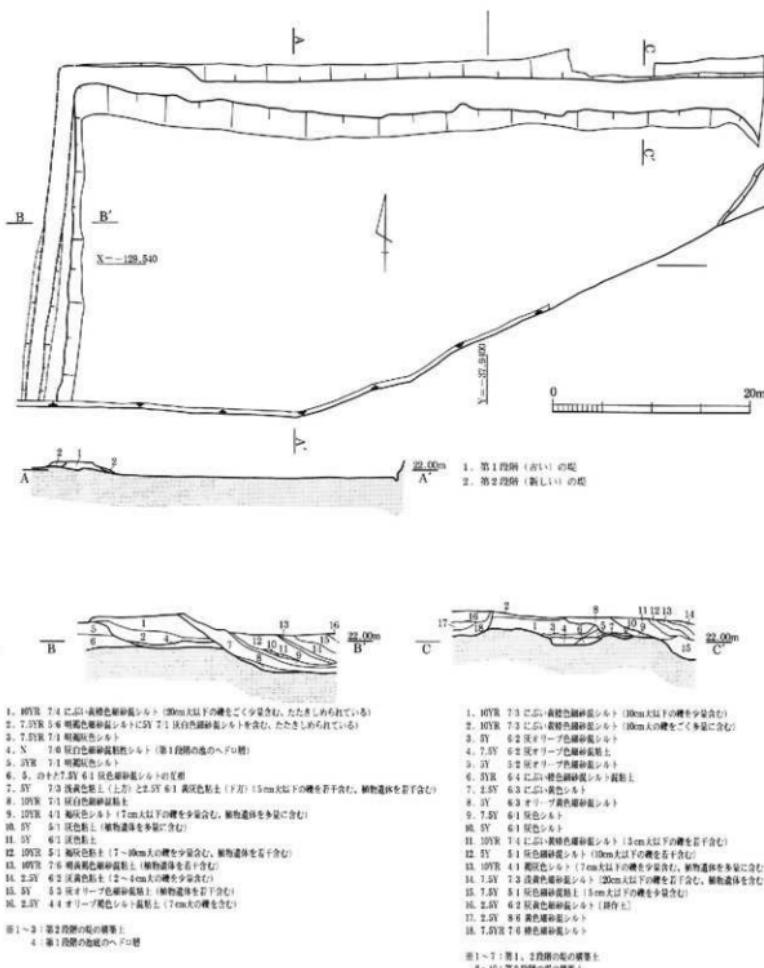
第47図 井戸12651平面・断面図



第48図 井戸12651出土遺物（土器）



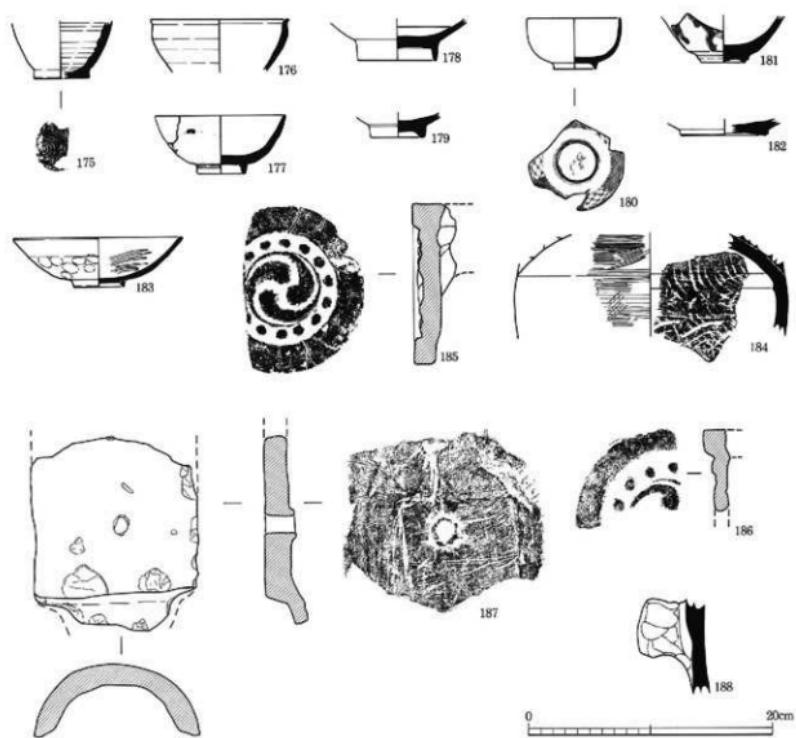
第49図 井戸12651出土遺物（石臼）



第50図 溝池平面・断面図

溜池（第50～53図）

2地区の南端に位置し、調査区外へ続く。同地区的面積約1/3を占める。池の周囲には幅0.7mの土手状の堤が巡る。この堤は一度補強され、幅を広げていることが土層断面より観察された。残存する堤の高さは0.35mである。検出された池底は新段階の堤に対応するものであるが、一部の地域では、



第51図 溝池堤部出土遺物

古段階の堤に対応すると思われる池底も遺存していた。

古段階の池の埋土からは瀬戸美濃系の天目茶碗が、新段階の池の埋土からは波佐見系染付碗等が出土している。このほか、多くの古代の須恵器、土師器、中世の瓦器が出土している。当地に本来存在した古代、中世の遺構を破壊して池が構築されたためこのような遺物を多量に包含することになったと考えられる。

なお、昭和の初め頃まで溝池は使用されていた。よって当池は17世紀以前に構築され、18世紀頃に一度改築があり現代に至ったと考えられる。

3. 3 地区

掘立柱建物

掘立柱建物13193（第54図）

3 a 地区東部 5 D25 I Oで検出した掘立柱建物である。2間×2間、規模は3.8×3.4mを測る。主軸

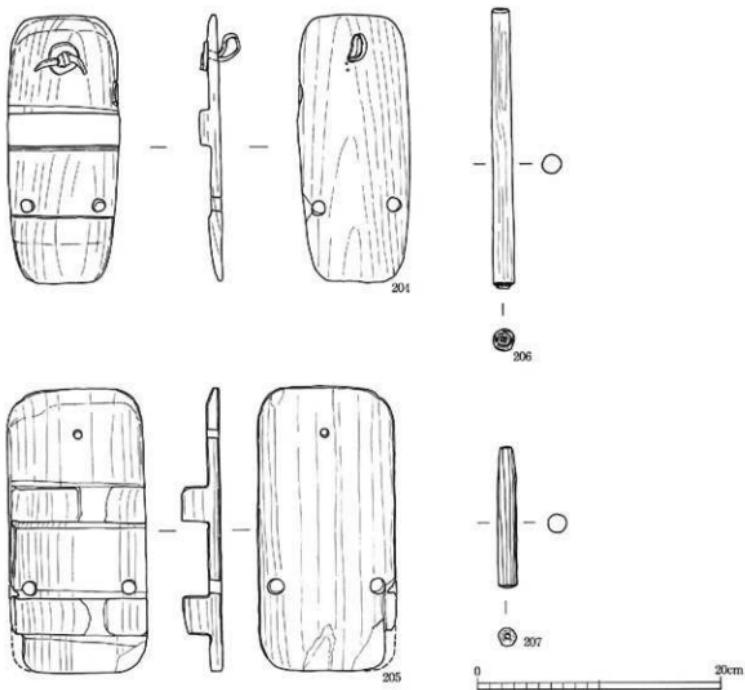


第52図 潟池出土遺物（土器）

はN-2°10'-Eをとる。遺物は須恵器壺・杯B、土師器高杯・皿・把手細片が出土している。

掘立柱建物13382（第55図）

3 a 地区北西部 5 D25 K F 近辺で検出した掘立柱建物である。北側の棟持ち柱が削平されている。2



第53図 溝池出土遺物（木製品）

間×3間の建物である。規模は4.9×3.3mを測る。主軸はN-4°30'-Wをとる。掘立柱建物13836を切る。遺物は須恵器甕細片が出土している。

掘立柱建物13513（第56図）

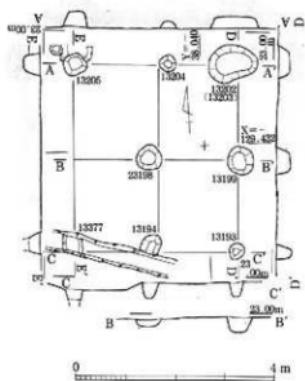
3 b 地区北部5 D25 F0近辺で検出した掘立柱建物である。3間×3間の南北棟の建物であり、規模は4.3×4.3mを測る。柱穴の一部が削平されている。主軸はN-0°である。柱穴掘り方は平面隅丸方形を呈するものが多い。断面形は逆台形を呈するものが多い。

掘立柱建物13557（第57図）

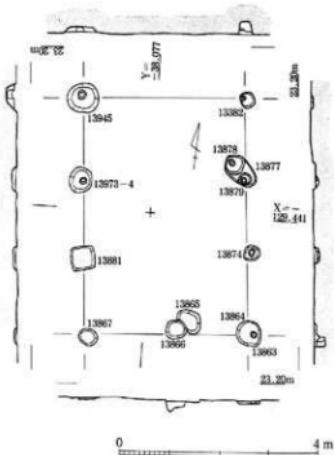
3 a 地区北東端、6 b 地区にかけ5 D25 E S近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の南北棟の建物であり、規模は6.0×4.2mを測る。主軸はN-9°30'-Eをとる。遺物は土師器甕、須恵器甕・杯Bつまみ細片が出土している。

掘立柱建物13684（第58図）

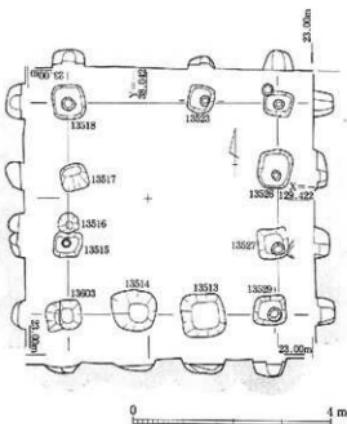
3 a 地区南西部5 D25 Q C近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の総柱建物であり、規模は2.6×6.9mを測る。主軸はN-0°をとる。遺物は須恵器甕・平瓶、土師器皿類等が出土している。



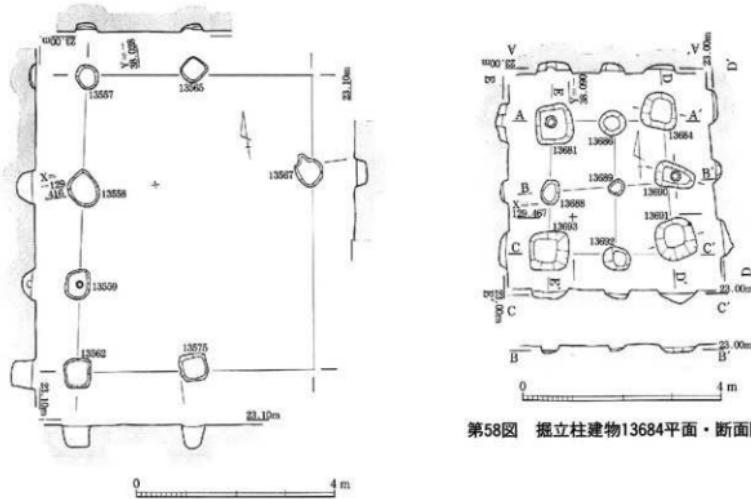
第54図 掘立柱建物13193平面・断面図



第55図 掘立柱建物13382平面・断面図

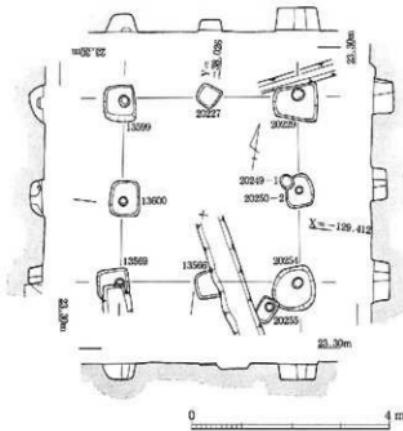


第56図 掘立柱建物13513平面・断面図

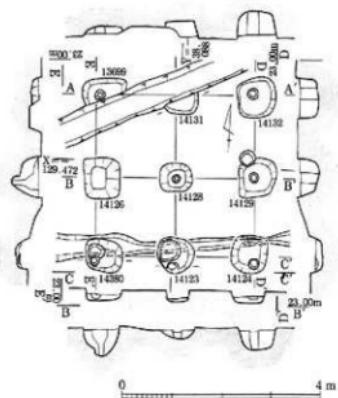


第58図 据立柱建物13684平面・断面図

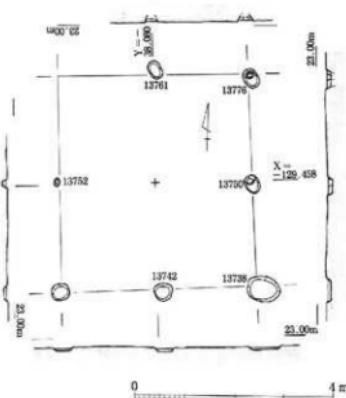
第57図 据立柱建物13557平面・断面図



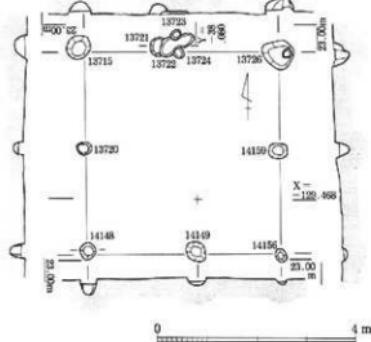
第59図 据立柱建物13566平面・断面図



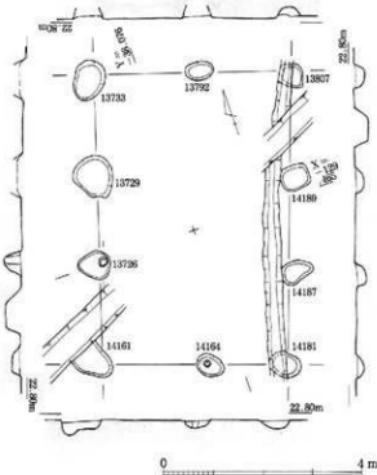
第60図 挖立柱建物13699平面・断面図



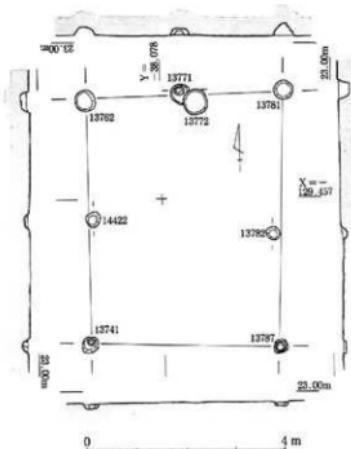
第61図 挖立柱建物13710平面・断面図



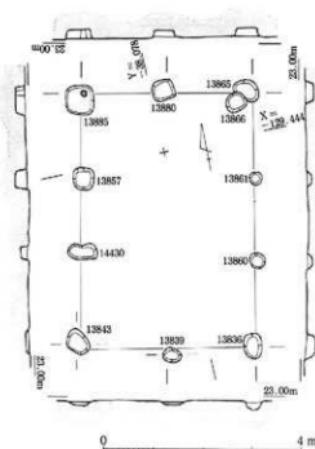
第62図 挖立柱建物13715平面・断面図



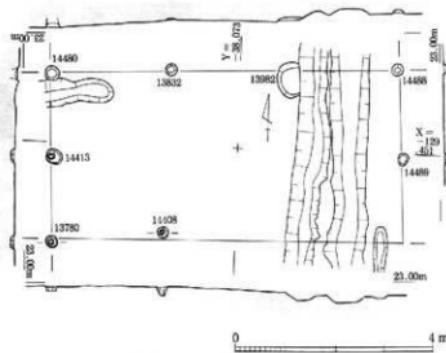
第63図 挖立柱建物13726平面・断面図



第64図 挖立柱建物13738平面・断面図



第65図 挖立柱建物13836平面・断面図



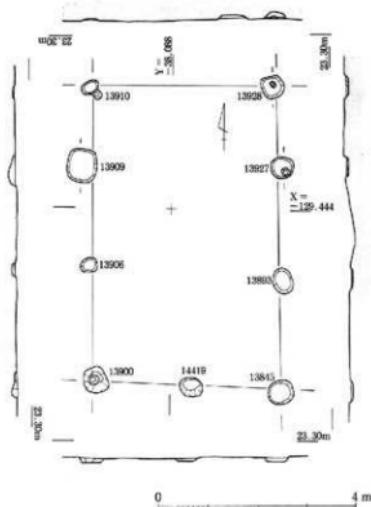
第66図 挖立柱建物13780平面・断面図

掘立柱建物13566（第59図）

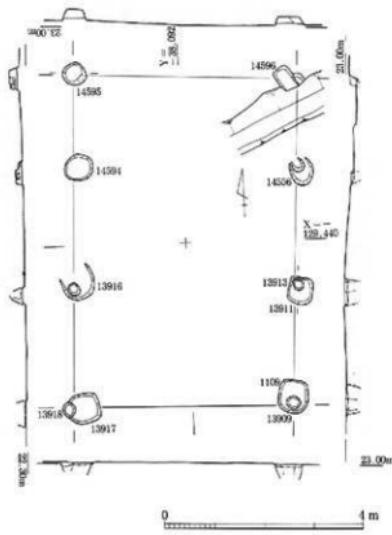
3 a 地区北東部と 6 b 地区にまたがり 5 D 25 C S 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物であり、規模は3.8×3.6mを測る。主軸はN-7°-Eをとる。方形のしっかりした掘り方を持つ。遺物は須恵器杯身が出土している。

掘立柱建物13699（第60図）

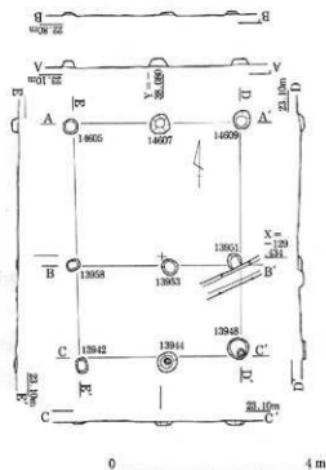
3 a 地区と 3 b 地区にまたがり 5 D 25 S C 近辺で検出された掘立柱建物である。北端付近は調査区側溝により、また、南端部は近世以降の土地改変により切られている。2間×2間の総柱建物であり、



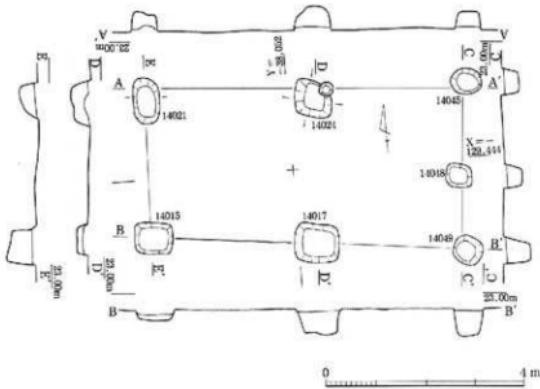
第67図 挖立柱建物13893平面・断面図



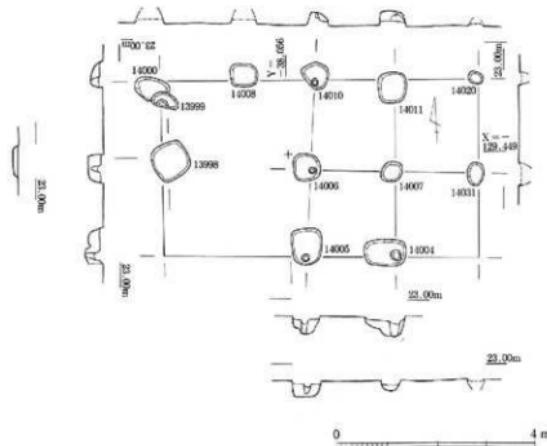
第68図 挖立柱建物13909平面・断面図



第69図 挖立柱建物13942平面・断面図



第70図 捜立柱建物14015平面・断面図



第71図 捜立柱建物13998平面・断面図

規模は3.3×3.2mを測る。柱掘り方は平面隅丸方形を呈する。断面形は逆台形を呈するものが多い。14131を除く総ての柱穴で直径約0.2m前後の柱根跡を検出した。遺物は須恵器甕・杯、土師器羽釜が出土している。

掘立柱建物13710（第61図）

3 a 地区中央部 5 D 250 E 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は4.0m四方を測る。掘立柱建物13738と切りあう。主軸はN-1°-Eをとる。柱穴は小ぶりである。遺物は

須恵器、土師器細片が出土している。

掘立柱建物13715（第62図）

3 a 地区と 3 b 地区とにまたがり 5 D 25 Q E 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物であり、規模は4.1×4.0mを測る。主軸はN-1°-Wをとる。遺物は土師器壺細片が出土している。

掘立柱建物13726（第63図）

3 a 地区中央部 5 D 25 Q F 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の建物である。規模は6.0×4.0mを測る。主軸はN-16°-Eをとる。遺物は須恵器杯B、土師器壺等の細片が出土している。

掘立柱建物13738（第64図）

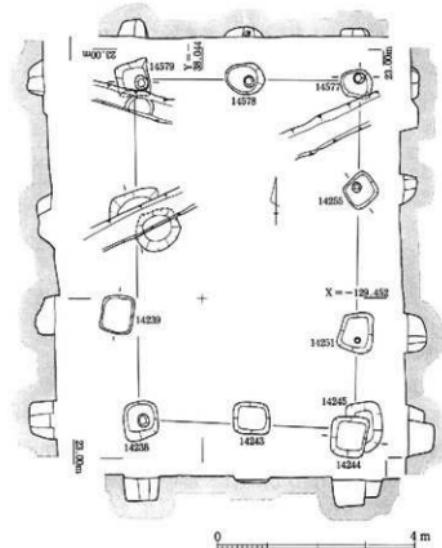
3 a 地区中央部 5 D 25 O E 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は5.2×4.1mを測る。主軸はN-0°30'-Eをとる。柱穴は小ぶりである。遺物は土師器細片が出土している。

掘立柱建物13836（第65図）

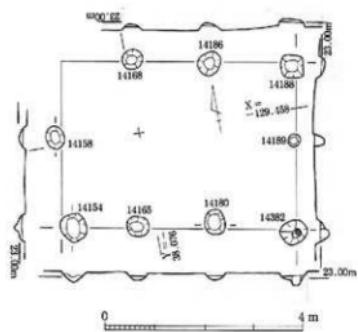
3 a 地区中央部北側 5 D 25 L F 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の建物である。規模は5.2×3.6mを測る掘立柱建物13382に切られる。主軸はN-12°-Eをとる。柱穴の平面形は方形が多い。遺物は土師器細片が出土している。

掘立柱建物13780（第66図）

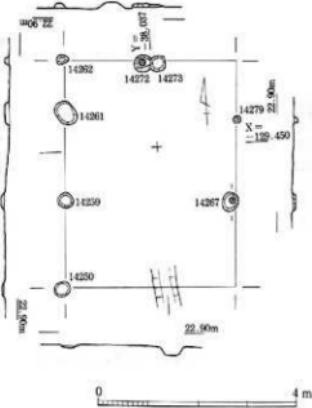
3 a 地区中央部 5 D 25 MG 近辺で検出された東西棟の掘立柱建物である。3間×2間、規模は7.1×3.5mを測る。主軸はN-3°-Wをとる。西側を近世以降の溝により大きく削平されている。遺物は須恵



第72図 掘立柱建物14238平面・断面図



第73図 挖立柱建物14154平面・断面図



第74図 挖立柱建物14250平面・断面図

器、須恵器壺・杯B、土師器皿細片が出土している。

掘立柱建物13893（第67図）

3 a 地区中央部北側 5 D25 L D 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の建物である。規模は6.1×3.9mを測る。主軸はN-10°-Wをとる。柱穴の平面形は隅丸方形が多い。遺物は須恵器壺・壺、土師器の細片が出土している。

掘立柱建物13909（第68図）

3 a 地区と3 c 地区にまたがり 5 D25 K C 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の建物である。規模は6.8×4.5mを測る。主軸はN-2°-Eをとる。柱穴の平面形は隅丸方形が多い。揃持ち柱が削平されている。遺物は須恵器と土師器の細片が出土している。

掘立柱建物13942（第69図）

3 a 地区と3 c 地区にまたがり 5 D25 I E 近辺で検出した掘立柱建物である。柱穴は小ぶりである。2間×2間の建物である。規模は4.1×3.3mを測る。主軸はN-2°-Eをとる。遺物は須恵器壺・杯身と土師器の細片が出土している。

掘立柱建物14015（第70図）

3 a 地区中央部 5 D25 K L 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の東西棟の建物である。規模は6.5×3.5mを測る。間仕切りを持つ。桁行方向の柱間の間隔が長く、一部柱穴の未検出か、削平が考えられる。建物として成り立たない可能性もあるが、柱の通りが良いため一応建物として認識している。主軸はN-2°-Eをとる。柱穴の平面形は方形もしくは隅丸方形が多い。遺物は須恵器壺と土師器の細片が出土している。

掘立柱建物13998（第71図）

3 a 地区 5 D25 M K 近辺で検出した掘立柱建物である。東西棟の4間×2間の建物である。規模は6.2×3.5mを測る。間仕切りをもつ。主軸はN-0°をとる。遺物は出土していない。

掘立柱建物14238（第72図）

3 b 地区 5 D 25 N O 近辺で検出した掘立柱建物である。掘立柱建物14254と重複するが新旧関係は不明である。3間×2間の南北棟であり、規模は $6.9 \times 4.4m$ を測る。主軸はN-0°をとる。遺物は須恵器甕・杯蓋B、土師器甕細片が出土している。

掘立柱建物14154（第73図）

3 b 地区中央部やや西より 5 D 25 R G 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の東西棟の建物であり、規模は $4.8 \times 3.4m$ を測る。主軸はN-10°-Eをとる。遺物は土師器細片が出土している。

掘立柱建物14250（第74図）

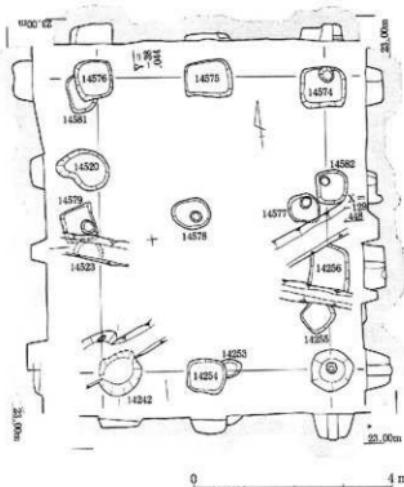
3 b 地区 5 D 25 M P 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の建物である。南側が削平を受けている。規模は $4.6 \times 3.5m$ を測る。主軸はN-4°-Eをとる。土師器甕の細片が出土している。

掘立柱建物14254（第75図）

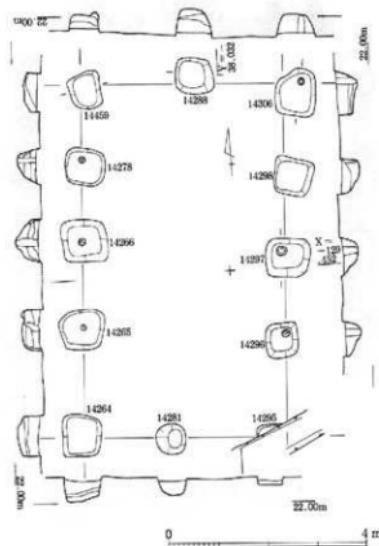
3 a 地区と 3 b 地区にまたがり 5 D 25 L O 近辺で検出した掘立柱建物である。桁行3間、梁行2間の南北棟である。規模は $6.0 \times 4.76m$ を測る。柱の通りはやや悪い。主軸はN-4°30'-Eをとる。遺物は須恵器甕、土師器甕細片が出土している。

掘立柱建物14264（第76図）

3 b 地区東部 5 D 25 M R 近辺で検出した掘立柱建物である。4間×2間の南北棟である。規模は $7.2 \times 4.5m$ を測る。柱の通りはやや悪い。主軸はN-2°30'-Eをとる。



第75図 掘立柱建物14254平面・断面図



第76図 掘立柱建物14264平面・断面図

遺物は須恵器甕、土師器細片が出土している。

掘立柱建物14606（第77図）

3 c 地区 5 D25 H F で検出した掘立柱建物である。2間×1間以上の建物である。規模は4.8×2.4m以上を測る。北側の調査区外へ延びる。主軸はN-1°-Wをとる。柱穴の平面形は方形である。遺物は須恵器鉢と土師器甕の細片が出土している。

掘立柱建物14623（第78図）

3 a 地区と 3 c 地区にまたがり 5 D25 C Q で検出した総柱の掘立柱建物である。2間×2間の建物である。中央部にも小さなピットがあり、総柱と考えられる。規模は3.8×3.4mを測る。主軸はN-13°-Wをとる。一部調査区外へかかる。

ピットおよび土坑

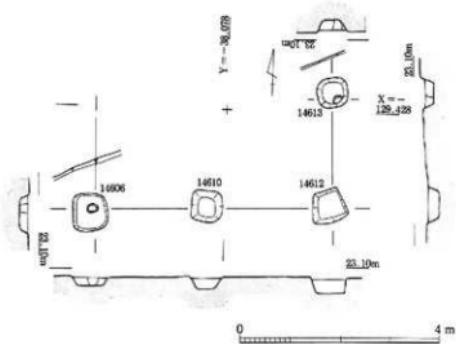
土坑14415（第80図）

土坑14060の東側に隣接する。長辺4.0m、短辺1.5m、深さ0.02mを測る。北側を土壤墓13376に切られている。

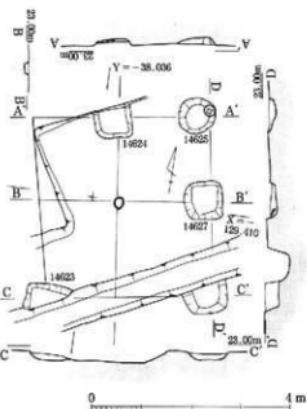
土坑14060

3 a 地区の南部、5 D25 K N・K O に位置する。長辺3.0m、短辺1.4m、深さ0.05mを測る。平面プランは隅丸方形である。遺物は土師器皿・杯・甕・片口鍋、須恵器甕・杯、黒色土器 A 類碗と鉄釘が出土した。8世紀後半～9世紀前半頃の遺構である。

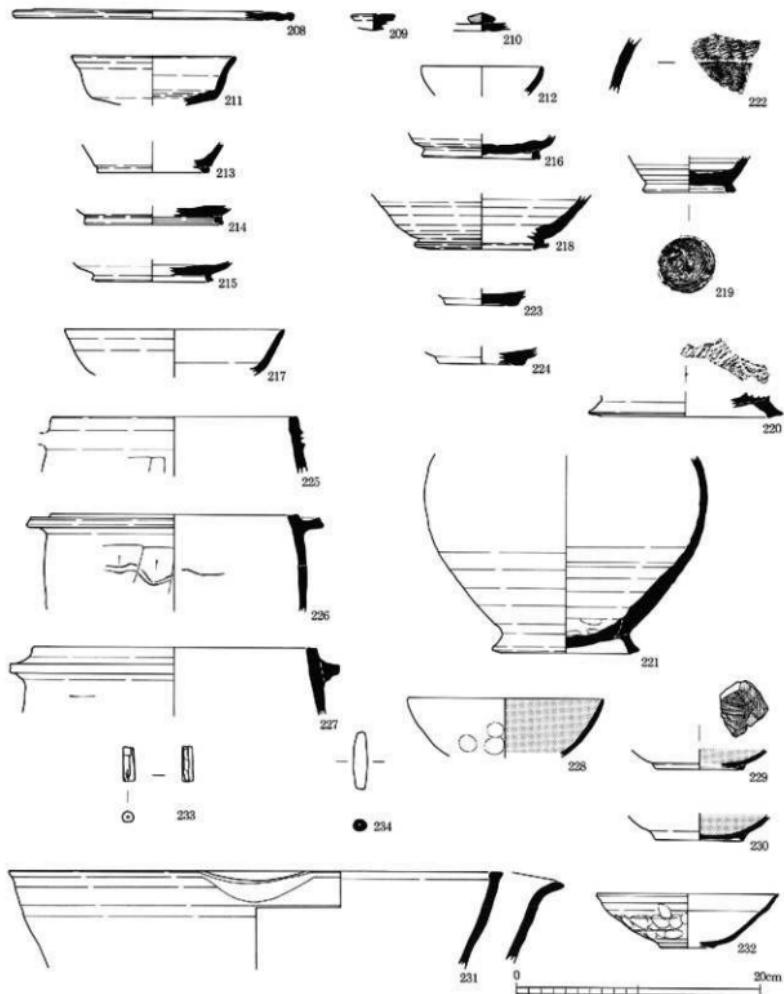
土坑14415とは本来つながっていたものと思われる。ならば溝と考えたほうが良いかもしない。



第77図 掘立柱建物14606平面・断面図



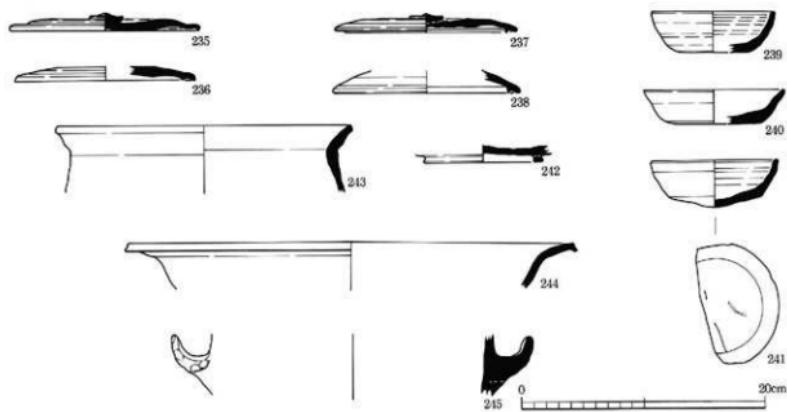
第78図 掘立柱建物14623平面・断面図



第79図 3地区ピット、土坑出土遺物

土壙墓13376 (14443) (第81, 82図)

3 a 地区の南部、5 D 25 K P に位置する土壙墓である。包含層を除去した段階では拳大の自然礫が集積した地域として認識された。この礫の広がりは長径3.3m、短径3.0mの範囲で梢円形を呈する。礫を除去すると、全体に0.2m程浅く掘り窪めてあった。更に西半部には、東西1.2m、南北1.8mを測る平



第80図 土坑14415出土遺物

面プランが長方形の埋葬施設としての土坑14443が検出された。後の検討により土坑14443の直上には自然礫の分布が疎であることが確認された。土坑14443の周りには溝が巡っていたようであるが、北東部以外は明瞭に残っておらず断定することはできない。土坑14443の埋土からは、ほぼ完形を含む土師器小皿が7個体と中型の皿1個体が出土した。

溝

溝13190

5 D25 I J～J Qにかけて3地区の中央部をほぼ真直に東西に走る溝である。深さ0.1m前後を測る。遺物は出土していない。集落を区画した古代の溝と考えられる。

溝14057, 13393

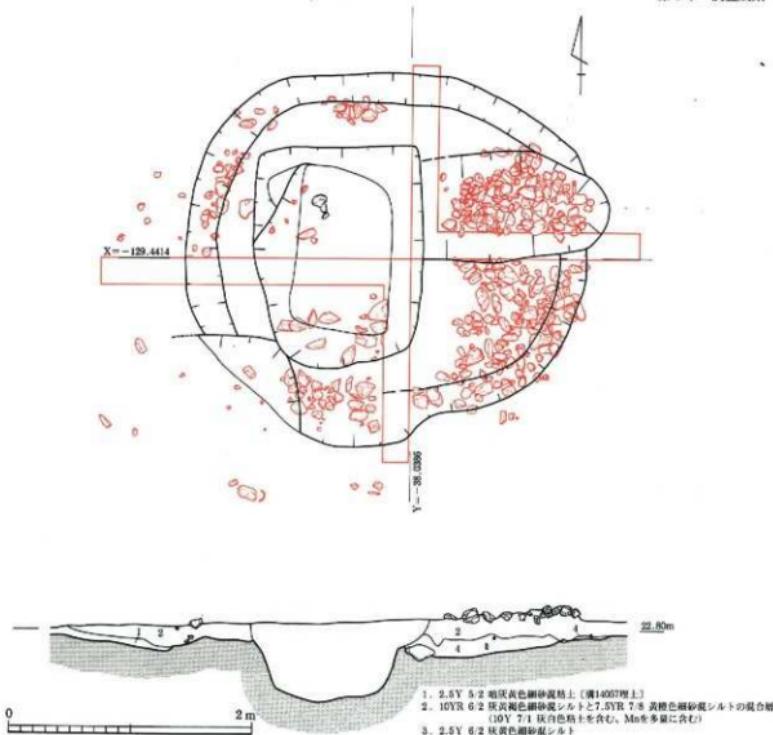
溝13190の南をこれと平行してほぼ真直に東西方向に走る。西端で南に折れ、溝13393となる。深さ0.2～0.4m程を測る。土壌墓13376に切られているが、東側に溝14559につながるものと思われる。遺物は須恵器甕・壺・杯身B・杯蓋B・土師器甕・土師器羽釜・丸瓦等が出土している。集落を区画した古代の溝と考えられる。

溝14558

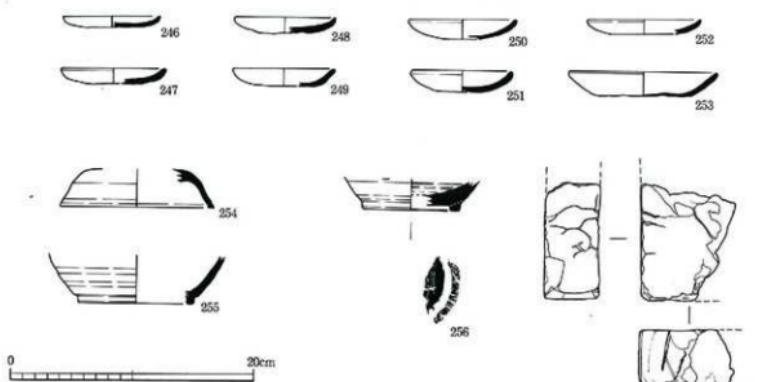
3 a地区、3 c地区、5 D25 J P～J Vに位置する。溝13190の中央部をこれを切る形で東西に走る。6 b地区の溝20388へ続く。埋土中には5 c m程度の自然礫が多数投棄されていた。深さ0.12m前後を測る。遺物は須恵器杯・壺・甕・土師器甕・羽釜・竈・土脚が出土している。なお、瓦質の三足釜の脚が出土しており、中世の溝が古代の溝13190を切る形で存在した部分としてとらえることもできる。

溝13366

3 a地区的中央部よりやや北側を東西に走る。深さ0.05～0.14mを測る。6 b地区的溝20376、溝20389につながっていく。遺物は須恵器杯・壺・甕・土師器甕・黒色土器A類椀が出土している。

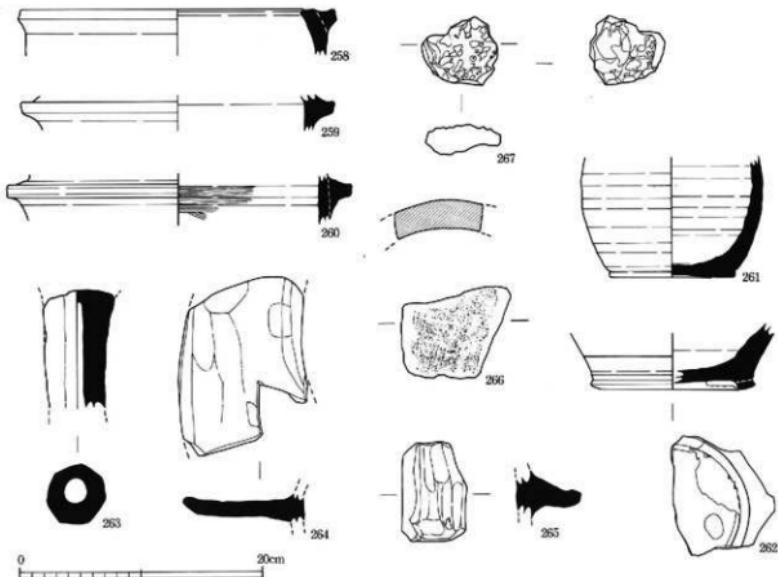


第82図 土塙墓13336 (14443) 平面・断面図



第82図 土塙墓13336 (14443) 出土遺物

257



第83図 溝14559出土遺物

溝14361

溝14364より分かれ、南東方向に下る。深さ0.1mを測る。遺物は出土していない。

溝14364、溝14559（第83図）

溝14057を延長した形で東西方向に走る。自然礫が投棄されていた。深さ0.3mを測る。遺物は須恵器杯・壺・甕・皿、土師器壺・甕が出土している。10世紀代の遺構であろう。

溝13369

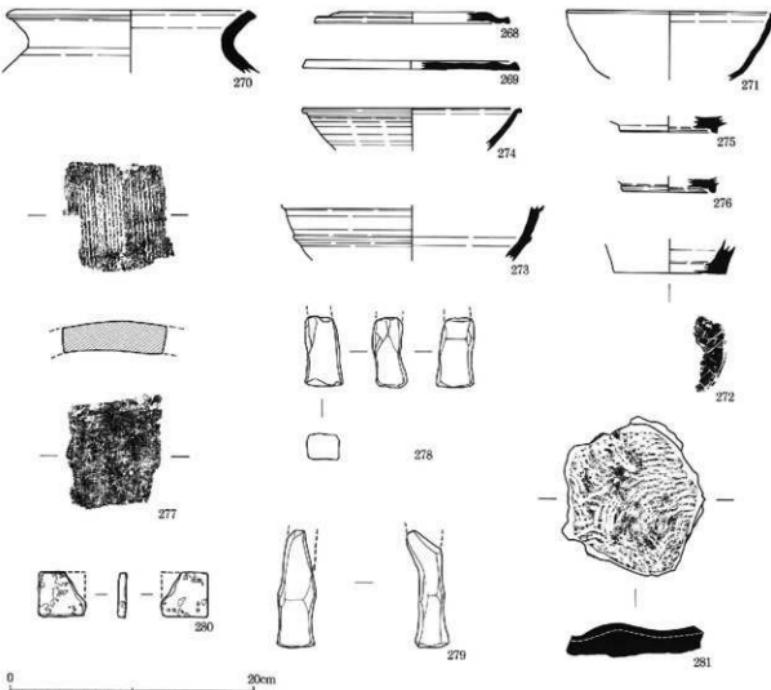
3 a 地区5 D 25 I R～1 Tにわたる長さ7.0mの短い溝である。深さは0.1mを測る。遺物は出土していない。

落ち込み

落ち込み13101（第85、86図）

5 D 25 D I～O I近辺に位置する。幅約11m、深さ0.1～0.3mを測る。方形状に削平された落ち込みである。落ち込みの埋土やもしくは地山を掘り込み南北に走る溝が7～8本並ぶか重複するかしている。

溝の埋土には古代や中世の遺物のみを包含する溝もあるが多くは近世か現代の遺物を含む。地山を掘り込む溝の中には中世の溝もあるかもしれないが、多くは近世以降に掘削された溝であろう。周辺の状況から考え、耕作に伴う落ち込みおよび溝と考えられる。



第84図 3地区溝出土遺物

4. 5地区

掘立柱建物

掘立柱建物20531（第87図）

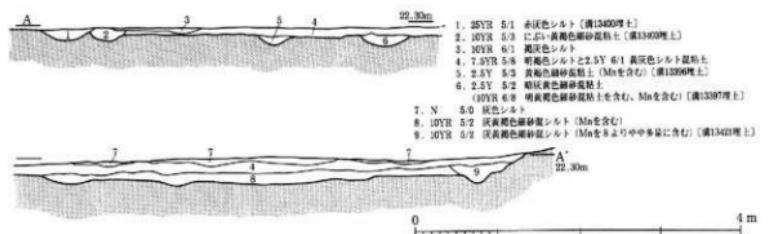
5a地区中央部5D24T O近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は3.8×3.7mを測る。主軸はN-4°-Wをとる。柱穴は小ぶりである。西側を擾乱で削平されており更に続く可能性もある。遺物は出土していないが形状から考え中世の建物と思われる。

掘立柱建物20592（第88図）

5a地区北端5D24Q L近辺で検出した掘立柱建物である。3間以上×2間以上の建物である。規模は6.5m以上×3.4mを測る。主軸はN-4°30'-Wをとる。北側の調査区外へ延びる。遺物は須恵器壺、土師器壺細片が出土している。

掘立柱建物20625（第89図）

5a地区北西部5D24R K近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の総柱建物である。東側に庇をもつ。規模は5.6×4.5mを測る。主軸はN-5°30'-Wをとる。柱穴は小ぶりである。遺物は中世の



第85図 落込み13101断面図



第86図 落込み13101出土遺物

土師器皿細片が出土している。中世の建物である。

掘立柱建物20675（第90図）

5 a 地区西端 5 D24R I 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×1間以上の建物である。規模は4.4×2.8m以上を測る。主軸はN-2°-Wをとる。柱穴は小ぶりである。遺物は出土していないが規模、形状から考え、中世の建物と思われる。

掘立柱建物20693（第91図）

5 a 地区西部 5 D24U J 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は3.8×3.1mを測る。主軸はN-37°-Wをとり、ほかの建物と軸を異にする。遺物は出土していない。

掘立柱建物20746（第92図）

5 a 地区南西部 5 D24Y K 近辺で検出した掘立柱建物である。5間×2間の建物である。規模は9.1×5.4mを測る。主軸はN-9°-Eをとる。柱穴は大型で方形が多く、柱の通りもよい。遺物は須恵器杯A・杯B蓋・皿類、土師器甕細片が出土している。

掘立柱建物20760（第93図）

5 a 地区西端 5 D24Y J 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×1間以上の建物である。西側の調査区外へ続く可能性がある。規模は3.8×1.9m以上を測る。主軸はN-2°-Eをとる。遺物は須恵器壺・甕・杯と土師器甕、黒色土器A類細片が出土している。

掘立柱建物20797（第94図）

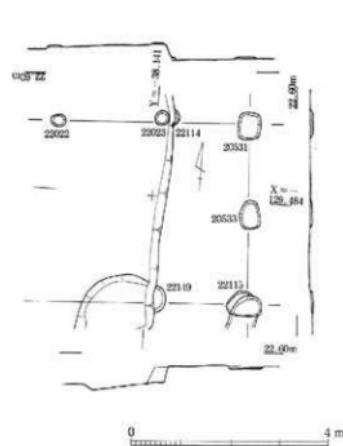
5 a 地区南西部 5 H24B K 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は3.7×3.6mを測る。主軸はN-5°-Eをとる。遺物は土師器細片が出土している。

掘立柱建物20790（第95図）

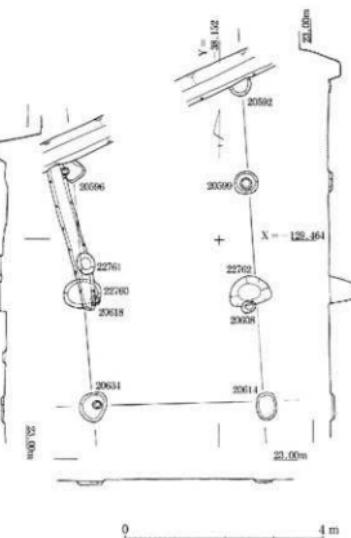
5 a 地区南西部 5 H24A K 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の建物である。規模は6.4×4.5mを測る。主軸はN-1°-Eをとる。遺物は土師器甕、黒色土器A類の細片が出土している。

掘立柱建物20826（第96図）

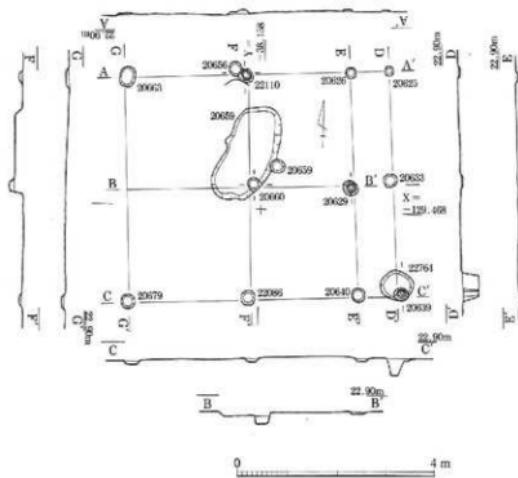
5 a 地区中央部 5 H4C J 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は3.5×



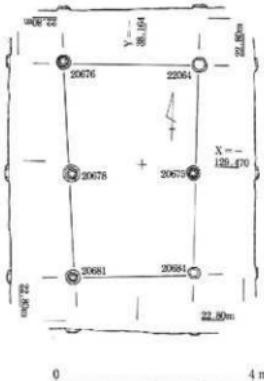
第87図 据立柱建物20531平面・断面図



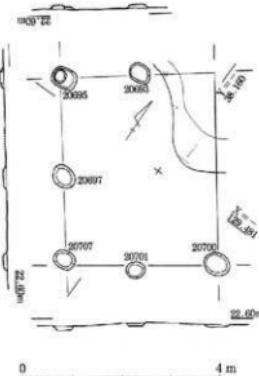
第88図 据立柱建物20592平面・断面図



第89図 据立柱建物20625平面・断面図



第90図 挖立柱建物20675平面・断面図



第91図 挖立柱建物20693平面・断面図

3.2mを測る。主軸はN-2°-Wをとる。遺物は土師器甕・杯細片が出土している。

掘立柱建物20920（第97図）

5 a 地区南西部 5 H4 A M近辺で検出した掘立柱建物である。2間×4間以上の建物である。規模は7.0以上×4.0mを測る。主軸はN-2°-Wをとる。遺物は須恵器甕、土師器細片が出土している。

掘立柱建物20995（第98図）

5 a 地区中央南部 5 H4 C N近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は4.5×3.5mを測る。主軸はN-3°-Wをとる。遺物は出土していない。

掘立柱建物21046（第99図）

5 a 地区中央部南 5 D24 Y D近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の総柱建物である。規模は3.5×3.3mを測る。主軸はN-9°-Eをとる。遺物は土師器細片が出土している。

掘立柱建物21069（第100、101図）

5 a 地区中央部南 5 D24 Y Q近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の総柱建物である。規模は4.1×3.4mを測る。主軸はN-4°30'-Eをとる。遺物は柱穴21091の柱根より土師器杯が出土している。この杯の外底部には一部が欠落し判読はできないが墨書きが記されていた。

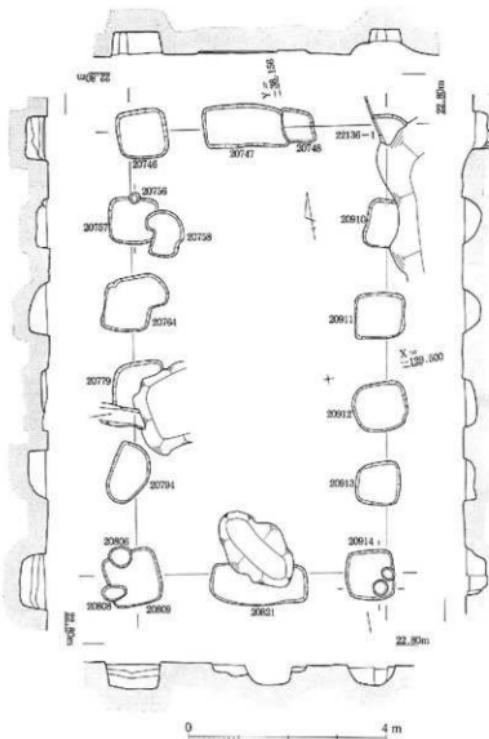
掘立柱建物21082（第102図）

3 a 地区中央部 5 D24 Y S近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の総柱建物である。規模は3.8×3.5mを測る。主軸はN-5°-Eをとる。遺物は須恵器甕・甕、土師器細片が出土している。

ピットおよび土坑

土坑20528（第103図）

5 a 地区の中央部、5 D24 T Pに位置する。直径1.3mを測る平面プランが円形の土坑である。深さは0.3mを測る。底はすりばち状を呈している。遺物は瓦器椀、土師器皿、甕のはか、鉄製の鎌が出土している。13世紀代の墓ではないかと考えられる。



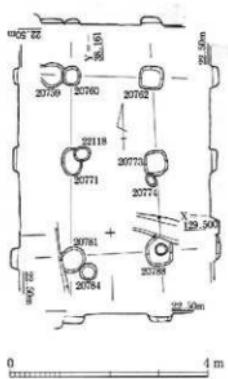
第92図 据立柱建物20746平面・断面図

土坑20616(第104図)

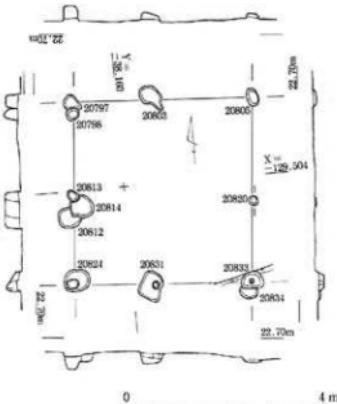
5a 地区の北部、5D24RNに位置する。長径12.2m、短径11m（推定）を測る平面プランが椭円形の土坑である。深さは0.9mを測る。溝20590を切る。南側は一部削平を受けている。埋土の中心部には焼土と炭を多く含む。遺物は土師器壺・杯の細片が出土している。中世以降の土坑と考えられる。

土坑20873(第105圖)

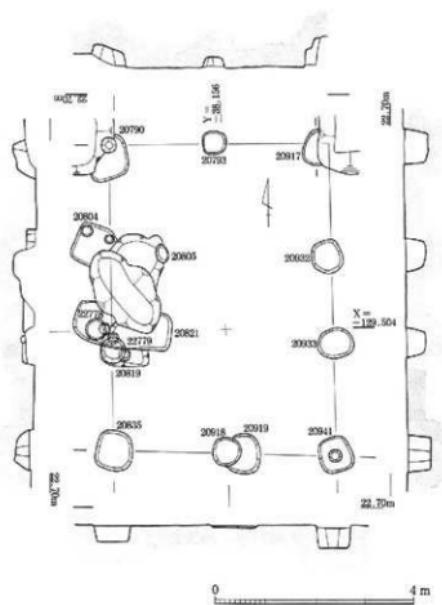
5a 地区の南西部端、5 H4B Kに位置する。長辺3.8m、短辺2.7mを測る。地山を掘りこんで構築されていた。平面プランが方形の土坑である。残りは悪く、深さは0.02~0.12mを測るが、南西側は遺構の痕跡が見られる程度である。当遺構は北側に2つの連続した「W」字状を呈する張りだし部分を持っている。西側は南北0.9m、東西1.2m、東側は埋土を除去すると、南北0.8m、東西1.3mを測る。直徑0.3~0.4mの不均等な柱穴が6本確認できた。北側の張りだし部、特に西側は炭を含む焼土で覆われ全体に赤みを帯びていた。焼土と焼土の間には黄色の粘性の強いシルトが一部喰んでおり、馬蹄形状に周



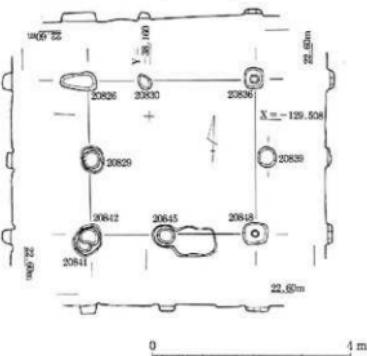
第93図 据立柱建物20760平面・断面図



第94図 据立柱建物20797平面・断面図



第95図 据立柱建物20790平面・断面図



第96図 掘立柱建物20826平面・断面図

縁部に見られた。底は東西の土坑ともに若干窪んでいた。

須恵器杯Bなど、包含する遺物は新しく竪穴住居跡とは断定できないが、竪状遺構を伴った竪穴状遺構ということが出来るであろう。

遺物は数少ないが、須恵器杯・杯B蓋、土師器甕、瓶の可能性のある土師器細片が出土している。

土坑21065

5 a 地区の南側5 D24 Y Pに位置する。平面プランは直径1.3mの円形を呈する土坑である。深さは0.5mを測る。遺物はII期の高台を持つ瓦器椀、須恵器杯、土師器皿、土師器甕が出土している。12世紀後半以降に廃絶した遺構と考えられる。

土坑22095

5 a 地区の南東部、5 D24 Y Uに位置する。直径3.3mを測る、平面プランが円形の土坑である。土坑の西側には拳大の大きさの自然礫多数投棄されていた。深さは0.3mである。遺物は出土していない。

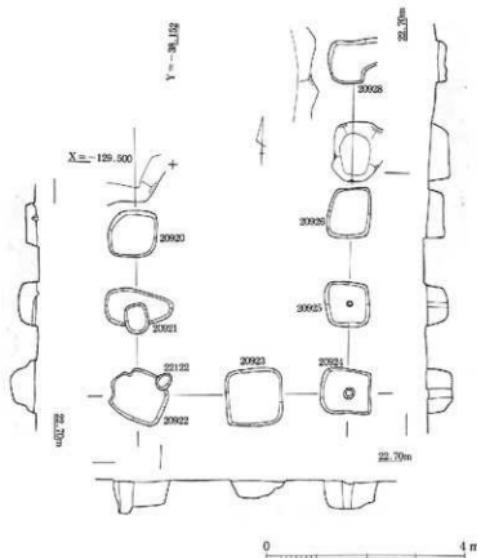
溝

溝20537

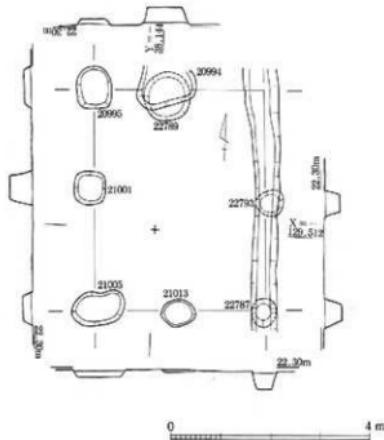
5 a 地区の中央から南東方向に走る溝である。幅6.0mと広く、深さは0.2~0.4mを測る。北東部で溝の幅を狭めて溝20536となる。東側は、溝20576が分かれ、2地区の溝12889につながるものと思われる。遺物は多く、須恵器杯B・甕・壺・高杯、土師器甕、灰釉陶器碗等が出土している。9世紀中頃~後半の溝と思われる。

溝20538

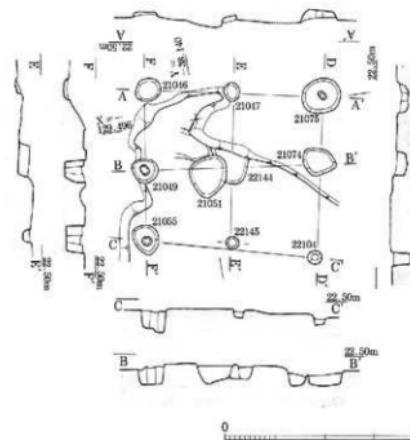
溝20537の南をこれとほぼ平行して走る。深さ0.05~0.10mを測る。南東端は擾乱により大きく削平を受けており、溝20537や溝20539との切り合い関係は定かではない。遺物は須恵器杯、杯蓋B、甕、土師器甕、綠釉陶器片等が出土した。



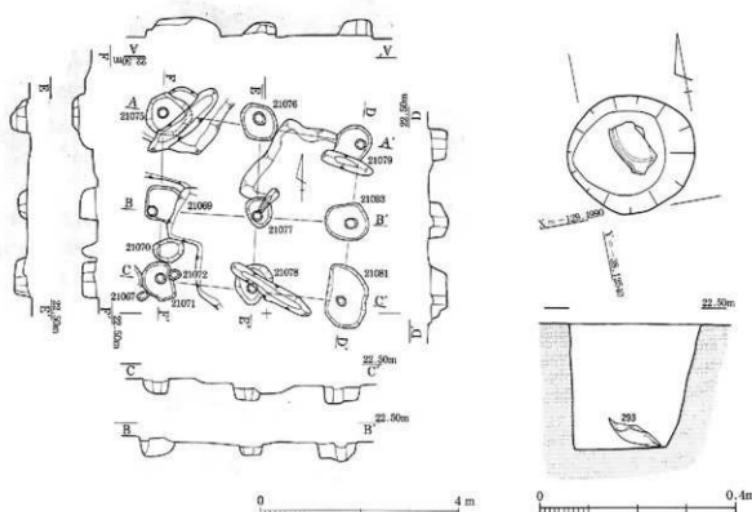
第97図 掘立柱建物20920平面・断面図



第98図 掘立柱建物20995平面・断面図

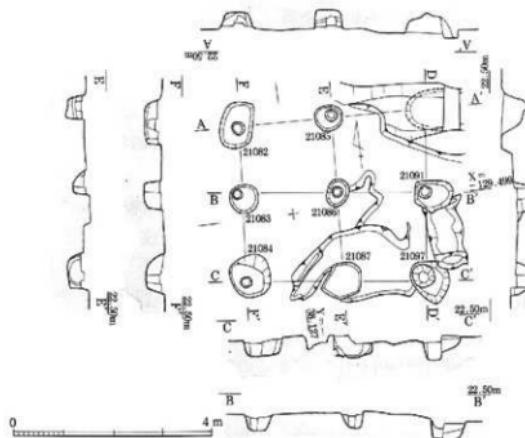


第99図 掘立柱建物21046平面・断面図

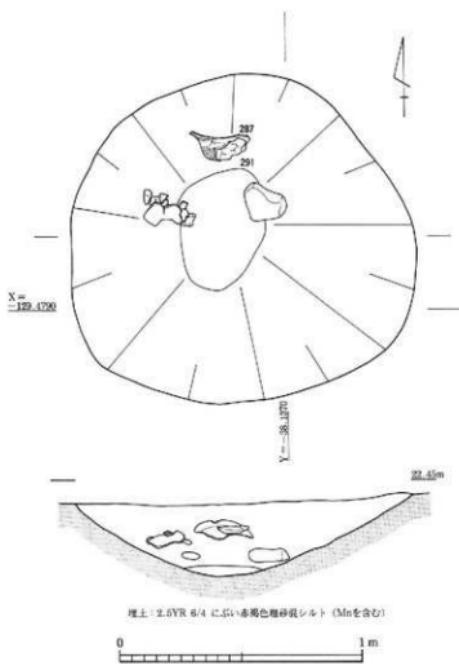


第100図 据立柱建物21069平面・断面図

第101図 柱穴21091平面・断面図



第102図 据立柱建物21082平面・断面図



第103図 土坑20528平面・断面図

は0.2m前後を測る。遺物は須恵器壺、土師器壺が出土している。

溝20586（第106図）

溝20585の西側をこれと平行して走る溝である。深さは0.1m前後を測る。

溝20588、溝20589、溝20590、溝20591

溝20589は溝20586の西側をこれと隣接する形で平行して走る。溝20588は溝20589の西をこれと平行して南北に走り、途中で溝20590と溝20591に分かれる。溝20591は溝20589に接合する。これらの溝は深さ0.1m前後を測る。遺物は瓦器、土師器と須恵器の細片が出土した。

溝20704（第106図）

5 a 地区の西端5 D24U J・U Kに位置する。東西に走る深さは0.05m前後を測る。中央部分が少し途切れている。遺物は近代の染付片が出土しているがこの溝を削平する擾乱内の遺物の混入と思われる。

溝20705

溝20704の南をこれと平行して走る溝である。深さ0.1mを測る。遺物は土師器壺が出土している。

溝20706

溝20705の南をこれと平行して走る溝である。深さは0.1mを測る。遺物は出土していない。

溝20539

溝20538の南をこれとほぼ平行して走る。深さ0.1m前後を測る。東端で、溝20537に接続する。遺物はII期の高台を持つ瓦器壺、須恵器壺、土師器壺が出土した。

溝20540

溝20539の南を東西方向に走る不定形な溝である。深さは0.1m前後を測る。西端は攪乱されて終わる。東側は溝20577に切られている。遺物は土師器壺が出土している。

溝20543

溝20537の西端をこれを切る形で南北に走る幅0.7m、深さ0.04～0.1mの小溝である。南側は攪乱されているが延長すると、溝21015にぶつかりこれと連続した可能性も考えられる。遺物は瓦器、須恵器壺を出土した。

溝20585

5 a 地区の北端5 D24 O N～RNを南北に走る溝である。深さ

溝20708（第106図）

溝20706の南をこれと平行して走る溝である。深さは0.1mを測る。遺物は須恵器杯B・甕、土師器片が出土している。

溝20723

溝21099の南をこれと平行して走る溝である。溝内には拳大の自然礫が投棄されていた。深さは0.05m前後を測る。遺物は須恵器甕、土師器甕、丸瓦が出土している。

溝20894

溝20907の北側、5 H 4 H Kに位置する。東西方向の溝である。検出した長さは約2.5mしかなく更に東西に延びる。上層と下層に分かれ上層は現代の旧耕作土に伴うもので、下層は近世以降の耕作土に伴うと考えられる。遺物は出土していない。

溝20909（第106図）

5 a 地区の南西部の拡張区南端に位置する東西方向の溝である。検出した長さは約2.5mしかなく更に東西に延びる。遺物は出土していないが土壤化が進みMnを多量に含む褐色のシルト質を呈していることから、古代の溝と考えておきたい。

溝20940（第106図）

5 a 地区の南端5 H 4 A N～C Nに位置する。南北方向に走る溝である。深さ0.1～0.4mを測る。遺物は瓦器皿、須恵器甕、土師器甕等が出土している。

溝21015（第106図）

溝20940の東をこれとほぼ平行して走る。深さは0.1m前後を測る。遺物は瓦器碗が出土している。

溝21098（第106図）

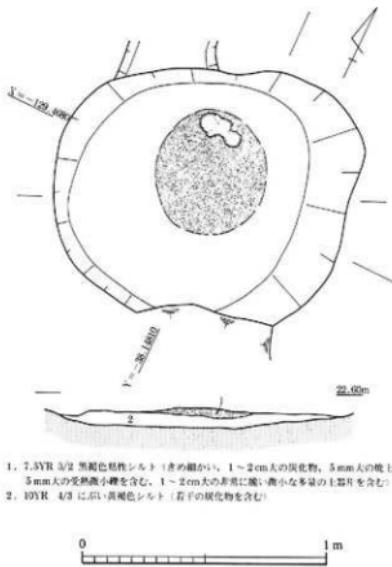
溝20708の南をこれと平行して走る溝である。深さは0.1～0.2mを測る。遺物は須恵器杯、土師器甕、黒色土器等が出土している。

溝21099

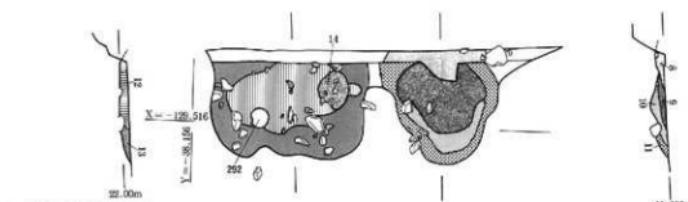
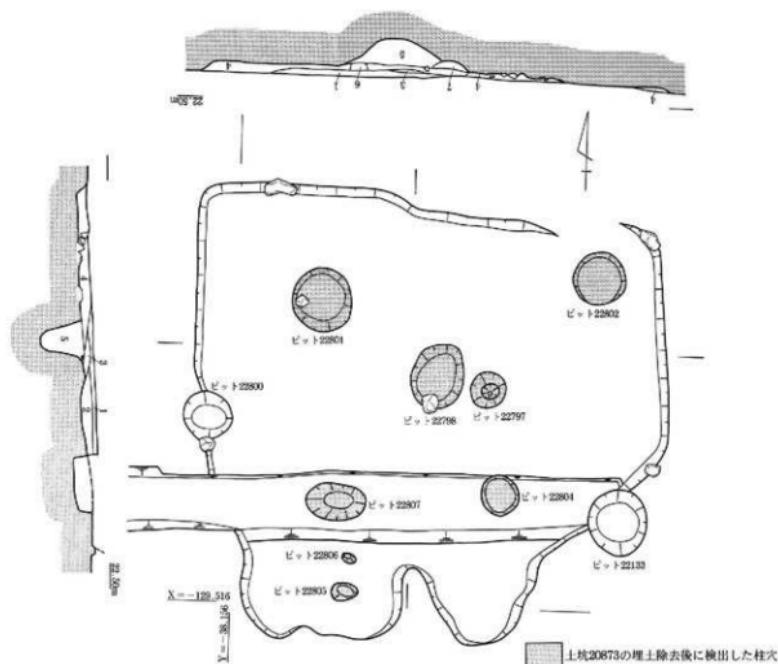
溝21098の南をこれと平行して走る溝である。深さは0.1～0.15mを測る。遺物は須恵器甕・つまみを伴う杯蓋B、土師器甕等が出土している。

溝22003（第106図）

溝20540の南肩に接し、南側の溝20481、溝20483に切られている。東西方向に走る溝である。深さは0.1～0.2mを測る。遺物は須恵器HかGの杯・壺、土師器細片が出土している。

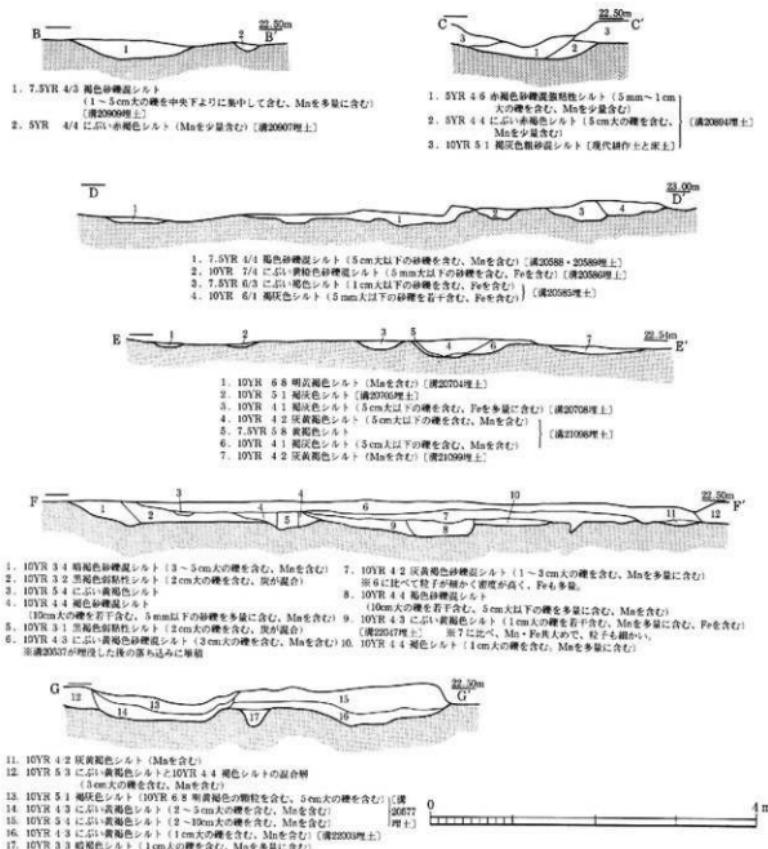


第104図 土坑20616平面・断面図



1. 10YR 4/6 棕褐色砂質土
2. 10YR 6/4 黄褐色砂質シルト (炭化物を含む)
3. 10YR 3/1-10YR 3/2 黑褐色シルト (全量 (50%~60%)。2~10mmの大粒 (SYR 5/8 明赤褐色) を若干含む)
4. 10YR 4/4-10YR 4/5 黄褐色砂質シルト
5. 10YR 3/4 黄褐色粗砂質シルト (ビット 22799埋土上)
6. 10YR 4/3 黄褐色シルト (ビット 22799埋土上)
7. 5YR 4/4 黄褐色粗砂質シルト (ビット 22799埋土上)
8. 2.5Y 7/4 黄褐色～2.5Y 7/5 黄色シルト (2.5Y 7/2 淡黄色を多量に含む、5mmの大粒を含む、根を含む) (植物の根を含む)
9. 10YR 3/3 棕褐色シルト (ごく少量の地土を含む、ごく少量の炭化物を含む)
10. 5YR 4/8 红褐色シルト (炭化物を含む) (地土)
11. 10YR 3/4 棕褐色～10YR 4/4 棕色シルト (ごく少量の地土を含む)
12. 10YR 3/4 に2.5Y 黄褐色～10YR 4/4 棕色シルト (10YR 5/6 淡褐色を含む、炭化物を多量に含む)
13. 10YR 5/6 黄褐色～10YR 4/6 棕色粘性シルト (炭化物を少含む) (地山)
14. 5YR 4/8 红褐色～5YR 5/6 红褐色シルト (2~6cmの木の根を含む、炭化物を含む)
15. 10YR 2/3 に2.5Y 黄褐色～10YR 6/2 黄褐色の灰を含む)

第105図 土坑20873平面・断面図



第106図 5地区溝断面図

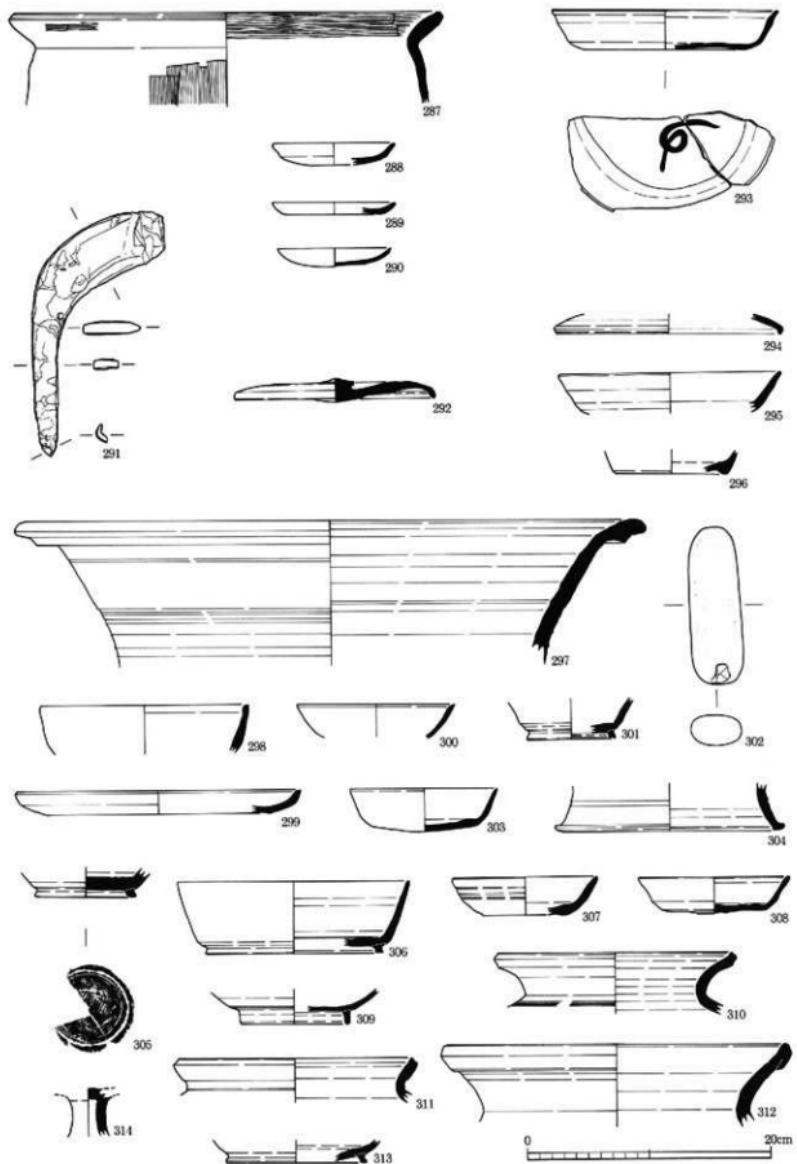
井戸

井戸20559（第108図）

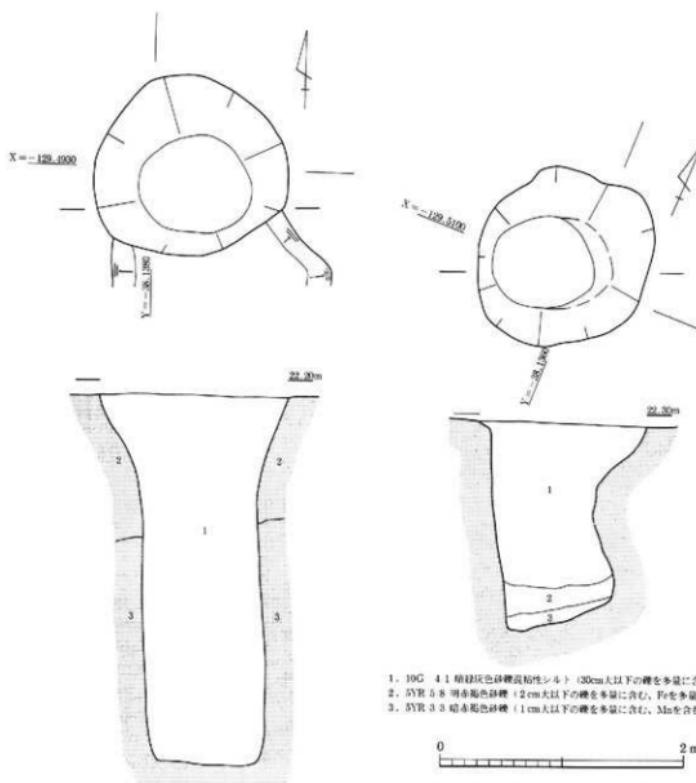
5 a 地区の中央部 5 D24 X P に位置する。平面プランは直径1.5mのはば円形を呈する素掘りの井戸である。深さは3.0mを測る。壁は垂直にくだり底に達する。遺物は出土せず、馬骨が多数出土している。土壤化が進んでおり、近世以降の井戸の可能性が高い。

井戸21025（第109、110図）

5 a 地区の南端 5 H 4 C P に位置する。平面プランは直径1.4mの円形を呈する素掘りの井戸である。深さは1.7mを測る。壁は一部湧水によると思われる崩落で内側にえぐり込むが、ほぼ垂直にくだり底



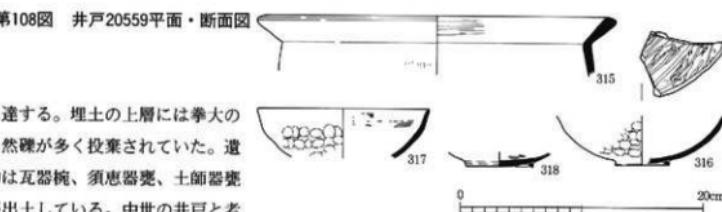
第107図 5地区遺構出土遺物



第109図 井戸21025平面・断面図

1. 10YR 4.1 稼灰色砂礫質粘性土 (30cm大以下の礫を多く含む)
 2. 10YR 4.4 黄色砂礫質粘性土 (30cm大以下の礫を多く含む)
 3. 10G 4.1 始耕灰色砂礫質粘性土 (30cm大以下の礫を多く含む)

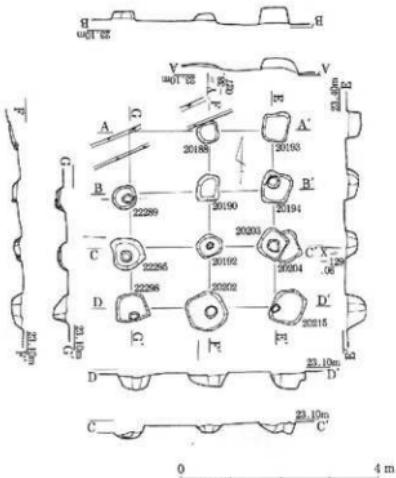
第108図 井戸20559平面・断面図



第110図 井戸21025出土遺物

に達する。埋土の上層には拳大的な自然礫が多く投棄されていた。遺物は瓦器椀、須恵器甕、土師器甕が出土している。中世の井戸と考えられる。

5. 6 地区



第111図 挖立柱建物20185平面・断面図

掘立柱建物20226（第113図）

6 b 地区北部 5 D25 B U 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は3.8×3.2mを測る。主軸はN-1°30'-Eをとる。遺物は土師器椀、黒色土器細片が出土している。

掘立柱建物20261（第114図）

6 b 地区北部 5 D25 D V 近辺で検出した掘立柱建物である。4間×2間の建物である。規模は6.5×3.3mを測る。主軸はN-2°-Eをとる。遺物は須恵器壺・杯、土師器壺細片が出土している。

掘立柱建物20294（第115図）

3 b 地区中央部 5 D25 E V 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の総柱建物である。規模は4.0×3.8mを測る。主軸はN-0°30'-Eをとる。遺物は須恵器壺・壺・杯A・蓋G、中世の土師器皿細片が出土している。

掘立柱建物20306（第116図）

6 b 地区中央部 5 D25 F V 近辺で検出した掘立柱建物である。南端を削平されている。3間×2間の総柱建物である。規模は6.8×4.7mを測る。主軸はN-0°をとる。遺物は出土していない。

掘立柱建物22165（第117図）

6 a 地区西北端 5 D20 Y V 近辺で検出した掘立柱建物である。北側の調査区外へ延びる。2間×2間以上の建物である。規模は3.8×2.7m以上を測る。主軸はN-1°-Wをとる。遺物は土師器壺、黒色土器A類細片が出土している。

掘立柱建物22176（第118図）

6 a 地区東部 5 D25 A V 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の建物である。規模は6.9×

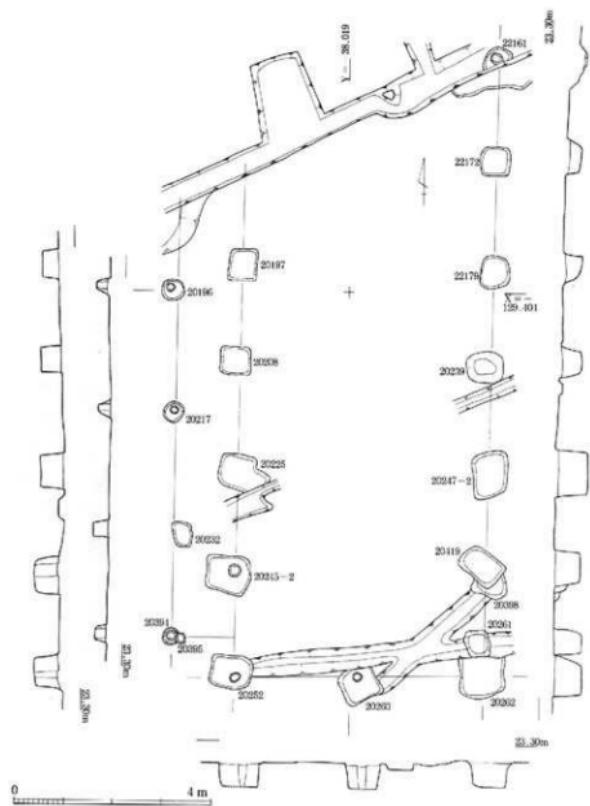
掘立柱建物

掘立柱建物20185（第111図）

6 b 地区北部 5 D25 B S 近辺で検出した掘立柱建物である。3間以上×2間の総柱建物である。規模は3.7以上×2.9mを測る。北側は調査区外へかかる。主軸はN-3°-Eをとる。遺物は出土していない。

掘立柱建物20197（第112図）

6 b 地区北端 5 D2 A U 近辺で検出した掘立柱建物である。6間以上×2間の南北棟である。規模は12.8以上×5.1mを測る。本調査地で最大の建物である。主軸はN-1°-Eをとる。遺物は須恵器壺・杯B・蓋B、土師器壺・皿B・杯（e手法）製塙土器、黒色土器A類細片等が出土している。



第112図 挖立柱建物20197平面・断面図

4.7mを測る。主軸はN-7°-Eをとる。遺物は須恵器壺片、土師器壺、緑釉陶器皿細片が出土している。
掘立柱建物22191（第119図）

6 a 地区西北部5 D25A X近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の建物である。規模は5.6×3.9mを測る。主軸はN-9°-Eをとる。遺物は須恵器杯B、土師器壺・皿細片が出土している。

掘立柱建物22242（第120図）

6 a 地区西北部5 D25A Y近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は3.5×3.4mを測る。主軸はN-0°30'-Wをとる。遺物は出土していない。形状から古代の建物と思われる。

掘立柱建物22246（第121図）

6 a 地区西北部5 D25B X近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は3.4×2.9mを測る。主軸はN-1°30'-Eをとる。遺物は出土していない。形状から古代の建物と思われる。

掘立柱建物22301（第122図）

6 a 地区中央部 5 D 25 D Y 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の南北棟である。規模は5.2×3.7mを測る。主軸はN-4°-Wをとる。遺物は須恵器壺、土師器細片が出土している。

掘立柱建物22505（第123図）

6 a 地区東部北側 5 B 25 M R 近辺で検出した掘立柱建物である。1間×1間の建物である。規模は3.2×2.7mを測る。主軸はN-1°-Eをとる。遺物は出土していない。周辺に建物は見当たらず、立て替えの可能性のある掘立柱建物22816と共に土坑22504に接しており、これに付随する施設かもしれない。

掘立柱建物22439-1（第124図）

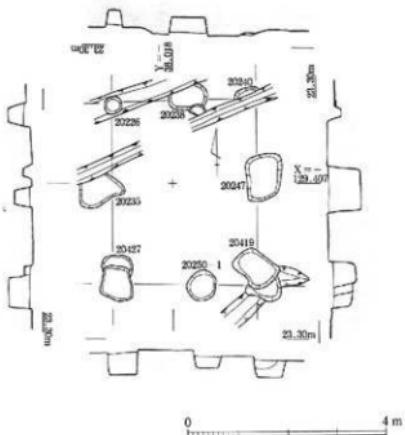
6 a 地区東部南側 6 A 21 E F 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の南北棟である。規模は5.2×4.0mを測る。主軸はN-7°-Eをとる。遺物は出土していない。

掘立柱建物22439-2（第125図）

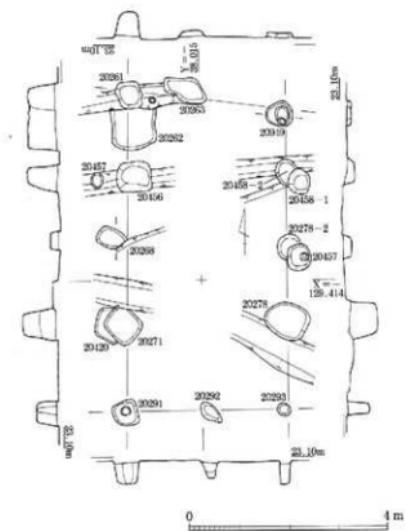
6 a 地区東部南側 6 A 21 F D 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の南北棟である。規模は6.8×4.2mを測る。主軸はN-9°-Eをとる。遺物は須恵器杯B蓋、土師器片、黒色土器片が出土している。

掘立柱建物22352（第126図）

6 a 地区南部 6 A 21 H A 近辺で検出した掘立柱建物である。4間×2間の東西棟である。規模は9.5×4.2mを測る。主軸はN-11°-Eをとる。遺物は須恵器壺・杯B、土師器壺・皿・把手片が出土している。



第113図 掘立柱建物20226平面・断面図



第114図 掘立柱建物20261平面・断面図

る。土師器皿片に暗文があり、古代でも8世紀以前の遺構と考えられる。

掘立柱建物22407（第127図）

6 a 地区中央部 6 A 21 D V 近辺で検出した掘立柱建物である。5間×2間の南北棟で西側に庇を持つ。身舎は8.2×2.7mを測る。主軸はN-0°をとる。遺物は須恵器壺・杯B高台、土師器壺細片等が出土している。

掘立柱建物22518（第128図）

6 a 地区東部 6 A 21 B H 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の南北棟である。規模は5.1×3.5mを測る。主軸はN-1°30'-Eをとる。遺物は土師器壺細片が出土している。

掘立柱建物22532（第129図）

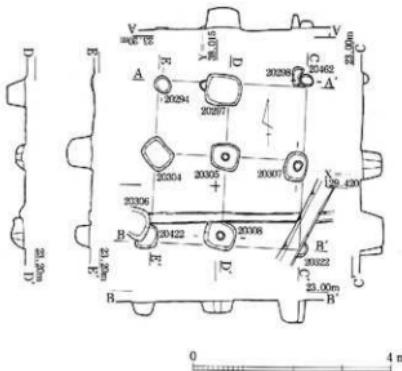
6 a 地区東南部 6 A 21 D H 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の南北棟である。規模は4.4×4.2mを測る。主軸はN-0°をとる。遺物は出土していない。

掘立柱建物22545（第130図）

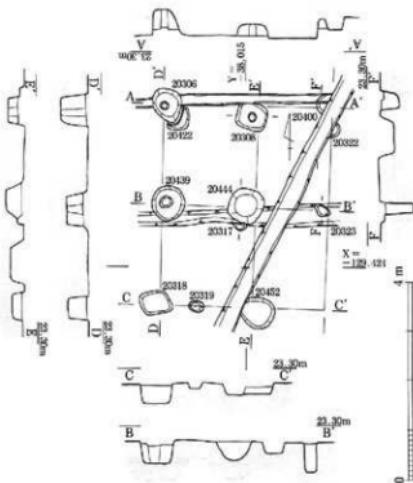
6 a 地区南東部 6 A 21 E H 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の南北棟である。規模は5.9×3.9mを測る。主軸はN-4°-Eをとる。遺物は須恵器杯・土師器壺・羽釜細片が出土している。

掘立柱建物22559（第131図）

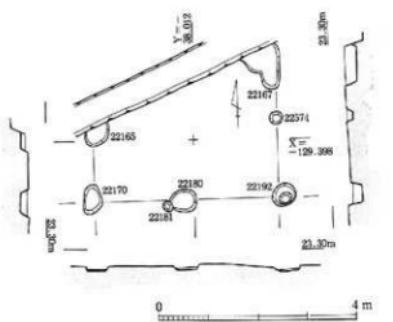
6 a 地区南東部 6 A 21 D H 近辺で検出した総柱の掘立柱建物である。4間×3間の南北棟である。規模は7.8×6.9mを測る。南側を一部削平されている。主軸はN-1°30'-Eをとる。遺物は須恵器壺、



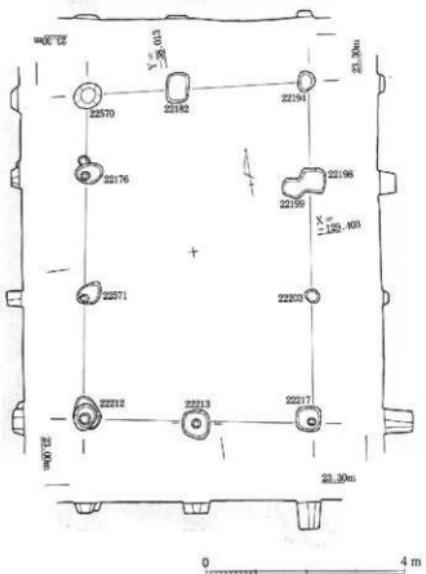
第115図 掘立柱建物20294平面・断面図



第116図 掘立柱建物20306平面・断面図



第117図 挖立柱建物22165平面・断面図



第118図 挖立柱建物22176平面・断面図

土師器壺・皿・羽釜細片が出土している。

掘立柱建物22632（第132図）

6 a 地区南東部 6 A21 E J 近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の南北棟である。規模は $6.5 \times 4.4\text{m}$ を測る。主軸は $N-7^{\circ}30'-E$ をとる。掘立柱建物22559に重なる。南側が一部削平されている。遺物は須恵器杯、杯B蓋、土師器壺細片が出土している。

掘立柱建物22651（第133図）

6 a・c 地区にかけて 6 A21 B L 近辺で検出した掘立柱建物である。4間×3間の東西棟である。規模は $10.1 \times 7.1\text{m}$ を測る。主軸は $N-5^{\circ}30'-E$ をとる。遺物は須恵器壺・甕・杯B、土師器壺細片が出土している。

掘立柱建物22653（第134図）

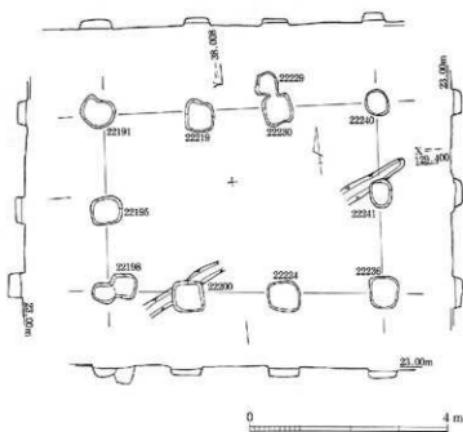
6 a 地区東部 6 A21 B J 近辺で検出した柱縦の掘立柱建物である。2間×2間で規模は $3.7 \times 3.5\text{m}$ を測る。主軸は $N-10^{\circ}-E$ をとる。遺物は須恵器杯蓋B、土師器壺・皿細片が出土している。

掘立柱建物22691（第135図）

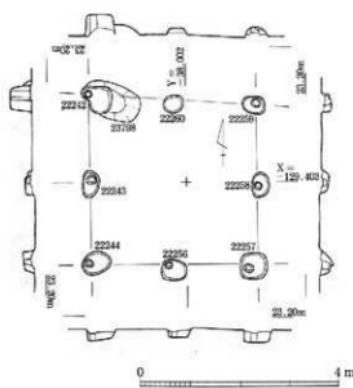
6 a 地区南東部 6 A21 D L 近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間で、規模は $4.8 \times 4.5\text{m}$ を測る。主軸は $N-4^{\circ}30'-E$ をとる。遺物は土師器壺細片が出土している。

掘立柱建物22692（第136図）

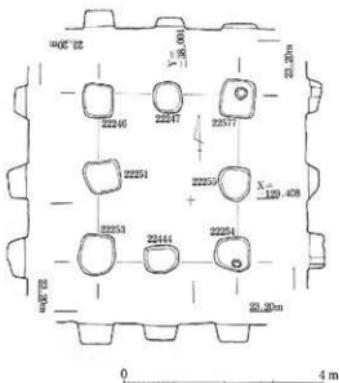
6 c 地区西部 6 A21 C L 近辺で検出した掘立柱建物である。4間×2間で、規模は $5.6 \times 4.0\text{m}$ を測る。主軸は $N-2^{\circ}30'-E$ をとる。



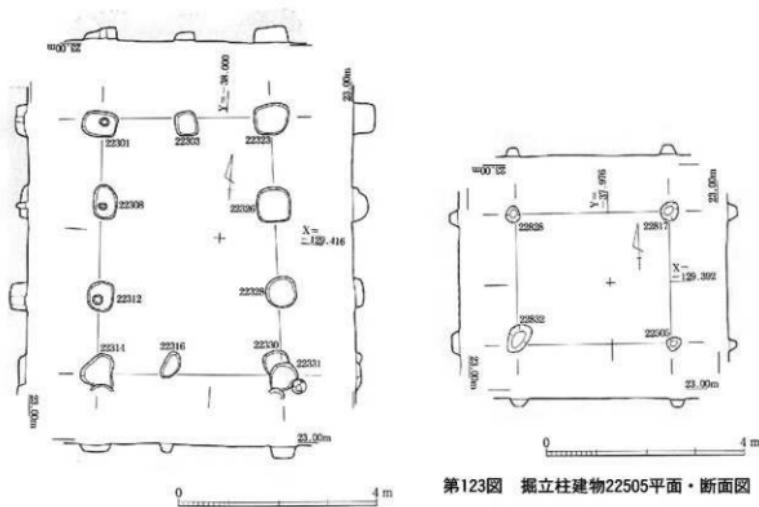
第119図 挖立柱建物22191平面・断面図



第120図 挖立柱建物22242平面・断面図



第121図 挖立柱建物22246平面・断面図

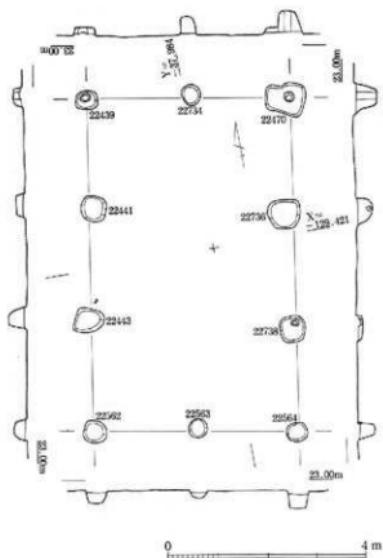


第123図 据立柱建物22505平面・断面図

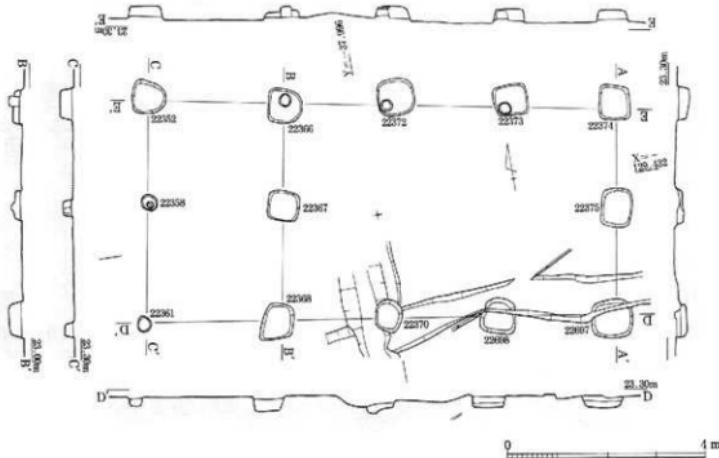
第122図 据立柱建物22301平面・断面図



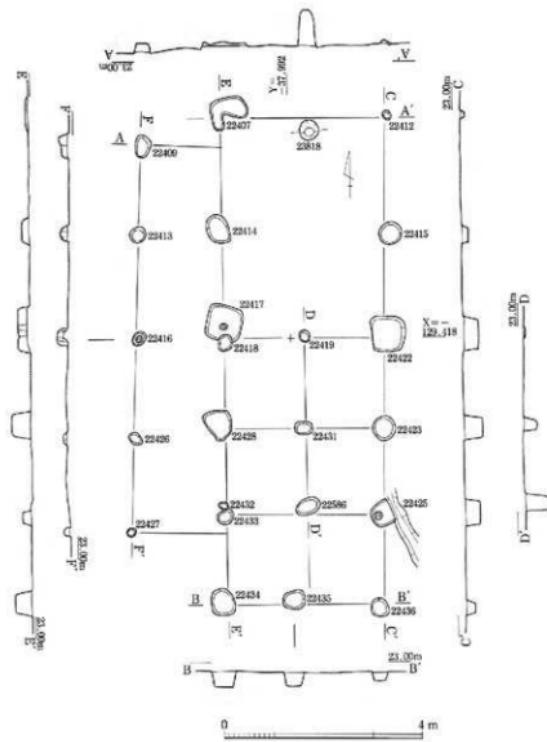
第124図 据立柱建物22439-1平面・断面図



第125図 挖立柱建物22246-2平面・断面図



第126図 挖立柱建物22352平面・断面図



第127図 掘立柱建物22407平面・断面図

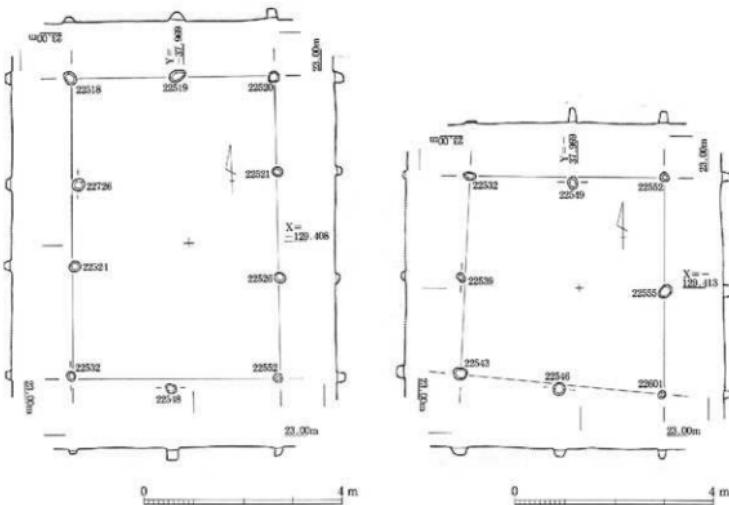
遺物は須恵器杯B、土師器甕細片が出土している。

掘立柱建物22881（第137図）

6c地区西部6A21BN近辺で検出した掘立柱建物である。3間×2間の南北棟である。規模は6.6×4.4mを測る。主軸はN-10°30'-Eをとる。遺物は須恵器甕・杯・杯B、土師器、黒色土器A類と、混入と思われる瓦器細片等が出土している。

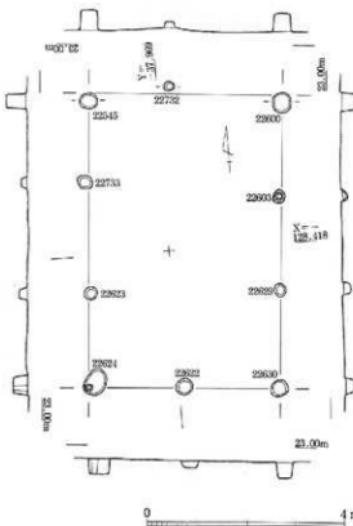
掘立柱建物22908（第138図）

6c地区西部6A21AN近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の南北棟である。規模は4.8×3.8mを測る。主軸はN-0°30'-Eをとる。遺物は須恵器甕、土師器、黒色土器A類碗細片が出土している。

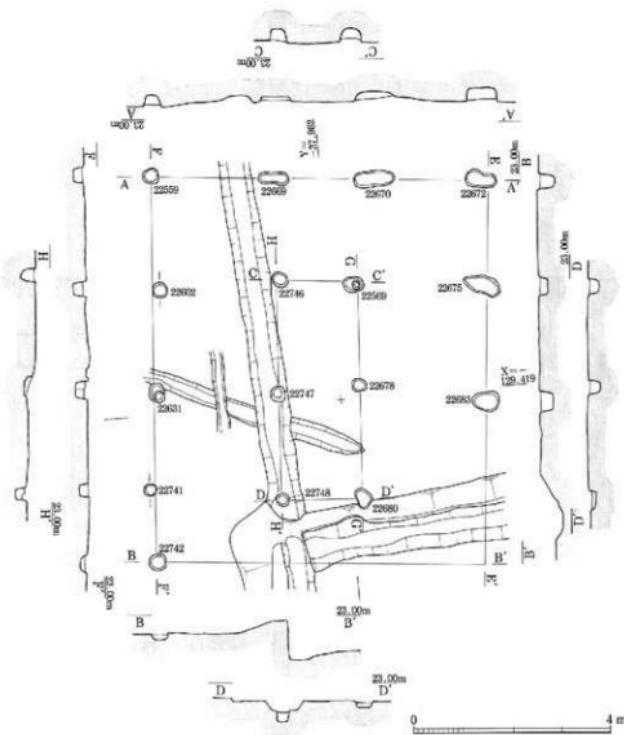


第128図 挖立柱建物22518平面・断面図

第129図 挖立柱建物22532平面・断面図

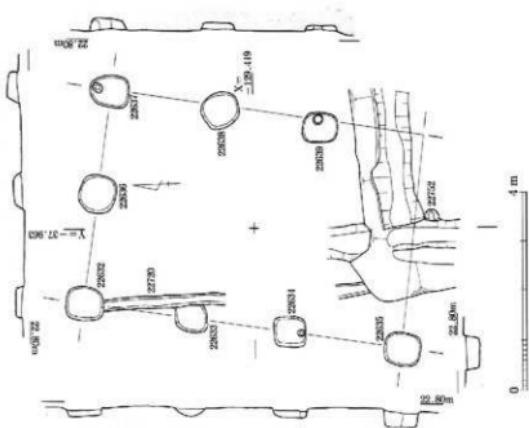


第130図 挖立柱建物22545平面・断面図

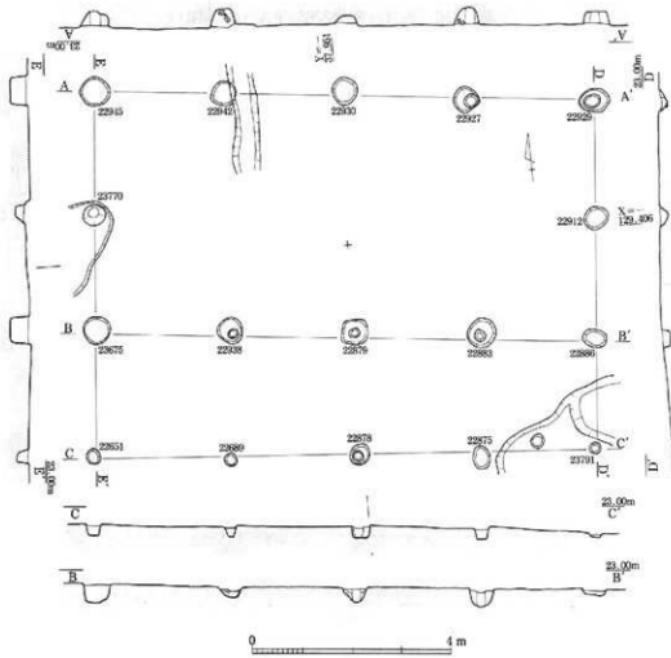


第131図 挖立柱建物22559平面・断面図

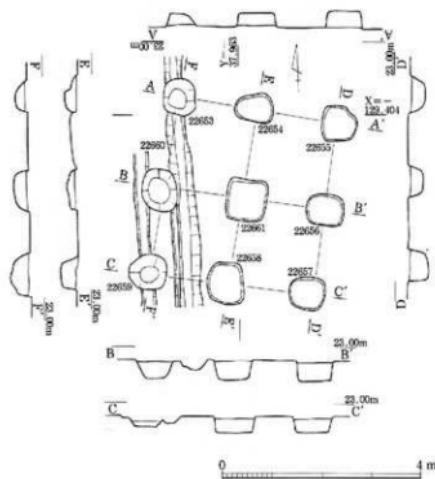
第131図 挖立柱建物22559平面・断面図



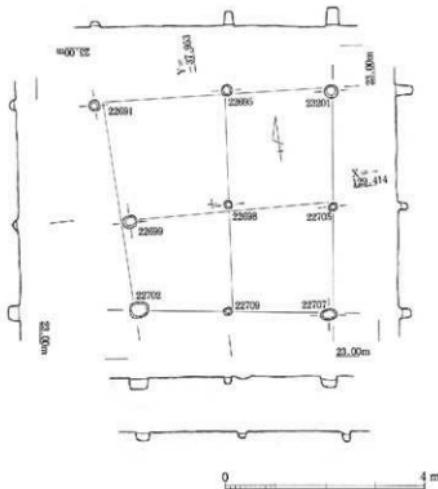
第132図 挖立柱建物22632平面・断面図



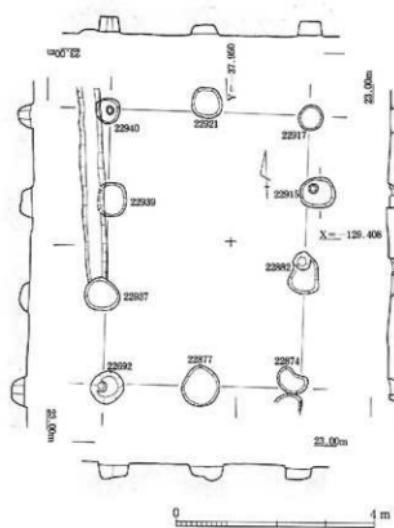
第133図 挖立柱建物22651平面・断面図



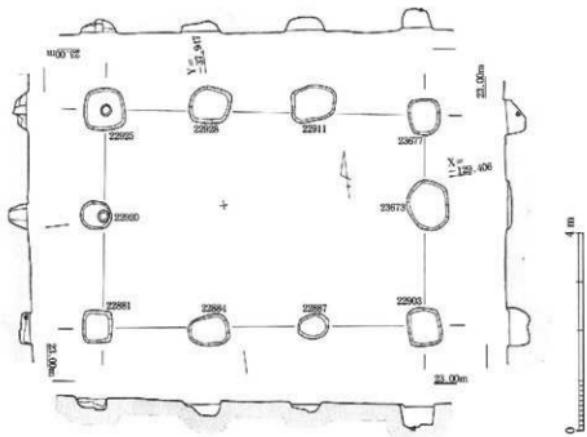
第134図 挖立柱建物22653平面・断面図



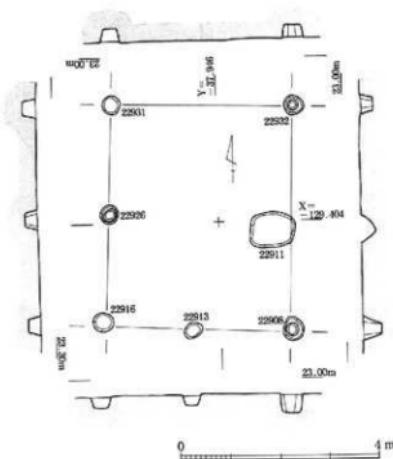
第135図 挖立柱建物22691平面・断面図



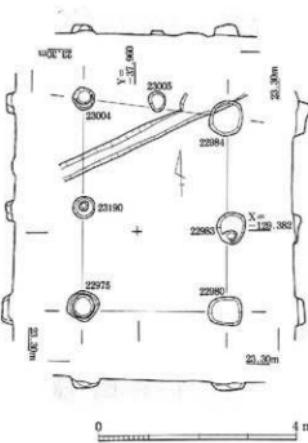
第136図 挖立柱建物22692平面・断面図



第137図 挖立柱建物22881平面・断面図



第138図 挖立柱建物22908平面・断面図



第139図 挖立柱建物22975平面・断面図



第140図 挖立柱建物23075平面・断面図

掘立柱建物22975（第139図）

6c地区北西部6A16UJ近辺で検出した掘立柱建物である。2間×2間の建物である。規模は4.3×3.0mを測る。主軸はN-0°30'-Eをとる。遺物は須恵器、土師器甕、瓦器細片が出土している。

掘立柱建物23075（第140図）

6c地区北東部6A16UL近辺で検出した掘立柱建物である。2間×1間以上の掘立柱建物である。規模は5.1×1.8m以上を測る。南側を後世の耕作地化に伴う開墾で削平されている。主軸はN-2°-Wをとる。遺物は出土していない。

掘立柱建物23077（第141図）

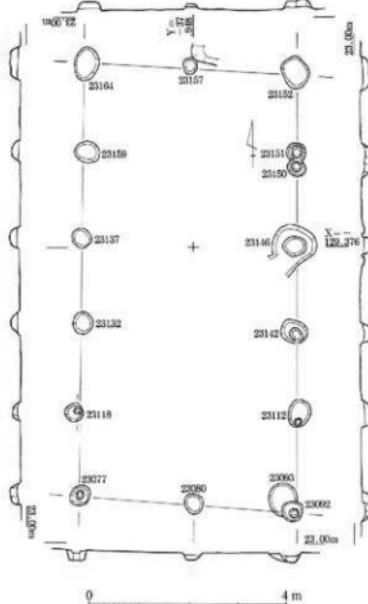
6c地区中央部北端6A16TM近辺で検出した掘立柱建物である。5間×2間の南北棟である。規模は8.9×4.5mを測る。主軸はN-0°30'-Eをとる。遺物は出土していない。

掘立柱建物23243（第142図）

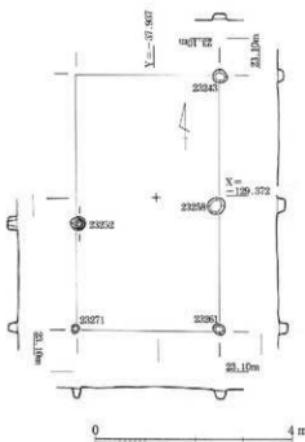
6c地区中央部北側6A16RP近辺で検出した掘立柱建物である。2間×1間の南北棟である。規模は5.2×3.0mを測る。主軸はN-2°-Eをとる。遺物は出土していない。規模、形状から見て中世の建物と思われる。

掘立柱建物23100（第143図）

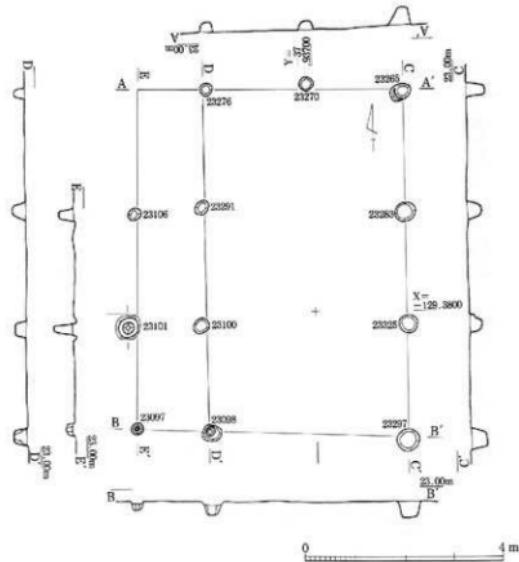
6c地区中央部6A16TP近辺で検出した掘立柱建物である。3間×3間の南北棟である。規模は7.1×5.5mを測る。主軸はN-0°をとる。西側に庇か櫻列がつく。遺物は須恵器甕、土師器甕、黒色土器細片が出土している。



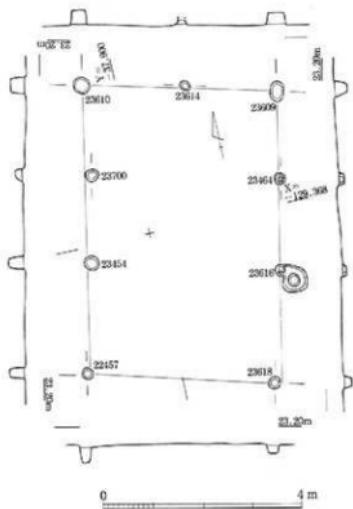
第141図 掘立柱建物23077平面・断面図



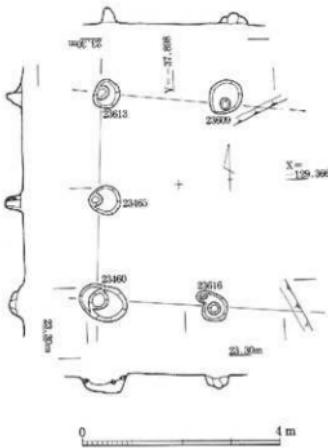
第142図 掘立柱建物23243平面・断面図



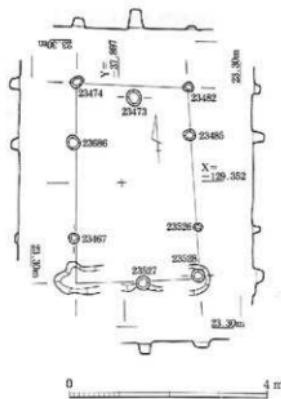
第143図 掘立柱建物23100平面・断面図



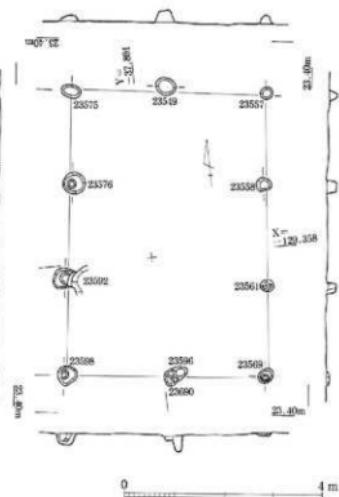
第144図 掘立柱建物23454平面・断面図



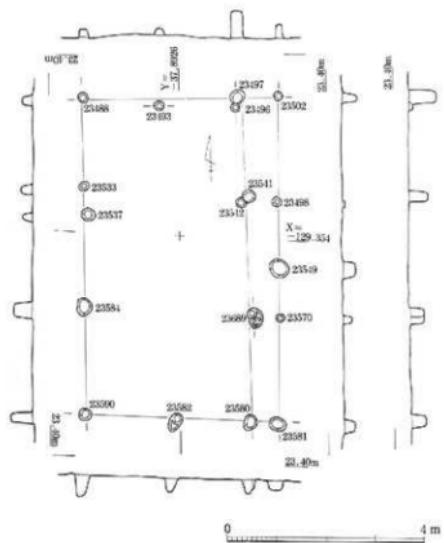
第145図 掘立柱建物23460平面・断面図



第146図 掘立柱建物23467平面・断面図



第147図 掘立柱建物23549平面・断面図



第148図 捩立柱建物23488平面・断面図